

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人にしあいづ福祉会

(1) 本部	1 ~ 7
(2) 特別養護老人ホームさゆりの園	8 ~ 24
(3) さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所	25 ~ 40
(4) さゆりの園デイサービスセンターⅡ	41 ~ 47
(5) 西会津町訪問介護事業所	48 ~ 56
(6) 西会津町居宅介護支援事業所	57 ~ 62
(7) にしあいづ地域包括支援センター	63 ~ 93
(8) 障がい相談事業所にしあいづ	94 ~ 98
(9) グループホームのぞみ	99 ~ 104
(10) 西会津町こゆりこども園	105 ~ 115
(11) 西会津町介護老人保健施設「憩の森」	116 ~ 138
(12) 「憩の森」短期入所療養介護事業所	139 ~ 148
(13) 「憩の森」通所リハビリテーション事業所	149 ~ 155
(14) 西会津町地域ふれあいセンター居住部門	156 ~ 161

令和2年度　社会福祉法人にしあいづ福祉会事業計画の報告

1 基本方針

理念・指針のもと、社会の変化と地域住民のニーズに的確に対応し、信頼され「利用したい施設NO1」、「働きたい職場NO1」を目指し、

- 1) 清潔で安全な施設
- 2) 笑顔と質の高いサービス
- 3) 健全経営

「質の高いサービス・安全安心を重視する経営」に努め、職員一丸となって、以下の重点目標に基づき事業を実施した。

2 重点目標について

(1) 地域への貢献

- ①町立小中学校 P T A の廃品回収への人的支援
 - ②介護用具の貸し出し
 - ③地域行事への参加(コロナで中止)
 - ④プラサポひだまり食堂はコロナのために中止
 - ⑤認知症カフェの開催
- ※コロナ感染防止で中止の活動もあったが、今後も地域貢献を継続していく。

(2) 人材の確保と育成

- ①退職者：介護職員4名、看護師2名、保育士2名、理学療法士1名
ネイリスト1名

新採用：介護職員7名、看護師1名、保育士1名 理学療法士1名

- ②介護福祉士試験合格3名 介護支援専門員試験合格1名

③ネイル・フットケア研修の実施、その他の研修は別紙

- ④キャリアパスの導入による人材育成。 ⑤全職員の自己評価の実施

※看護師等職員が不足しており、今後も必要な人材確保・育成に努めていく。

(3) 環境の整備

- ①施設設備の改修（トイレ等）
- ②職員の福利厚生の充実(人間ドック等)
- ③改善提案制度の活用（47件の提案）
- ⑤眠りスキャンの導入追加

※安全・安心な施設、また、働きやすい環境整備に向け更なる改善に努める

(4) 社会の変化への適切な対応

- ①働き方改革として、正職員の区別をなくし1本化した。

- ②小規模多機能型介護施設の指定管理の受託

※課題を共有し、解決のために、今後も社会の変化、職員の意見や利用者の家族のニーズ、地域の声に積極的に対応していく。

(5) 各法令への対応

- ①制度改正等を確實に把握し、遅滞なく対応し、健全経営と質の高いのサービスの提供に努めた。これからも遅滞なく対応していく。

理事会開催状況

開催通知施行年月日	開催年月日	出席者数定数	出席者の書面決議書	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の氏名	
本年度	令和2年5月7日	令和2年5月29日	6/6	なし	有価証券の資金運用報告について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福祉会事業報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会給与規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会人事考課規程の制定(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会職員希望昇任・降任制度に関する規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会職員改善提案制度に関する規程の一部改正(案)について 平成31年度社会福祉事業区分補正予算(第3次)(案)について 平成31年度公益事業区分補正予算(第3次)(案)について 平成31年度にしあいづ福祉会拠点区分決算について 平成31年度にしあいづ福祉会決算について 令和2年度公益事業区分補正予算(第1次)(案)について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について 移行時積立金及び移行時積立資産の取崩について		薄定雄
	令和2年6月29日	令和2年7月7日	6/6	なし	小規模多機能型居宅介護施設に係る指定管理申請について	薄定雄 岩原稔	
	令和2年11月18日	令和2年12月7日	6/6	なし	西会津町公の指定管理の決定について 有価証券の資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会就業規則の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会給与規程の一部改正(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第2次)(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分補正予算(第2次)(案)について	薄定雄 岩原稔	
	令和3年2月10日	令和3年3月9日	6/6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会定款の一部改正(案)について	薄定雄 岩原稔	

開催通知施行年月日	開催年月日	出席者数定数	出席者の書面決議書	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の氏名
				社会福祉法人にしあいづ福社会評議員の選任・解任委員会委員報酬規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福社会就業規則の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福社会給与規程の一部改正(案)について 移行時積立金及び移行時積立資産の取崩について 社会福祉法人にしあいづ福社会運営規程の制定(案)及び一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福社会苦情解決第三者委員会要項の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福社会経理規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福社会公印文書管理規程の一部改正(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福社会社会福祉事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福社会公益事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福社会事業計画(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福社会社会福祉事業区分予算(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福社会公益事業区分予算(案)について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について		

評議員会開催状況

開催通知施行年月日	開催年月日	出席者数 定数		議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の氏名
	令和2年5月29日	令和2年6月17日	8／8	有価証券の資金運用報告について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福祉事業報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会役員等報酬規程の一部改正(案)について 平成31年度社会福祉事業区分補正予算(第3次)(案)について 平成31年度公益事業区分補正予算(第3次)(案)について 平成31年度にしあいづ福祉会拠点区分決算について 平成31年度にしあいづ福祉会決算について 令和2年度公益事業区分補正予算(第1次)(案)について		薄 定雄 岩原 稔
本年度	令和3年3月4日	令和3年3月30日	7／8	社会福祉法人にしあいづ福祉資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会定款の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会役員等報酬規程の一部改正(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第2次)(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分補正予算(第2次)(案)について 令和3社会福祉法人にしあいづ福祉会事業計画(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分予算(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分予算(案)について	荒海孝子	

1. 施設外研修

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	令和2年度 福島県認知症対応型 サービス事業開設者 研修	認知症高齢者の基本的理解 家族の理解・高齢者との関係理解 認知症高齢者のケアのあり方 労働環境について 他	業務執行理事	若林陽三	令和2年9月1日 ～2日	福島県男女共生 センター	
2	令和2年度 社会福祉法人監事研修	社会福祉法人監事が担う実務の基本と監事監査 のポイントについて	監事	薄 定雄 岩原 稔	令和2年10月26日	郡山 ユラックス熱海	
3	令和2年度 キャリアパス制度理解 研修のシンポジスト	事例発表	副施設長 事務課長	伊勢亀久美子 津川修二	令和2年10月26日	ウィル福島 アクティおろしまち	
4	令和2年度 社会福祉法人理事研修	これからの中社会福祉法人経営と理事の役割	理事長 業務執行理事 理事 理事 理事	廣瀬 涉 若林陽三 物江正俊 嶋田純子 渡部英樹	令和2年11月18日	ピッグパレット ふくしま	
5	令和2年度 社会福祉法人評議員 研修	社会福祉法人の責務と評議員の役割		芳賀 明 佐藤トミ子 荒海幸子 山口政信 藤田耕栄 佐藤新一 佐藤健一	令和2年12月11日	郡山 ユラックス熱海	
6	令和2年度 社会福祉法人事務長 研修	社会福祉法人会計の目的及び事務長等の役割 等について	事務課長 事務員	津川修二 伊藤智美	令和2年12月23日	郡山 ユラックス熱海	復命書

2. 施設内研修

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	ネイリスト研修	徒ハンサムウーマン ハイジェネリック	ネイリスト	4	令和2年4月30日		

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
		ネイリスト育成講師 厚谷禎子氏		4 2	令和2年5月15日 令和2年7月29日 令和2年8月5日 令和2年10月28日 令和2年11月9日		
2	キャリアパス全体説明会	株エイデル研究所 経営支援部 コンサルタント 魔木大輔氏	副係長以上	26	令和2年6月1日	さゆりの園ディ サービスセンター Ⅱ	
3	キャリアパス人事考課者研修会	株エイデル研究所 経営支援部 コンサルタント 魔木大輔氏	副係長以上	24	令和2年6月1日	さゆりの園ディ サービスセンター Ⅱ	
4	令和2年度 キャリアパス考課者研修	6月1日開催時のビデオ研修	新リーダー以 上の役職者		令和2年9月7日 令和2年9月14日	さゆりの園ディ サービスセンター Ⅱ	
5	令和2年度 介護技術指導者向け 研修	一般社団法人ふくしまをリハビリで元氣にする会 理事長 作業療法士 岡本宏二先生	別紙				

令和2年度 介護技術指導者向け研修会の実施記録集計

目的:	令和2年度から開始されるキャリアパスの運用にあたり、介護技術における指導の役割を担う係長・副係長等の職位を対象に、OJTを行う上での介護スキルと指導スキルの向上を図る。 ※介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサー(評価者)が用いる基本介護技術の評価項目も考慮して実施していく。
-----	--

令和2年度 介護技術指導者向け研修会の日程

月	日	曜日	主な研修会内容 (各事業所からの事例検討、実技演習を含む)	参加者(名)
5月	26日	火	基本動作、ADL、IADLとは	14
6月	23日	火	移乗・移乗・体位変換(寝返り・起き上がり・体位変換の方法と意味)	14
7月	28日	火	移乗・移動・体位変換(ベッド上の介護:ポジショニング、拘縮と嚢腫 ①)	10
8月	25日	火	移乗・移動・体位変換(ベッド上介護:ポジショニング、拘縮と嚢腫 ②)	12
9月	29日	火	移乗・移動・体位変換(離床時の介護:トランクスファー、歩行 異常の効果的意味 ①) ※9/22(火)が祝日(秋分の日)のため、9/29(火)に実施	14
10月	27日	火	移乗・移乗・体位変換(離床時の介護:トランクスファー、歩行 異常の効果的意味 ②)	15
11月	24日	火	食事介助について ①	14
12月	22日	火	食事介助について ②	14
1月	26日	火	排泄介助について	13
2月	22日	月	入浴介助について ※2/23(火)が祝日(天皇誕生日)のため、2/22(月)に実施	13
3月	23日	火	更衣・整容介助について	15

延べ人数148名

日時:	第4火曜日 18:00~19:30 (質疑応答・相談含む)
場所:	「憩の森」 デイケア室
講師:	岡本宏二先生(作業療法士、一般社団法人ふくしまリハビリで元気にする会理事長)
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・さゆりの園(介護係長、介護副係長2名、中田OT) ・デイサービスセンターⅡ(係長、副係長) ・憩の森(介護係長、介護副係長、リハビリ係長、長嶋OT、遠藤PT、赤城PT) ・デイケア(係長) ・訪問介護(管理者、副管理者) ・グループホームのぞみ(管理者)

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：法人全体

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度(接遇)	サービスの質(内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害事故	その他	
申立者	利用者	0	4	2	0	0	0	0	6
	家族	2	1	3	0	0	0	0	6
	その他	1	1	0	0	1	0	0	3
合計		3	6	5	0	1	0	0	15

2. 苦情解決状況

		苦情解決責任者	第三者委員へ通知	行政へ通知	県運営委員へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		3	0	0	0	0	0	3
職員の態度(接遇)		6	0	0	0	0	0	6
サービスの質(内容)		5	0	0	0	0	0	5
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		1	0	0	0	0	0	1
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		15	0	0	0	0	0	15

令和2年度 特別養護老人ホームさゆりの園事業報告書

〈 事業の概況 〉

令和2年度は、運営方針・基本方針に従い、施設サービス計画に基づき入所者が有する能力に応じ、満足感のある日常生活を営むことが出来るよう、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

又、年度内で19名と多くの入退所があったが、入所優先順位決定過程の透明性と公平性に基づき、真にサービスを必要とする者の円滑な施設入所に資すると共に、スムーズな入所待機の解消に努めてきた。

そして、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として新たなマニュアルを整備し、感染予防の徹底と感染症を持ち込まない対策は基より、高齢者施設におけるクラスター予防としての初動対応シミュレーション等に尽力してきた。合わせて、当初の事業計画重点目標についても、この時世に合わせ行動計画を一部修正しながら実践してきた。

7月からは法人でキャリアパス制度を導入したことで、各職員が各自の職責に基づき目標達成に向けた行動ができるよう、制度の理解を深め少しづつ機能させていく取り組みをしているところである。

〈 重点目標についての評価 〉

1. 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none">利用者との定期面談については予定通り実施できた。利用者が感じている本音、思いや望む生活について考察と共に記録として見える化してきた。その中で利用者個々の希望を少しでも実現する為に施設サービス計画に立案し、楽しみや生きがいを持ち続け、願いが少しでも叶う施設生活となることを目標に支援してきた。現在のコロナ禍において、当初予定していた外出や活動、地域との交流は自粛せざるを得なかつたが、可能な範囲での嗜好品や趣味活動の提供、パネルや窓越し、オンラインを活用して大切な方との交流機会を設けてきた。 <p>結果、利用者の思いに少しでも寄り添う支援として、多くの笑顔が見られたと感じる。ただ、それは一部であり、特に自身の思いを表現しづらい方へのQOL向上の取り組みについては、更なる工夫が必要である。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none">安心感を提供できる看護を目指し、健康不安だけでなく利用者の様々な心配事の訴えに対し、立ち止まり傾聴する意識で関わってきた。新型コロナウイルス感染予防での面会制限で、直接的にご家族とコミュニケーションを図れる場面はあまりなかった。ただ、終末期等の緊急やむを得ない状況時には、感染予防対策をした上で出来る限り大切な方と会っていただけるよう環境づくりや、ご家族等の不安感を少しでも和らげるような説明等関りを持ってきた。 <p>看取りケアの振り返りにおいて全ての評価は出来ていないが、上記を実践した結果「このご時世の中で、出来る限りのことをして頂いて私も母も幸せでした」との言葉も頂けたこともあり、意識した取り組みとしては効果が感じられた。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none">先進施設へ見学に行き学んできたことを参考にした「元気体操」を毎日実施できている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・塗り絵やパズル等、個々の趣味の希望に合わせ、楽しめる活動の提供を実施した。 ・新型コロナウイルス感染予防で思うような外出が難しい中で、希望を伺いながら時々出前やテイクアウト等で好きな物を食べて頂くことが出来た。 ・経管栄養の方に対しても、月に1回は離床して居室外で過ごす時間を作り、リハビリスタッフと協力しながらタッピングケアやリハビリを実施している。 ・地域の方と交流することが出来ない状況の中で、施設内各所に四季折々の装飾をし、雰囲気を楽しんで頂く工夫を行った。 <p>結果、活動内容によっては一部の利用者参加が中心となってしまうものもあったが、全体で行える体操などは、普段活動性の低い方も音楽を耳にするだけで身体を動かす方も多くなってきており、表情もよく楽しく参加できているようである。又、施設内の装飾も立ち止まって見入っている方などもいるので、施設生活の中の楽しみの一つとして定着している状況である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・各棟で週1回ずつ集団体操を定期的に実施継続できている。ただ、少人数での個別に合わせた少人数での活動提供はほとんど実施することが出来なかつた。 ・散歩やドライブの外出活動については余暇計画で立案はあったが、天候や気候、人員不足等様々な理由で計画倒れも多く、活動する機会は計画より少なかつた。 <p>上記について実施した結果、今まで活動性が少なかった方、訓練室に来てまでのリハビリには拒否がある方でも、身近な生活空間で実施することで多くの利用者に参加を促すきっかけ作りが出来た。ただ、外出支援について振り返ると、もう少し自ら何らかの働きかけや行動が必要だったと感じている。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種や居室担当介護員からの聞き取りや、日々のケース記録及び毎月の梅瘡委員会での評価において、利用者の現状や日々の変化については確認できている。ただ、その内容について多職種と様々な側面から効果的な方法を検討するため、当初予定していたスククリーニング・モニタリング様式作成までには至っていない。 <p>結果、アセスメントについては出来ているが、利用者の質向上につながる、より効果的な新しい取り組みの実践は出来ていないため、次年度も継続目標としていく。</p>

(2) 認知症ケアと権利擁護の意識向上

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期では権利擁護の啓発と意識向上を含めてコンプライアンス研修を実施した。 ・下半期では認知症ケアの焦点を置いた施設内事例検討会を実施した。 <p>結果、認知症ケアにおいて時に「大変だ」という思いが強かった職員の意識も変化し、様々なケアの工夫をしたり、以前より余裕を持った対応が出来ているように感じる。又、職員の関わりの意識そのものに変化が見られ、職員間で「事例検討会をやって良かった」との声もあり、一定の効果は得られたと思われる。ただその反面、入所者処遇においての苦情も受け付けた経過もあった。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、外部の集合型研修の参加はなかつたが施設内で開催した勉強会や、動画配信研修には参加し理解を深めた。 ・ユマニチュード技法の中で見る、聞く、触れる等取り入れられるものは実践した

	<p>が、定着するまでには至らなかった。</p> <p>結果、係の中で改めて認知症ケアと権利擁護の意識向上について確認できた。ユマニチュード技法の浸透については、各係と共にもう少し具体的な取り組みをしていく必要がある。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護認知症ケア推進委員会で勉強会を企画、実施し、理解を深め機会づくりを行った。 ・認知症ケアの取り組みとして、共用の場であってもその方が落ち着ける場の提供等環境づくりをし、心地よく過ごせるような生活の場の提供について工夫した。 ・ユマニチュード技法を意識してケアに取り入れていた職員の姿も見られたが、勉強会の実施や浸透させる具体的な取り組みまでには繋がらなかった。 ・事例検討会では一人の認知症利用者を掘り下げることで、認知症ケアの理解を深めることができた。 ・認知症の利用者に対しての接遇やケアに対し、利用者本人からの不満や苦情に繋がってしまったことがあった。 <p>結果、生活環境づくりの工夫においては、今までより自分の落ち着ける場を感じて頂ける利用者が数人いる状況である。認知症ケアやその理解については、勉強会や事例検討会での気づきを日々のケアに活かし、目の前の大変さだけでなく一人の利用者に寄り添う対応ができる職員が増えている。その半面、認知症や権利擁護に対しての理解が不十分な為か苦情に至ったケースもあった為、今後も意識向上につながる具体的取り組みが課題である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・自身ではユマニチュード研修で学んだ、見る・話す・触れるに関して日々の関わりの中で少しずつ実践できた。ただ、研修で得た知識を施設の認知症ケアの推進として、多職種間で実践していく取り組みまでは行えなかった。 ・認知症ケアの知識を深める研修の参加については、コロナ禍の影響で外部研修の多くが動画配信型の研修になったことで、自身も含め多くの職員が普段参加の難しい様々な研修を受けることができた。 <p>結果、研修で学んだことを施設内で推進し、それが日々のケアで皆が意識して取り組む認知症ケアの実践は不十分となった。ただ、コロナ禍の中、今まで以上に学びを得ることが出来た動画配信型の研修会に、多くの方が参加できたことはプラスになつたと思う。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・「口から最後まで食べる楽しみをあきらめない」取り組みとして、調理技術の専門研修受講の計画をしていたが、コロナ禍の中で外部の調理技術研修の参加は出来なかつた。代わりに「安全に食べて頂く為の研修会」を企画し、福祉会栄養係全員参加で実施した。 ・口から食べる=人生の楽しみにつながるということを深く考える機会を持ち、楽しみや幸せを考えた栄養マネジメントと調理の実践として、嚥下困難な利用者に「安全で美味しいソフト食の提供」をテーマに、食事提供前には調理員全員で盛り付けのチェックと実際に食べてみての嚥下の確認について手順に追加した。 <p>上記を実践したが、現時点では利用者にとって食の幸福感や意識が高揚するような取り組みまでには至らなかつた。次年度は具体的な取り組みを実践していく。</p>

(3) 職員の働きがいのある風土づくりと、OJT 実践の強化

職種	評価
相談	昨年 7 月から法人のキャリアパス制度の運用が開始となり、大規模事業所である当施設では新たに介護リーダーが位置付けられた。キャリアパス運用上において介護リーダーは OJT リーダーを担う為、その役割や家業を明らかにするための打合わせを実施し、どう行動すべきかについて明確にし、日々の OJT で実践してきた。ただ、まだまだキャリアパスが効果的に機能している状態とは言えず、より具体的な OJT の実行方法について検討が必要である。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・業務時間内に必要な業務が終わることを目標に、互いに声を掛け協力し合ってきた。ただ、ライフワークバランスを意識しての業務改善まで介入することは出来なかつた。 ・キャリアプランの作成については、年度途中で法人のキャリアパス制度が運用となつた為、そこで面接を交えながら各々が具体的に目標設定できた。 <p>業務改善については、次年度の取り組みに向け話し合いを進めている状況。キャリアパスにおいての目標設定については、今まで実施できていなかつた職員との面接を通して、業務内容だけでなく思いや悩みを共有する機会が持てたことで、今までより各自の労働意欲向上に繋がつたと思う。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスの運用で職員との面接の機会を持つことができ、普段なかなか業務の中で感じ得ない職員の思いを確認することができた。 ・目標設定についてもキャリアパスの運用で、職員各々がより具体的に策定できた。業務を含め様々な思いや悩みを確認することができ、課題に対してどう解決に近づけていくかを、その職員と共に考え導いていく機会づくりに繋がつた。又、以前よりお互いが専門性をもって、意見を出し合つたり注意し合える場面が増えたように感じる。結果、面接を通じて職員の業務に対するモチベーションを高めることにつながつたと思われる。ただ、まだリーダーの OJT リーダーとしての取り組みの具体性がはつきりしていない現状がある。
機能訓練	昨年と比較すると、福祉用具の活用やポジショニング等の介入をきっかけに、他職種と相談しあいの専門性を擦り合わせながら、課題解決に向けて相談していく機会を増やせた。結果、明らかになつた課題について自身だけで悩まず、多職種で介入することで解決できることが増えたので、連携が密になってきたと思う。
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員を含む栄養に関わる職員が、利用者の嗜好や意見等について、統一して分かりやすく聞き取りが出来るよう、「聞き取りポイント表」を作成し、現在実践している。 <p>その結果、調理員も利用者の氏名や顔が分かるようになり、利用者から生の声で食事の感想を伺う機会が増えた。利用者の食べている時の笑顔を見たり状況を確認することで、調理や盛り付けの意識が職員各々の中で高まつてきている。</p>

<令和2年度のボランティア活動実績>

※新型コロナウイルス感染症対策で、基本的に館内でのボランティア活動は中止している状況

1) 隨時

ボランティア名	活動内容	活動日
東北電力会津若松支社	施設周囲のクモの巣取り、落葉集め	R2.11.19
会津ダム管理センター阿賀野川ダム管理所		

<令和2年度の実習生受け入れ実績>

受入日時	実習者名や団体名
令和2年 11月 16日	介護職員初任者研修（平野穂、斎藤杏実）
令和2年 11月 18日	介護職員初任者研修（加藤博之、須藤リキ子）
令和2年 11月 20日	介護職員初任者研修（五十嵐すが子、佐藤玲子）
令和2年 11月 25日	介護職員初任者研修（大山諒、須藤由美子）

入所者の状況（令和3年3月31日現在）

※令和3年3月31日現在で、入所者50名

(1) 年齢別性別入所者状況

単位：人

	~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	計
男	3	0	1	3	0	0	2	2	0	11
女	0	4	0	2	2	10	15	6	0	39
計	3	4	1	5	2	10	17	8	0	50
比率%	6	8	2	10	4	20	34	16	0	100

平均年齢： 85.8歳 (最高 99歳 最低 63歳)

(2) 出身市町村別

単位：人

	男	女	計	比率%
西会津町	10	36	46	92
会津若松市	1	0	1	2
喜多方市	0	1	1	2
会津美里町	0	1	1	2
大熊町	0	1	1	2
計	11	39	50	100

(3) 在所期間状況

単位：人

	1年未満	1~3年	3~5年	5~10年	10~15年	15~20年	20~25年	計
男	4	2	1	4	0	0	0	11
女	14	10	9	3	2	0	1	39
計	18	12	10	7	2	0	1	50
比率%	36	24	20	14	4	0	2	100

平均男性 3年6ヶ月

平均女性 3年2ヶ月

全体平均 3年3ヶ月

最高男性 7年2ヶ月

最高女性 23年3ヶ月

(4) 新規入所状況（令和2年度）

単位：人

	自宅より	介護老人保健施設より	病院より	有料老人ホーム	介護福祉施設	計
男	4	0	0	0	1	5
女	3	2	4	3	2	14
計	7	2	4	3	3	19

(5) 退所状況（令和2年度）

単位：人

	死亡	施設看取りでの死亡	家族引取り	長期入院のため	他の施設へ移動	計
男	0	5	0	0	0	5
女	5	9	0	0	0	14
計	5	14	0	0	0	19

(6) 介護度区分状況（令和3年3月31日現在）

単位：人

	男	女	計	比率(%)
介護1	1	0	1	2
介護2	0	1	1	2
介護3	3	4	7	14
介護4	4	19	23	46
介護5	3	15	18	36
更新申請中	0	0	0	0
計	11	39	50	100

介護度平均 4.1

(7) 介護状況（令和3.3.31現在）

①食事摂取動作状況

単位：人

	男	女	計	%
自立	8	15	23	46
一部介助	0	10	10	20
全介助	3	10	13	26
経管栄養	0	4	4	8
計	11	39	50	100

②行動

単位：人

	男	女	計	%
寝たきり	0	4	4	8
車椅子（自立）	8	5	13	26
車椅子（介助）	3	28	31	62
歩行器等使用	0	2	2	4
一人歩き	0	0	0	0
計	11	39	50	100

③排泄状況

単位：人

	性別	日中	計	%	夜間	計	%
オムツ使用	男	5	36	72	7	41	82
	女	31			34		
誘導(トイレ・便器使用)	男	5	13	26	3	8	16
	女	8			5		
自立(トイレ・便器使用)	男	1	1	2	1	1	2
	女	0			0		
計		50	50	100	50	50	100

④入浴状況

単位：人

	男	女	計	%
一般浴	0	2	2	4
中間浴	9	26	35	70
機械浴	2	11	13	26
計	11	39	50	100

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理の基礎を理解する 組織の一員としてのフォローワーシップの醸成 対人関係マナーとコミュニケーション 講師 福島県社会福祉協議会 高岡寿哉 氏 福祉職員として成長するために 問題解決と実践研究の進め方の基礎 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 ケアレジデンス小名浜 大和田武士 氏	介護員	大八木辰巳	R2.8.5~7	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
2	新型コロナウイルス感染症対策風の緊急特別応援「ふんわりチャンポン大作戦」	基本的な知識の確認 PPEの着脱、手指消毒の解説・実践 現在行っている対策の確認、簡単な評価、解説 オンライン体験	看護副係長	仲川公子	R2.8.11	風に立つライオン基金 西会津町公民館	復命書 職員会議にて発表
3	新型コロナウイルス感染症対策風の緊急特別応援「ふんわりチャンポン大作戦」	基本的な知識の確認 PPEの着脱、手指消毒の解説・実践 現在行っている対策の確認、簡単な評価、解説 オンライン体験	介護リーダー	齋藤まき	R2.8.11	風に立つライオン基金 西会津町公民館	復命書 職員会議にて発表
4	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理の基礎を理解する 組織の一員としてのフォローワーシップの醸成 対人関係マナーとコミュニケーション 講師 社会福祉法人みしま 泰千代栄 氏 福祉職員として成長するために 問題解決と実践研究の進め方の基礎 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉協議会 伊藤忠伯 氏	介護員	佐川寿美	R2.9.9~11	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
5	社会福祉施設等における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための研修会	新型コロナウイルス感染症の基本的事項と感染拡大防止のための注意点 防護服の着脱方法 障がい者支援施設における新型コロナウイルス感染症発症時の具体的な対応事例 他	看護副係長	仲川公子	R2.9.16	会津保健福祉事務所 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
6	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修	チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成 OJTの効果的推進 意図的・計画的職員指導・育成の展開 講師 福島市社会福祉協議会 遠藤潔 氏 チームで問題解決に取り組み、その先頭に立つ 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉事業団 八巻正男 氏	介護リーダー	石川修	R2. 9. 24~25	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
7	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修	チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成 OJTの効果的推進 意図的・計画的職員指導・育成の展開 チームで問題解決に取り組み、その先頭に立つ 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉協議会 村島克典 氏	介護リーダー	齋藤まき	R2. 9. 30~ 10. 1	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
8	令和2年度喜多方地方定住自立圏認定調査員合同勉強会	介護保険事業状況等について 認定調査票（特記事項）記載ポイント 認定調査に関する問題出題	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R2. 11. 11	西会津町 喜多方プラザ	復命書 職員会議にて発表
9	福島県認知症介護実践者研修	認知症ケアの基本的視点と理念・倫理 認知症の人の理解と対応・医学的理解・権利擁護 認知症の人の家族への支援方法・生活環境づくり 地域資源の理解とケアへの活用 認知症の人とのコミュニケーションの理解と方法 認知症の人への非薬物的介入方法 認知症の人への介護技術Ⅰ・Ⅱ アセスメントとケアの実践の基本Ⅰ・Ⅱ 自施設実習・評価	介護員	瓜生彩香	R2. 10. 20~21 R2. 10. 26~28	福島県 福島県文化センター	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
10	令和2年度高齢者権利擁護等推進事業看護実務者研修	介護保険制度と看護職員の役割 高齢者の心身の理解 認知症高齢者の理解と看護 高齢者虐待防止法 講師 池田医院 本田智博 氏 利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護 講師 メイアイヘルプユー 鳥海房枝 氏	准看護師	伊藤美和子	R2. 11. 25~26	福島県 看護会館みらい	復命書 職員会議にて発表
11	感染予防Play!	感染予防ロールプレイ 感染予防の基礎知識 オリジナル感染予防策の作成	介護副係長	須藤正子	R2. 12. 11	西会津町 役場大会議室	復命書 職員会議にて発表
12	福島県認知症対応型サービス事業管理者研修	介護保険の現状と指定基準 労働基準法に基づいた介護従事者の労務管理 地域密着型理念と実際の取り組み 家族を含めた生活圏域の中で暮らす連携 権利擁護と地域密着型サービスの役割 地域密着型サービスにおける人材育成	介護員	佐藤康弘	R3. 3. 2~3	福島県 男女共生センター	復命書 職員会議にて発表

令和2年度 施設職員の研修状況(さゆりの園)

イ 施設内研修状況

研修名		研修内容	発表者・講師等	参加職種	参加人数	期間	研修結果の周知方法
施設内研修 (全職員対象)	1	新型コロナウイルス感染発生時に向けて個人防護具の正しい着脱仕方講習会	感染対策委員会	全職員	45名	R2.5.7 R2.5.8	実技訓練 振り返りシート
	2	コンプライアンス研修(さゆりの園ショートステイ利用契約書・重要事項説明書について)	生活相談員 大田真紀	全職員	28名	R2.5.7	資料全員配布
	3	令和2年度医務担当職員研修会(動画配信) 「高齢者介護施設における感染対策」「新型コロナウイルス感染症」	竹田総合病院 感染管理認定看護師:高橋久美子氏、田中さゆり氏	全職員	56名	R2.8.6 R2.8.12 R2.8.25 R2.8.28	動画配信 資料配布 振り返りシート
	4	ティーチング・コーチングについて	Aグループ(伊藤豊治、三浦慶子、渡部美穂子、江川正樹、須藤正子) ※OJT委員会委員会主催	全職員	28名	R2.9.8	資料全員配布 振り返りシート
	5	令和2年度認知症ケア研修会(動画配信) 「中核症状と行動・心理症状の基本的理解について」	グループホームすずらんあかり 上級認知症ケア専門士 横本好博 氏	全職員(希望者)	10名	R2.9.10	動画配信 資料配布 振り返りシート
	6	令和2年度生活相談員研修会(動画配信) 「高齢者虐待と身体拘束研修会」	東日本国際大学健康福祉学部教授 松本喜一 氏	全職員	57名	R2.9.17 R2.9.18 R2.9.23 R2.9.24	動画配信 資料配布 振り返りシート
	7	報告・連絡・相談の基本について	Bグループ(神田晃太、瓜生彩香、伊勢亜貴裕、齋藤良平、大八木辰巳) ※OJT委員会委員会主催	全職員	28名	R2.11.5	資料全員配布 振り返りシート
	8	令和2年度機能訓練担当職員研修会(動画配信) 「関節拘縮への対応」	一般社団法人ふくしまをりハビリで元気にする会 理事長 岡本宏二 氏	全職員(希望者)	16名	R2.11.20	動画配信 資料配布 振り返りシート
	9	感染予防対策研修会	感染対策委員会	全職員	58名	R2.11.24 R2.11.25 R2.11.26 R2.11.27	マニュアル配布 実技訓練 振り返りシート
	10	ターミナルケアマニュアルの修正・読み合わせ	介護支援専門員兼生活相談員 伊藤豊治	全職員	26名	R2.12.4	資料全員配布
	11	新型コロナウイルス感染症初動対応シミュレーション	感染対策委員会	全職員	38名	R3.1.25 R3.1.27 R3.1.28 R3.3.8	実技訓練 振り返りシート

	12 看取りケアについて	Cグループ(石川美智子、中田菜津美、豊島純子、鈴木芳夫、青澤千恵) ※OJT委員会委員会主催	全職員	23名	R3.2.5	資料全員配布 振り返りシート
	13 災害・リスク対策研修会(動画配信) 「高齢者施設における、今のリスクとヘッジのかけ方」	株式会社福祉リスクマネジメント研究所 所長 鳥野猛 氏	全職員(希望者)	15名	R3.2.9	動画配信 資料配布 振り返りシート
	14 合同夜間避難説明・通報訓練	防火管理車輛除雪委員会	介護員	18名	R2.8. 4 R2.11. 27	実践訓練
施設内研修 (直接通過職員対象)	1 公用車の使用方法等の説明会	事故予防対策委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	21名	R2.6. 16 R2.6. 17	実技
	2 「エアマットの種類と特徴」	機能性寝具入浴改善委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	22名	R2.6.18	資料全員配布 振り返りシート
	3 「身体拘束禁止に関する指針」「虐待予防マニュアル」の読み合わせ	権利擁護認知症ケア推進委員会	全職員	57名	R2.6.18	マニュアル確認
	4 令和2年度施設ケアマネ研修会(動画配信) 「生活支援に活かすケアマネジメント～施設ケアマネジャーに求められる思考と行動～」	社会福祉法人 東白川福社会 相談役 菅原俊博 氏	ケアスタッフ会議 メンバー	20名	R2.8.18	動画配信 資料配布 振り返りシート
	5 「介護事故予防マニュアル」の見直し・読み合わせ	事故予防対策委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	23名	R2.8.18	マニュアル確認
	6 「介護事故発生時対応マニュアル」の見直し・読み合わせ	事故予防対策委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	19名	R2.9.15	マニュアル確認
	7 不適切ケアについてのDVDを視聴し日頃のケアの振り返り	権利擁護認知症ケア推進委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	17名	R2.11.16	DVD視聴
	8 令和2年度介護職員研修会(動画配信) 「看取りケアについて」	社会福祉法人 東白川福社会 相談役 菅原俊博 氏	ケアスタッフ会議 メンバー	25名	R2.12.10	動画配信 資料配布 振り返りシート
	9 排泄に関するオンライン勉強会 (Zoomによるオンライン)	太陽化学株式会社 (排泄排せん入浴改善委員会主催)	ケアスタッフ会議 メンバー	19名	R2.12.17	資料全員配布 振り返りシート
	10 令和元年度「施設サービス自己評価」の改善点と実践の為の検討会	OJT委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	19名	R3.3.18	検討会録
栄養部門研修	1 新型コロナウイルス感染予防マニュアル読み合わせ	管理栄養士 石川美智子	管理栄養士 調理員	9名	R2.7.13	資料全員配布
	2 厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R2.8.11	資料全員配布
	3 ノロウイルス・インフルエンザウイルスの基礎知識の勉強会	管理栄養士 石川美智子	管理栄養士 調理員	9名	R2.10.12	資料全員配布
	4 労働災害防止の為の勉強会(主に転倒防止について)	管理栄養士 石川美智子	管理栄養士 調理員	9名	R2.11.9	資料全員配布
	5 高齢者の摂食嚥下メカニズムについて	管理栄養士 石川美智子	管理栄養士 調理員	13名	R2.11.30	資料全員配布
	6 厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R3.2.10	資料全員配布

ケア連携委員会	1	胃瘻による経管栄養、口腔内吸引の手技確認	看護職員 (三浦麗子・豊島純子)	介護員	12名	R2.7月・11月	資料会員配布
	2	普通救命講習	・西会津消防署等 ・応急手当普及委員	介護員	27名	R2.7. 17 R2.7. 22 R2.12. 21 R3. 2. 19 R3. 2. 20	心肺蘇生訓練 実施

令和2年度 行事食一覧表

特別養護老人ホームさゆりの園

令和2年		令和3年		
令和2年	4月	16日	◎ お花見御膳 春のちらし寿司 吸い物（手まり鮨） 炊き合わせ 揚げだし豆腐の梅だれがけ ミニケーキ（苺）	
		27日	○ 副菜選択デー 野菜の吉野煮 新玉ねぎのポン酢和え	
		29日	◎ 昭和の日 赤飯 小づゆ 魚の煮つけ クルミの白和え	
	5月	3日	◎ 憲法記念日 御飯 ざくざく 魚のくずあんかけ 春菊と海苔の和え物	
		4日	◎ みどりの日 赤飯 味噌汁 魚の山椒焼き ポテトの味噌炒め	
		5日	◎ こどもの日 散らし寿司 あさりの佃煮 魚のフライ ポテトサラダ	
		15日	◎ お田植え御膳 しそ味噌のねにぎり 味噌汁（じやが芋とうるい） 春の天ぷら 天つゆ わらびのナムル	
		27日	○ 副菜選択デー アスパラの味噌マヨネーズ和え アスパラのお浸し	
		8日	◎ さなぶり御膳 次き寄せ御飯 吸い物（花鮨） 鮭の桜えびフリッター ふきとうどの油炒め 和菓子風ムースヨモギ	
		24日	○ 副菜選択デー 夏野菜の香り和え 野菜の洋風炊き合わせ	
	7月	8日	◎ 七夕御膳 冷やしうめん 業味 精進揚げ 奴豆腐 七夕ポンチ	
		21日	◎ 土用の丑の日 うな丼 吸い物（花鮨） 胡瓜もみ 櫻漬け大根	
		23日	◎ 海の日 冷やしよもぎそば 冬瓜の炒り煮	
		30日	○ 副菜選択デー 白菜ともやしのナムル ずんだ和え	
	8月	9日	◎ 山の日 御飯 味噌汁（里芋） 松風焼き 中華風なます	
		13日	◎ 盆入り 御飯 吸い物（花鮨） 精進揚げ 天つゆ クルミの白和え 黒ゴマプリン	
		15日	◎ 終戦記念日 赤飯 小づゆ 煮魚 揚げ出し豆腐の枝豆あん	
		28日	○ 副菜選択デー 冬瓜の帆立あんかけ 揚げ豆腐サラダ	
	9月	19日	◎ お彼岸入り御膳 三色おはぎ 小づゆ 魚の酒粕焼き 冬瓜の蟹あんかけ	
		21日	◎ 敬老の日 赤飯 かき卵汁 ブリの照り焼き えのきの御し和え	
		25日	◎ 彼岸明け いなり寿司 清汁（みょうが） 肉と野菜の旨煮 柿の白和え	
		26日	○ 副菜選択デー 千切り煮つけ 切干大根のサラダ	
令和2年		10月	12日 ◎ 秋の味覚御膳 赤飯 白玉団子入り根菜汁 焼の紅葉揚げ 枝豆の白和え 26日 ○ 副菜選択デー 紅葉和え 里芋の春菊和え	
令和2年		11月	3日 ◎ 文化の日 赤飯 小づゆ 鮭の蒲焼 プロッコリーの梅かつお和え 18日 ◎ 新そば会 新そば かき揚げ 菖入りなます 28日 ◎ 勤労感謝の日 赤飯 味噌汁（豆腐） 魚の山椒焼き ポテトの味噌炒め	
令和2年		12月	21日 ◎ 冬至 御飯 味噌汁（ニラ・モヤシ） 魚の辛味焼き 冬至南瓜 24日 ◎ クリスマス献立 クリスマス散らし寿司 洋風スープ煮 チキン豆腐団子 芋サラダ 31日 ◎ 大晦日 年越しそば かき揚げ インゲンの胡麻味噌和え	
令和3年		1月	1日 ◎ お正月特別献立 伊達巻 筑前煮 散らし寿司 雑煮鶏煮物 きんとん 3日 ◎ お正月御膳 粕汁 ひれかつ煮込み 赤白なます 山海汁 鮭の照り焼き ボテトサラダ 精進揚げ クルミの白和え 五目煮しめ たたき牛蒡 三日どころろ 七福神イモ雑煮 錦なます 腰肉の南蛮焼き 春雨の酢の物	
令和3年		2月	15日 ◎ 小正月御膳 三色おはぎ 小づゆ 柿たらの甘露煮 数の子豆 いご 3日 ◎ 節分御膳 大豆御飯 ざくざく 天ぷら ほうれん草のクルミ和え 11日 ◎ 建国記念日 赤飯 小づゆ 魚の味噌煮 ゼンマイと油揚げの煮付け 23日 ◎ 天皇誕生日 桜御飯 なめこ汁 魚の香番ソースがけ マカロニサラダ 26日 ◎ 副菜選択デー 野菜の粕煮 ふろふき大根	
令和3年		3月	3日 ◎ ひな祭り御膳 ひな祭り寿司 吸い物（花鮨） 煮魚 菜花と なめこのお浸し 17日 ◎ 彼岸入り 三色おはぎ 小づゆ 魚の生姜煮 蒜付けのマリネ 19日 ◎ 中日 赤飯 吸い物 揚げ豆腐の野菜あん オサツサラダ 23日 ◎ 彼岸明け いなり寿司 吸い物（海老団子） 肉と野菜の 旨煮 野菜の白和え	

◎	行事食	32回
○	副菜選択食	8回

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：特別養護老人ホームさゆりの園

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	0	0	2	0	0	0	0	2
	その他	1	0	0	0	1	0	0	2
合計		1	1	2	0	1	0	0	5

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		1	0	0	0	0	0	1
職員の態度 (接遇)		1	0	0	0	0	0	1
サービスの質 (内容)		2	0	0	0	0	0	2
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		1	0	0	0	0	0	1
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		5	0	0	0	0	0	5

令和2年度 さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業報告書

（事業の概況）

令和2年度は、介護保険法及びさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規定に基づき、利用者の身体状況または認知症の重症化が著しい状況において、施設利用中も安心して、その方らしい生活を営むことが出来るように、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、担当介護支援専門員、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、居宅介護支援事業所の開催するサービス担当者会議に積極的に参加することにより、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

そして、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として新たなマニュアルを整備し、感染予防の徹底と感染症を持ち込まない対策は基より、高齢者施設におけるクラスター予防としての初動対応シミュレーション等に尽力してきた。合わせて、当初の事業計画重点目標についても、この時世に合わせ行動計画を一部修正しながら実践してきた。

7月からは法人でキャリアパス制度を導入したこと、各職員が各自の職責に基づき目標達成に向けた行動ができるよう、制度の理解を深め少しずつ機能させていく取り組みをしているところである。

（重点目標についての評価）

1. 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none">利用者との定期面談については予定通り実施できた。利用者が感じている本音、思いや望む生活について考察と共に記録として見える化してきた。その中で利用者個々の希望を少しでも実現する為に施設サービス計画に立案し、楽しみや生きがいを持続け、願いが少しでも叶う施設生活となることを目標に支援してきた。現在のコロナ禍において、当初予定していた外出や活動、地域との交流は自粛せざるを得なかったが、可能な範囲での嗜好品や趣味活動の提供、パネルや窓越し、オンラインを活用して大切な方との交流機会を設けてきた。 <p>結果、利用者の思いに少しでも寄り添う支援として、多くの笑顔が見られたと感じる。ただ、それは一部であり、特に自身の思いを表現しづらい方への QOL 向上への取り組みについては、更なる工夫が必要である。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none">安心感を提供できる看護を目指し、健康不安だけでなく利用者の様々な心配事の訴えに対し、立ち止まり傾聴する意識で関わってきた。新型コロナウイルス感染予防での面会制限で、直接的にご家族とコミュニケーションを図れる場面はあまりなかった。ただ、終末期等の緊急やむを得ない状況時には、感染予防対策をした上で出来る限り大切な方と会っていただけるよう環境づくりや、ご家族等の不安感を少しでも和らげるような説明等関りを持ってきた。

	看取りケアの振り返りにおいて全ての評価は出来ていないが、上記を実践した結果「このご時世の中で、出来る限りのことをして頂いて私も母も幸せでした」との言葉も頂けたこともあり、意識した取り組みとしては効果が感じられた。
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・先進施設へ見学に行き学んできたことを参考にした「元気体操」を毎日実施できている。 ・塗り絵やパズル等、個々の趣味の希望に合わせ、楽しめる活動の提供を実施した。 ・地域の方と交流することができない状況の中で、施設内各所に四季折々の装飾をし、雰囲気を楽しんで頂く工夫を行った。 <p>結果、活動内容によっては一部の利用者参加が中心となってしまうものもあったが、全体で行える体操などは、普段活動性の低い方も音楽を耳にするだけで身体を動かす方も多くなってきており、表情もよく楽しく参加できているようである。又、施設内の装飾も立ち止まって見入っている方などもいるので、施設生活の中の楽しみの一つとして定着している状況である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・各棟で週1回ずつ集団体操を定期的に実施継続できている。ただ、少人数での個別に合わせた少人数での活動提供はほとんど実施することが出来なかつた。 ・散歩やドライブの外出活動については余暇計画で立案はあったが、天候や気候、人員不足等様々な理由で計画倒れも多く、活動する機会は計画より少なかつた。 <p>上記について実施した結果、今まで活動性が少なかった方、訓練室に来てまでのリハビリには拒否がある方でも、身近な生活空間で実施することで多くの利用者に参加を促すきっかけ作りが出来た。ただ、外出支援について振り返ると、もう少し自ら何らかの働きかけや行動が必要だったと感じている。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種や居室担当介護員からの聞き取りや、日々のケース記録及び毎月の摂瘡委員会での評価において、利用者の現状や日々の変化については確認できている。ただ、その内容について多職種と様々な側面から効果的な方法を検討するため、当初予定していたスクリーニング・モニタリング様式作成までには至っていない。 <p>結果、アセスメントについては出来ているが、利用者の質向上につながる、より効果的な新しい取り組みの実践は出来ていないため、次年度も継続目標としていく。</p>

(2) 認知症ケアと権利擁護の意識向上

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期では権利擁護の啓発と意識向上を含めてコンプライアンス研修を実施した。 ・下半期では認知症ケアの焦点を置いた施設内事例検討会を実施した。 <p>結果、認知症ケアにおいて時に「大変だ」という思いが強かった職員の意識も変化し、様々なケアの工夫をしたり、以前より余裕を持った対応が出来ているように感じる。又、職員の関わりの意識そのものに変化が見られ、職員間で「事例検討会をやって良かった」との声もあり、一定の効果は得られたと思われる。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、外部の集合型研修の参加はなかつたが、施設内で開催した勉強会や、動画配信研修には参加し理解を深めた。 ・エマニチュード技法の中で見る、聞く、触れる等取り入れられるものは実践したが、定着するまでには至らなかつた。

	<p>結果、係の中で改めて認知症ケアと権利擁護の意識向上について確認できた。ユマニチュード技法の浸透については、各係と共にもう少し具体的な取り組みをしていく必要がある。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護認知症ケア推進委員会で勉強会を企画、実施し、理解を深め機会づくりを行った。 ・認知症ケアの取り組みとして、共用の場であってもその方が落ち着ける場の提供等環境づくりをし、心地よく過ごせるような生活の場の提供について工夫した。 ・ユマニチュード技法を意識してケアに取り入れていた職員の姿も見られたが、勉強会の実施や浸透させる具体的な取り組みまでには繋がらなかった。 ・事例検討会では一人の認知症利用者を掘り下げることで、認知症ケアの理解を深めることができた。 ・認知症の利用者に対しての接遇やケアに対し、利用者本人からの不満や苦情に繋がってしまったことがあった。 <p>結果、生活環境づくりの工夫においては、今までより自分の落ち着ける場を感じて頂ける利用者が数人いる状況である。認知症ケアやその理解については、勉強会や事例検討会での気づきを日々のケアに活かし、目の前の大変さだけでなく一人の利用者に寄り添う対応ができる職員が増えている。その半面、認知症や権利擁護に対する理解が不十分な為か苦情に至ったケースもあった為、今後も意識向上につながる具体的取り組みが課題である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・自身ではユマニチュード研修で学んだ、見る・話す・触れるに関して日々の関わりの中で少しずつ実践できた。ただ、研修で得た知識を施設の認知症ケアの推進として、多職種間で実践していく取り組みまでは行えなかつた。 ・認知症ケアの知識を深める研修の参加については、コロナ禍の影響で外部研修の多くが動画配信型の研修になったことで、自身も含め多くの職員が普段参加の難しい様々な研修を受けることができた。 <p>結果、研修で学んだことを施設内で推進し、それが日々のケアで皆が意識して取り組む認知症ケアの実践は不十分となつた。ただ、コロナ禍の中、今まで以上に学びを得ることが出来た動画配信型の研修会に、多くの方が参加できたことはプラスになったと思う。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・「口から最後まで食べる楽しみをあきらめない」取り組みとして、調理技術の専門研修受講の計画をしていたが、コロナ禍の中で外部の調理技術研修の参加は出来なかつた。代わりに「安全に食べて頂く為の研修会」を企画し、福祉社会栄養係全員参加で実施した。 ・口から食べる=人生の楽しみにつながるということを深く考える機会を持ち、楽しみや幸せを考えた栄養マネジメントと調理の実践として、嚥下困難な利用者に「安全で美味しいソフト食の提供」をテーマに、食事提供前には調理員全員で盛り付けのチェックと実際に食べてみての嚥下の確認について手順に追加した。 <p>上記を実践したが、現時点では利用者にとって食の幸福感や、食事の意識が高揚するような取り組みまでには至らなかつた。次年度は具体的な取り組みを実践していきたい。</p>

(3) 職員の働きがいのある風土づくりと、OJT 実践の強化

職種	評価
相談	昨年7月から法人のキャリアパス制度の運用が開始となり、大規模事業所である当施設では新たに介護リーダーが位置付けられた。キャリアパス運用上において介護リーダーはOJTリーダーを担う為、その役割や家業を明らかにするための打合わせを実施し、どう行動すべきかについて明確にし、日々のOJTで実践してきた。ただ、まだまだキャリアパスが効果的に機能している状態とは言えず、より具体的なOJTの実行方法について検討が必要である。
看護	<ul style="list-style-type: none"> 業務時間内に必要な業務が終わることを目標に、互いに声を掛け協力し合ってきた。 ただ、ライフワークバランスを意識しての業務改善まで介入することは出来なかった。 キャリアプランの作成については、年度途中で法人のキャリアパス制度が運用となつた為、そこで面接を交えながら各々が具体的に目標設定できた。 <p>業務改善については、次年度の取り組みに向け話し合いを進めている状況。キャリアパスにおいての目標設定については、今まで実施できていなかった職員との面接を通して、業務内容だけでなく思いや悩みを共有する機会が持てたことで、今までより各自の労働意欲向上に繋がったと思う。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスの運用で職員との面接の機会を持つことができ、普段なかなか業務の中で感じ得ない職員の思いを確認することができた。 目標設定についてもキャリアパスの運用で、職員各々がより具体的に策定できた。 <p>業務を含め様々な思いや悩みを確認することができ、課題に対してどう解決に近づけていくかを、その職員と共に考え導いていく機会づくりに繋がった。又、以前よりお互いが専門性をもって、意見を出し合ったり注意し合える場面が増えたように感じる。結果、面接を通じて職員の業務に対するモチベーションを高めることにつながったと思われる。ただ、まだリーダーのOJTリーダーとしての取り組みの具体性がはっきりしていない現状がある。</p>
機能訓練	昨年と比較すると、福祉用具の活用やポジショニング等の介入をきっかけに、他職種と相談しあるの専門性を擦り合わせながら、課題解決に向けて相談していく機会を増やせた。結果、明らかになった課題について自身だけで悩まず、多職種で介入することで解決できることが増えたので、連携が密になってきたと思う。
栄養	<ul style="list-style-type: none"> 調理員を含む栄養に関わる職員が、利用者の嗜好や意見等について、統一して分かりやすく聞き取りが出来るよう、「聞き取りポイント表」を作成し、現在実践している。 <p>その結果、調理員も利用者の氏名や顔が分かるようになり、利用者から生の声で食事の感想を伺う機会が増えた。利用者の食べている時の笑顔を見たり状況を確認することで、調理や盛り付けの意識が職員各々の中で高まってきている。</p>

令和2年度 さゆりの園ショートステイ指定介護予防短期入所生活介護事業報告書

（事業の概況）

令和2年度は、要支援者に対して個々の目標に合わせ、その有する能力に応じ、安心してその方らしい自立した日常生活を営むことができるよう、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、地域包括支援センター、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い予防短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、地域包括支援センターの開催するサービス担当者会議に積極的に参加することにより、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

そして、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として新たなマニュアルを整備し、感染予防の徹底と感染症を持ち込まない対策は基より、高齢者施設におけるクラスター予防としての初動対応シミュレーション等に尽力してきた。合わせて、当初の事業計画重点目標についても、この時世に合わせ行動計画を一部修正しながら実践してきた。

7月からは法人でキャリアパス制度を導入したこと、各職員が各々の職責に基づき目標達成に向けた行動ができるよう、制度の理解を深め少しずつ機能させていく取り組みをしているところであります。

（重点目標についての評価）

1. 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none">・利用者との定期面談については予定通り実施できた。利用者が感じている本音、思いや望む生活について考察と共に記録として見える化してきた。その中で利用者個々の希望を少しでも実現する為に施設サービス計画に立案し、楽しみや生きがいを持ち続け、願いが少しでも叶う施設生活となることを目標に支援してきた。・現在のコロナ禍において、当初予定していた外出や活動、地域との交流は自粛せざるを得なかつたが、可能な範囲での嗜好品や趣味活動の提供、パネルや窓越し、オンラインを活用して大切な方との交流機会を設けてきた。 <p>結果、利用者の思いに少しでも寄り添う支援として、多くの笑顔が見られたと感じる。ただ、それは一部であり、特に自身の思いを表現しづらい方への QOL 向上への取り組みについては、更なる工夫が必要である。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none">・安心感を提供できる看護を目指し、健康不安だけでなく利用者の様々な心配事の訴えに対し、立ち止まり傾聴する意識で関わってきた。・新型コロナウイルス感染予防での面会制限で、直接的にご家族とコミュニケーションを図れる場面はあまりなかった。ただ、終末期等の緊急やむを得ない状況時には、感染予防対策をした上で出来る限り大切な方と会っていただけるよう環境づくりや、ご家族等の不安感を少しでも和らげるような説明等関りを持ってきた。

	看取りケアの振り返りにおいて全ての評価は出来ていないが、上記を実践した結果「このご時世の中で、出来る限りのことをして頂いて私も母も幸せでした」との言葉も頂けたこともあり、意識した取り組みとしては効果が感じられた。
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・先進施設へ見学に行き学んできたことを参考にした「元気体操」を毎日実施できている。 ・塗り絵やパズル等、個々の趣味の希望に合わせ、楽しめる活動の提供を実施した。 ・地域の方と交流することができない状況の中で、施設内各所に四季折々の装飾をし、雰囲気を楽しんで頂く工夫を行った。 <p>結果、活動内容によっては一部の利用者参加が中心となってしまうものもあったが、全体で行える体操などは、普段活動性の低い方も音楽を耳にするだけで身体を動かす方も多くなってきており、表情もよく楽しく参加できているようである。又、施設内の装飾も立ち止まって見入っている方などもいるので、施設生活の中の楽しみの一つとして定着している状況である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・各棟で週1回ずつ集団体操を定期的に実施継続できている。ただ、少人数での個別に合わせた少人数での活動提供はほとんど実施することが出来なかった。 ・散歩やドライブの外出活動については余暇計画で立案はあったが、天候や気候、人員不足等様々な理由で計画倒れも多く、活動する機会は計画より少なかった。 <p>上記について実施した結果、今まで活動性が少なかった方、訓練室に来てまでのリハビリには拒否がある方でも、身近な生活空間で実施することで多くの利用者に参加を促すきっかけ作りが出来た。ただ、外出支援について振り返ると、もう少し自ら何らかの働きかけや行動が必要だったと感じている。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種や居室担当介護員からの聞き取りや、日々のケース記録及び毎月の栄養委員会での評価において、利用者の現状や日々の変化については確認できている。ただ、その内容について多職種と様々な側面から効果的な方法を検討するため、当初予定していたスクリーニング・モニタリング様式作成までには至っていない。 <p>結果、アセスメントについては出来ているが、利用者の質向上につながる、より効果的な新しい取り組みの実践は出来ていないため、次年度も継続目標としていく。</p>

(2) 認知症ケアと権利擁護の意識向上

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期では権利擁護の啓発と意識向上を含めてコンプライアンス研修を実施した。 ・下半期では認知症ケアの焦点を置いた施設内事例検討会を実施した。 <p>結果、認知症ケアにおいて時に「大変だ」という思いが強かった職員の意識も変化し、様々なケアの工夫をしたり、以前より余裕を持った対応が出来ているように感じる。又、職員の関わりの意識そのものに変化が見られ、職員間で「事例検討会をやって良かった」との声もあり、一定の効果は得られたと思われる。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、外部の集合型研修の参加はなかつたが、施設内で開催した勉強会や、動画配信研修には参加し 理解を深めた。 ・ユマニチュード技法の中で見る、聞く、触れる等取り入れられるものは実践したが、

	<p>定着するまでには至らなかった。</p> <p>結果、係の中で改めて認知症ケアと権利擁護の意識向上について確認できた。ユマニチュード技法の浸透については、各係と共にもう少し具体的な取り組みをしていく必要がある。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護認知症ケア推進委員会で勉強会を企画、実施し、理解を深め機会づくりを行った。 ・認知症ケアの取り組みとして、共用の場であってもその方が落ち着ける場の提供等環境づくりをし、心地よく過ごせるような生活の場の提供について工夫した。 ・ユマニチュード技法を意識してケアに取り入れていた職員の姿も見られたが、勉強会の実施や浸透させる具体的な取り組みまでには繋がらなかった。 ・事例検討会では一人の認知症利用者を掘り下げることで、認知症ケアの理解を深めることができた。 ・認知症の利用者に対しての接遇やケアに対し、利用者本人からの不満や苦情に繋がってしまったことがあった。 <p>結果、生活環境づくりの工夫においては、今までより自分の落ち着ける場を感じて頂ける利用者が数人いる状況である。認知症ケアやその理解については、勉強会や事例検討会での気づきを日々のケアに活かし、目の前の大変さだけでなく一人の利用者に寄り添う対応ができる職員が増えている。その半面、認知症や権利擁護に対しての理解が不十分な為か苦情に至ったケースもあった為、今後も意識向上につながる具体的取り組みが課題である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・自身ではユマニチュード研修で学んだ、見る・話す・触れるに関して日々の関わりの中で少しずつ実践できた。ただ、研修で得た知識を施設の認知症ケアの推進として、多職種間で実践していく取り組みまでは行えなかった。 ・認知症ケアの知識を深める研修の参加については、コロナ禍の影響で外部研修の多くが動画配信型の研修になったことで、自身も含め多くの職員が普段参加の難しい様々な研修を受けることができた。 <p>結果、研修で学んだことを施設内で推進し、それが日々のケアで皆が意識して取り組む認知症ケアの実践は不十分となった。ただ、コロナ禍の中、今まで以上に学びを得ることが出来た動画配信型の研修会に、多くの方が参加できたことはプラスになったと思う。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・「口から最後まで食べる楽しみをあきらめない」取り組みとして、調理技術の専門研修受講の計画をしていたが、コロナ禍の中で外部の調理技術研修の参加は出来なかった。代わりに「安全に食べて頂く為の研修会」を企画し、福祉社会栄養係全員参加で実施した。 ・口から食べる=人生の楽しみにつながるということを深く考える機会を持ち、楽しみや幸せを考えた栄養マネジメントと調理の実践として、嚥下困難な利用者に「安全で美味しいソフト食の提供」をテーマに、食事提供前には調理員全員で盛り付けのチェックと実際に食べてみての嚥下の確認について手順に追加した。 <p>上記を実践したが、現時点では利用者にとって食の幸福感や、食事の意識が高揚するような取り組みまでには至らなかった。次年度は具体的な取り組みを実践していきたい。</p>

(3) 職員の働きがいのある風土づくりと、OJT 実践の強化

職種	評価
相談	昨年 7 月から法人のキャリアパス制度の運用が開始となり、大規模事業所である当施設では新たに介護リーダーが位置付けられた。キャリアパス運用上において介護リーダーは OJT リーダーを担う為、その役割や家業を明らかにするための打合わせを実施し、どう行動すべきかについて明確にし、日々の OJT で実践してきた。ただ、まだまだキャリアパスが効果的に機能している状態とは言えず、より具体的な OJT の実行方法について検討が必要である。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・業務時間内に必要な業務が終わることを目標に、互いに声を掛け協力し合ってきた。ただ、ライフワークバランスを意識しての業務改善まで介入することは出来なかった。 ・キャリアプランの作成については、年度途中で法人のキャリアパス制度が運用となつた為、そこで面接を交えながら各々が具体的に目標設定できた。 <p>業務改善については、次年度の取り組みに向け話し合いを進めている状況。キャリアパスにおいての目標設定については、今まで実施できていなかった職員との面接を通して、業務内容だけでなく思いや悩みを共有する機会が持てたことで、今までより各自の労働意欲向上に繋がったと思う。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスの運用で職員との面接の機会を持つことができ、普段なかなか業務の中で感じ得ない職員の思いを確認することができた。 ・目標設定についてもキャリアパスの運用で、職員各々がより具体的に策定できた。 <p>業務を含め様々な思いや悩みを確認することができ、課題に対してどう解決に近づけていくかを、その職員と共に考え導いていく機会づくりに繋がった。又、以前よりお互いが専門性をもって、意見を出し合ったり注意し合える場面が増えたように感じる。結果、面接を通じて職員の業務に対するモチベーションを高めることにつながったと思われる。ただ、まだリーダーの OJT リーダーとしての取り組みの具体性がはっきりしていない現状がある。</p>
機能訓練	昨年と比較すると、福祉用具の活用やポジショニング等の介入をきっかけに、他職種と相談しあるいの専門性を擦り合わせながら、課題解決に向けて相談していく機会を増やせた。結果、明らかになった課題について自身だけで悩まず、多職種で介入することで解決できることが増えたので、連携が密になってきたと思う。
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員を含む栄養に関わる職員が、利用者の嗜好や意見等について、統一して分かりやすく聞き取りが出来るよう、「聞き取りポイント表」を作成し、現在実践している。その結果、調理員も利用者の氏名や顔が分かるようになり、利用者から生の声で食事の感想を伺う機会が増えた。利用者の食べている時の笑顔を見たり状況を確認することで、調理や盛り付けの意識が職員各々の中で高まってきている。

令和2年度 さゆりの園ショートステイ障害福祉サービス短期入所生活介護事業報告書

〈 事業の概況 〉

令和2年度は、障害者総合支援法及びさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規定に基づき、身体障害者の方の身体状況とその有する能力に応じ、主体性と自立性を持ってその方らしい生活を営むことが出来るように、個々に合わせた介護の提供と、サービス内容の充実と向上を目指し、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、担当相談支援専門員、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

そして、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として新たなマニュアルを整備し、感染予防の徹底と感染症を持ち込まない対策は基より、高齢者施設におけるクラスター予防としての初動対応シミュレーション等に尽力してきた。合わせて、当初の事業計画重点目標についても、この時世に合わせ行動計画を一部修正しながら実践してきた。

7月からは法人でキャリアパス制度を導入したことで、各職員が各自の職責に基づき目標達成に向けた行動ができるよう、制度の理解を深め少しずつ機能させていく取り組みをしているところである。

〈 重点目標についての評価 〉

1. 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none">利用者との定期面談については予定通り実施できた。利用者が感じている本音、思いや望む生活について考察と共に記録として見える化してきた。その中で利用者個々の希望を少しでも実現する為に施設サービス計画に立案し、楽しみや生きがいを持続け、願いが少しでも叶う施設生活となることを目標に支援してきた。現在のコロナ禍において、当初予定していた外出や活動、地域との交流は自粛せざるを得なかつたが、可能な範囲での嗜好品や趣味活動の提供、パネルや窓越し、オンラインを活用して大切な方との交流機会を設けてきた。 <p>結果、利用者の思いに少しでも寄り添う支援として、多くの笑顔が見られたと感じる。ただ、それは一部であり、特に自身の思いを表現しづらい方への QOL 向上への取り組みについては、更なる工夫が必要である。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none">安心感を提供できる看護を目指し、健康不安だけでなく利用者の様々な心配事の訴えに対し、立ち止まり傾聴する意識で関わってきた。新型コロナウイルス感染予防での面会制限で、直接的にご家族とコミュニケーションを図れる場面はあまりなかった。ただ、終末期等の緊急やむを得ない状況時には、感染予防対策をした上で出来る限り大切な方と会っていただけるよう環境づくりや、ご家族等の不安感を少しでも和らげるような説明等関りを持ってきた。

	看取りケアの振り返りにおいて全ての評価は出来ていないが、上記を実践した結果「このご時世の中で、出来る限りのことをして頂いて私も母も幸せでした」との言葉も頂けたこともあり、意識した取り組みとしては効果が感じられた。
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・先進施設へ見学に行き学んできたことを参考にした「元気体操」を毎日実施できている。 ・塗り絵やパズル等、個々の趣味の希望に合わせ、楽しめる活動の提供を実施した。 ・地域の方と交流することができない状況の中で、施設内各所に四季折々の装飾をし、季節感を楽しんで頂く工夫を行った。 <p>結果、活動内容によっては一部の利用者参加が中心となってしまうものもあったが、全体で行える体操などは、普段活動性の低い方も音楽を耳にするだけで身体を動かす方も多くなってきており、表情もよく楽しく参加できているようである。又、施設内の装飾も立ち止まって見入っている方などもいるので、施設生活の中の楽しみの一つとして定着している状況である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・各棟で週1回ずつ集団体操を定期的に実施継続できている。ただ、少人数での個別に合わせた少人数での活動提供はほとんど実施することが出来なかった。 ・散歩やドライブの外出活動については余暇計画で立案はあったが、天候や気候、人員不足等様々な理由で計画倒れも多く、活動する機会は計画より少なかった。 <p>上記について実施した結果、今まで活動性が少なかった方、訓練室に来てまでのリハビリには拒否がある方でも、身近な生活空間で実施することで多くの利用者に参加を促すきっかけ作りが出来た。ただ、外出支援について振り返ると、もう少し自ら何らかの働きかけや行動が必要だと感じている。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種や居室担当介護員からの聞き取りや、日々のケース記録及び毎月の栄養委員会での評価において、利用者の現状や日々の変化については確認できている。ただ、その内容について多職種と様々な側面から効果的な方法を検討するため、当初予定していたスクリーニング・モニタリング様式作成までには至っていない。 <p>結果、アセスメントについては出来ているが、利用者の質向上につながる、より効果的な新しい取り組みの実践は出来ていないため、次年度も継続目標としていく。</p>

(2) 障害者ケアと権利擁護の意識向上

職種	評価
相談	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期では権利擁護の啓発と意識向上を含めてコンプライアンス研修を実施した。 ・下半期では認知症ケアに焦点を置いた施設内事例検討会を実施したが、障害者ケアに焦点を置いた事例検討会の実施には至らなかった。 <p>結果、障害者ケアの理解が権利擁護に繋がることを踏まえ、障害の種類や程度に合わせたケアが実践できるような取り組みを実践していくたい。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、外部の集合型研修の参加はなかつたが、施設内で開催した勉強会や、動画配信研修には参加し理解を深めた。 <p>結果、係の中で改めて権利擁護の意識向上については確認できたが、障害者ケアについては、各係と共に具体的な取り組みをしていく必要がある。</p>
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護認知症ケア推進委員会で勉強会を企画、実施し、理解を深め機会づくりを行

	<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者ケアについては、勉強会の実施や浸透させる具体的な取り組みまでには繋がらなかった。 <p>結果、勉強会や事例検討会での気づきを日々のケアに取り入れる職員が増えているが、その半面、障害者や権利擁護に対しての理解が不十分な場面が見られた為、今後も意識向上に繋がる具体的な取り組みが課題である。</p>
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の自己決定を尊重し、その人らしさを大切にしたケアを実施した。 ・コロナ禍の影響で外部研修の多くが動画配信型の研修になったことで、自身も含め多くの職員が普段参加の難しい様々な研修を受けることができたが、障害者ケアにおいては、多職種間で実践していく取り組みまでには至らなかった。 <p>結果、研修で学んだことを施設内で推進し、日々のケアで皆が意識して取り組むことは不十分だったが、コロナ禍の中、今まで以上に学びを得ることが出来た動画配信型の研修会に、多くの方が参加できたことはプラスになったと思う。</p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・「口から最後まで食べる楽しみをあきらめない」取り組みとして、調理技術の専門研修受講の計画をしていたが、コロナ禍の中で外部の調理技術研修の参加は出来なかった。代わりに「安全に食べて頂く為の研修会」を企画し、福祉会栄養係全員参加で実施した。 ・口から食べる=人生の楽しみにつながるということを深く考える機会を持ち、楽しみや幸せを考えた栄養マネジメントと調理の実践として、嚥下困難な利用者に「安全で美味しいソフト食の提供」をテーマに、食事提供前には調理員全員で盛り付けのチェックと実際に食べてみての嚥下の確認について手順に追加した。 <p>上記を実践したが、現時点では利用者にとって食の幸福感や、食事の意識が高揚するような取り組みまでには至らなかった。次年度は具体的な取り組みを実践していきたい。</p>

(3) 職員の働きがいのある風土づくりと、OJT 実践の強化

職種	評価
相談	<p>昨年 7 月から法人のキャリアパス制度の運用が開始となり、大規模事業所である当施設では新たに介護リーダーが位置付けられた。キャリアパス運用上において介護リーダーは OJT リーダーを担う為、その役割や家業を明らかにするための打合わせを実施し、どう行動すべきかについて明確にし、日々の OJT で実践してきた。ただ、まだまだキャリアパスが効果的に機能している状態とは言えず、より具体的な OJT の実行方法について検討が必要である。</p>
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・業務時間内に必要な業務が終わることを目標に、互いに声を掛け協力し合ってきた。ただ、ライフワークバランスを意識しての業務改善まで介入することは出来なかった。 ・キャリアプランの作成については、年度途中で法人のキャリアパス制度が運用となつた為、そこで面接を交えながら各々が具体的に目標を設定することができた。 <p>業務改善については、次年度の取り組みに向け話し合いを進めている状況。キャリアパスにおいての目標設定については、今まで実施できていなかった職員との面接を通して、業務内容だけでなく思いや悩みを共有する機会が持てたことで、各自の労働意欲向上に</p>

	繋がったと思う。
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスの運用で職員との面接の機会を持つことができ、普段なかなか業務の中で感じ得ない職員の思いを確認することができた。 ・目標設定についてもキャリアパスの運用で、職員各々がより具体的に策定することができた。 <p>業務を含め様々な思いや悩みを確認することができ、課題に対してどう解決に近づけていくかを、その職員と共に考え導いていく機会づくりに繋がった。又、以前よりお互いが専門性をもって、意見を出し合ったり注意し合える場面が増えたように感じる。結果、面接を通じて職員の業務に対するモチベーションを高めることにつながったと思われる。ただ、まだリーダーのOJTリーダーとしての取り組みの具体性がはっきりしていない現状がある。</p>
機能訓練	昨年と比較すると、福祉用具の活用やポジショニング等の介入をきっかけに、他職種と相談しある専門性を擦り合わせながら、課題解決に向けて相談していく機会を増やせた。結果、明らかになった課題について自身だけで悩まず、多職種で介入することで解決できることが増えたので、連携が密になってきたと思う。
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員を含む栄養に関わる職員が、利用者の嗜好や意見等について、統一して分かりやすく聞き取りが出来るよう、「聞き取りポイント表」を作成し、現在実践している。その結果、調理員も利用者の氏名や顔が分かるようになり、利用者から生の声で食事の感想を伺う機会が増えた。利用者の食べている時の笑顔を見たり状況を確認することで、調理や盛り付けの意識が職員各々の中で高まってきている。

令和2年度SS利用者要介護度別の実人数及び延べ人数

		要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	その他 (障害・自立 支援)	合計
4月	実人数	2	0	12	13	6	7	4	5	49
	延べ人数	8	0	148	177	71	81	54	37	576
5月	実人数	2	0	13	13	5	5	3	3	44
	延べ人数	8	0	175	184	49	111	47	28	602
6月	実人数	1	0	14	13	6	6	4	4	48
	延べ人数	3	0	181	175	62	108	58	36	623
7月	実人数	1	1	13	14	7	7	5	4	52
	延べ人数	3	2	157	188	98	90	44	31	613
8月	実人数	2	1	13	14	7	5	6	4	52
	延べ人数	8	2	134	189	75	94	59	34	595
9月	実人数	1	1	15	14	6	6	5	3	51
	延べ人数	3	2	157	195	66	77	66	29	595
10月	実人数	1	1	12	12	5	7	6	5	49
	延べ人数	3	2	131	183	68	112	81	38	618
11月	実人数	1	1	11	14	8	6	6	4	51
	延べ人数	3	2	99	209	66	103	90	33	605
12月	実人数	1	1	8	14	8	5	5	6	48
	延べ人数	3	2	86	213	123	96	67	33	623
1月	実人数	1	1	7	10	8	5	6	5	43
	延べ人数	3	2	77	176	123	95	93	36	605
2月	実人数	1	1	10	10	9	6	5	6	48
	延べ人数	3	2	81	135	121	97	65	39	543
3月	実人数	1	0	13	10	8	6	5	5	48
	延べ人数	3	0	99	149	119	118	63	38	589
合計	実人数	15	8	141	151	83	71	60	54	583
	延べ人数	51	16	1525	2173	1041	1182	787	412	7187

令和2年度 さゆりの園ショートステイ利用状況

《予防給付》

利用市町村(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	2	8	0.3
5月	2	8	0.3
6月	1	3	0.1
7月	2	5	0.2
8月	3	10	0.3
9月	2	5	0.2
10月	2	5	0.2
11月	2	5	0.2
12月	2	5	0.2
1月	2	5	0.2
2月	2	5	0.2
3月	1	3	0.1
合計	23	67	年平均：0.2人

《介護給付》

利用市町村(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	42	531	17.7
5月	39	566	18
6月	43	584	19.4
7月	46	577	19
8月	45	551	18
9月	46	561	18.7
10月	42	575	19
11月	45	567	18.9
12月	40	585	19
1月	36	564	18.1
2月	40	499	17.8
3月	42	548	18
合計	506	6,708	年平均：18.4人

《障害福祉サービス》

利用状況(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	5	37	1.2
5月	3	28	0.9
6月	5	36	1.2
7月	4	31	1
8月	4	34	1
9月	3	29	1
10月	5	38	1.2
11月	4	33	1.1
12月	6	33	1.1
1月	5	36	1.2
2月	6	39	1.4
3月	5	38	1.2
合計	55	412	1.1

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：さゆりの園ショートステイ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度（接遇）	サービスの質（内容）	サービスの量	権利侵害	被害・損害事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決責任者	第三者委員へ通知	行政へ通知	県運営委員へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度（接遇）		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質（内容）		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

令和2年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護事業所事業報告及び

さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号
通所事業所事業報告（案）

1. 基本方針

- (1) 介護保険法、及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護運営規程、さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号通所事業所運営規程に基づき、居宅サービス計画を基に、家族と通所者のニーズに合った通所介護計画を作成し、その利用者が可能な限り居宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、必要な日常生活上の援助及び機能訓練を行い、利用者の社会孤立感の解消及び心身機能の維持、並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るようにした。
- (2) 日常生活支援総合事業第一号通所事業サービスについては、軽度者の状態を踏まえつつ、自立支援の観点に立った効果的なサービス提供体制を確保し、サービス提供を行った。

2. 重点目標

(1) 家族、他機関との連携を行うことで早期の対応に繋げる

- ・日頃より、家族・関係機関とより良い関係づくりを行い、連絡ノートの活用や情報共有を行うことにより、家族・他機関との連携を密に行うことができた。
- ・健康チェック等により、通所者の心身の状態を把握し、状態の異常、急変については家族や担当介護支援専門員と連携を密にし、速やかに主治医、協力医療機関等に連絡し適切な対応を行った。

(2) 利用者が楽しみを持てる通所生活

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、季節ごとの行事や、レクリエーションの内容にも制限があった。工夫して行ってはいたが、利用者が満足のいくレクリエーション提供としては薄かったように感じる。個人の機能について、リハビリの専門スタッフに助言を頂き機能維持向上につながるように努めた。
- ・スチームコンベクションを活用し、複雑な調理も可能にすることで献立の幅を広げることができ、利用者に喜ばれる食事作りが行えた。
- ・ハイジエニックビューティシャン・ネイリストの資格を活かし、整爪やトリートメントを行うことで利用者に喜ばれた。しかし、ネイリストの業務配置都合により、計画通りの利用者数が実施できず、一部の利用者となってしまった。

令和2年度さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護利用状況

1. 利用者数(令和3年3月利用者)

男 20名 女 105名 計 125名

2. 介護度別利用(3月利用者)

事業対象者	日常生活総合事業			介護度				
	要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	
実人数	11	7	4	44	25	11	11	12

3. 年齢内訳

年齢	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90~99	100~110	110~	計
男	0	0	0	2	7	11	0	0	20
女	0	1	1	1	53	46	3	0	105
計	0	1	1	3	60	57	3	0	125

	男	女
平均年齢	87.0歳	89.2歳
最高年齢	94歳	104歳

7. 利用実施状況

項目 月	開所 日数	利用 延べ人数	一日平均 利用者数	入浴介助	同一建物 減算	送迎減額	キャンセル	
							前日	当日
R2. 4月	21	512	24.38	506	8	1	12	15
5月	20	458	22.90	455	0	2	12	16
6月	21	508	24.19	506	0	1	5	15
7月	21	512	24.38	511	0	6	6	17
8月	19	472	24.84	470	0	7	4	4
9月	21	510	24.28	509	0	7	5	15
10月	23	567	24.65	565	0	5	8	22
11月	19	473	24.89	470	0	8	10	13
12月	20	513	25.65	513	3	7	9	26
R3. 1月	21	469	23.45	469	7	4	8	26
2月	18	421	23.38	421	8	4	14	18
3月	21	528	25.14	528	12	1	9	15
合計	245	5,943	24.25	5,923	38	53	102	202

令和2年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ障害福祉サービス事業報告（案）

1. 基本方針

- (1) 障害自立支援法、及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ身体障害者運営規程に基づき、障害者自己決定と自己選択を尊重し、地域社会において質の高い生活が継続できるように、創造的な活動機会の提供や機能訓練を行い、身体能力、日常生活能力の維持・向上を図るようにした。

2. 重点目標

- (1) 家族、他機関との連携を行うことで早期の対応に繋げる
- ・日頃より、家族・関係機関とより良い関係づくりを行い、連絡ノートの活用や情報共有を行うことにより、家族・他機関との連携を密に行うことができた。
 - ・健康チェック等により、通所者の心身の状態を把握し、状態の異常、急変については家族や担当介護支援専門員と連携を密にし、速やかに主治医、協力医療機関等に連絡し適切な対応を行った。
- (2) 利用者が楽しみを持てる通所生活
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、季節ごとの行事や、レクリエーションの内容にも制限があった。工夫して行っていたが、利用者が満足のいくレクリエーション提供としては、薄かったように感じる。個人の機能について、リハビリの専門スタッフに助言を頂き機能維持向上につながるように努めた。
 - ・ステムコンベクションを活用し、複雑な調理も可能にすることで献立の幅を広げることができ、利用者に喜ばれる食事作りが行えた。
 - ・ハイジエニックビューティシャン・ネイリストの資格を活かし、整爪やトリートメントを行うことで利用者に喜ばれた。しかし、ネイリストの業務配置都合により、計画通りの利用者数が実施できず、一部の利用者となってしまった。

令和2年度さゆりの園デイサービスセンターⅡ障がい福祉生活介護利用登録状況

令和3年3月31日現在

1. 利用登録者数

男	4名	女	0名	合計	4名
---	----	---	----	----	----

2. 区別内訳

	性別		区分					
	男	女	1	2	3	4	5	6
実人数	4	0	0	0	1	1	1	1

3. 年齢内訳

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	1	0	0	1	2	4
女	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1	2	4

平均年齢：49.5歳

4. 利用実施状況

項目 月	機所 日数	利用 延べ人数	一日平均 利用者数	入浴介助	同一建物 減算	送迎減額	キャンセル	
							前日	当日
R2. 4月	21	15	0.71	15	0	0	0	0
5月	20	17	0.85	17	0	0	0	0
6月	21	17	0.80	17	0	0	0	0
7月	21	18	0.85	18	0	0	0	0
8月	19	16	0.84	16	0	1	0	0
9月	21	18	0.85	18	0	0	0	0
10月	23	20	0.86	20	0	0	0	0
11月	19	17	0.89	17	0	0	0	0
12月	21	18	0.85	18	0	0	0	0
R3. 1月	20	20	1.00	20	0	0	0	0
2月	18	19	1.05	19	0	0	0	0
3月	21	21	1.00	21	0	0	0	0
合計	245	216	0.88	216	0	1	0	0

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	ふんわりちゃんとほん 大作戦	・基礎知識の確認 ・デモンストレーション ・ゾーニング検討 ・手技の相互チェック	准看護師	築田 智美	令和2年8月11日	野沢体育館	復命 職員会議で発表
2	令和2年度社会福祉法人会計実務的決算講習	I. 決算作業の流れと資産確認・評価 II. 決算確認事項① III. 決算確認事項② IV. 計算書類・附属明細書の作成 V. 計算書類作成後の業務	事務員	田崎 美香	令和3年3月20日	さゆりの園デイサービスセンターⅡ (オンラインにて受講)	復命 事務会議で発表

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：さゆりの園デイサービスセンターⅡ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	0	1	0	0	0	0	0	1
合計		0	2	0	0	0	0	0	2

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)		2	0	0	0	0	0	2
サービスの質(内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		2	0	0	0	0	0	2

令和2年度

西会津町訪問介護事業所 訪問介護事業報告

1. 基本方針

介護保険法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、要介護状態にある利用者に対し住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が継続でき、適正な訪問介護サービスを提供しその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう入浴・排泄・食事、その他の生活全般を支援しサービスの提供を行った。また、地域の関係機関との連携を強化し、地域福祉に貢献するよう努めた。

2. 重点目標

(1) 地域貢献

親睦会として、町内のゴミ拾いの実施、また西会津小中学校のリサイクル活動へ積極的に参加し地域の方々と一緒に活動することができた。

(2) 人材確保

ケーブルテレビを活用しヘルパーの募集を行った。10月から始まった介護職員初任者研修では職員3名が講師として講義を行い、実技実習では13名を受入れたが登録ヘルパーとして就労するには至らなかった。

R2年度では2名の雇用はあったが1名は体調を崩し退職、もう1名は土曜日のみであるが就労している。

登録ヘルパーは現在22名在籍しているが、高齢化もあり(平均63.6歳)自分の年齢、体力、スキルにあった訪問調整を行い無理なく業務出来るように配慮した。

(3) スキルアップ

コロナ禍で研修会参加が難しく思うように参加できなかった。次年度は職責に必要な資格取得について外部研修に参加し、専門的にスキルアップを目指していく。

今年度訪問介護員研修は密集を避ける為、場所を2か所に分けて年間8回実施し、1回平均18人参加した。通常の研修内容に加え、特に感染予防対策の対応をするためPPE(個人用防護具)の着脱訓練を毎回実施した。

(4) 情報共有

サービス提供責任者はサービスの統一を図るため、登録ヘルパーから問題提起や困っていることについて報告を受けたら共有し、速やかに解決するように努めた。また利用者の自立支援の観点から、過剰なサービスを提供していないかを確認しあった。利用者へのアプローチ方法、リスク管理について、根拠をもって登録ヘルパーに指導していくことで、利用者の体調の変化の早期発見や、報告につながり適切に対応ができた。

事例検討会は年間29回開催し、関係しているヘルパーを招集し延べ90人参加した。

(5) 傾聴

今年度苦情はなかった。次年度も、利用者や家族からの要望を受け止め、早急に解決が必要であるものは情報共有しながら、利用者や家族が満足できるサービスを継続する。

令和2年度

西会津町訪問介護事業所 総合事業報告

1. 基本方針

介護保険法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、要介護状態にある利用者に対し住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が継続でき、適正な訪問介護サービスを提供しその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう入浴・排泄・食事、その他の生活全般を支援しサービスの提供を行った。また、地域の関係機関との連携を強化し、地域福祉に貢献するよう努めた。

2. 重点目標

(1) 地域貢献

親睦会として、町内のゴミ拾いの実施、また西会津小中学校のリサイクル活動へ積極的に参加し地域の方々と一緒に活動することができた。

(2) 人材確保

ケーブルテレビを活用しヘルパーの募集を行った。10月から始まった介護職員初任者研修では職員3名が講師として講義を行い、実技実習では18名を受入れたが登録ヘルパーとして就労するには至らなかった。

R2年度では2名の雇用はあったが1名は体調を崩し退職、もう1名は土曜日のみであるが就労している。

登録ヘルパーは現在22名在籍しているが、高齢化もあり(平均63.6歳)自分の年齢、体力、スキルにあった訪問調整を行い無理なく業務出来るように配慮した。

(3) スキルアップ

コロナ禍で研修会参加が難しく思うように参加できなかつた。次年度は職責に必要な資格取得について外部研修に参加し、専門的にスキルアップを目指していく。

今年度訪問介護員研修は密集を避ける為、場所を2か所に分けて年間8回実施し、1回平均18人参加した。通常の研修内容に加え、特に感染予防対策の対応をするためPPE(個人用防護具)の着脱訓練を毎回実施した。

(4) 情報共有

サービス提供責任者はサービスの統一を図るため、登録ヘルパーから問題提起や困っていることについて報告を受けたら共有し、速やかに解決するように努めた。また利用者の自立支援の観点から、過剰なサービスを提供していないかを確認しあつた。利用者へのアプローチ方法、リスク管理について、根拠をもって登録ヘルパーに指導していくことで、利用者の体調の変化の早期発見や、報告につながり適切に対応ができた。

事例検討会は年間29回開催し、関係しているヘルパーを招集し延べ90人参加した。

(5) 傾聴

今年度苦情はなかつた。次年度も、利用者や家族からの要望を受け止め、早急に解決が必要であるものは情報共有しながら、利用者や家族が満足できるサービスを継続する。

令和2年度

西会津町訪問介護事業所 障害福祉サービス事業報告

1. 基本方針

介護保険法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、要介護状態にある利用者に対し住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が継続でき、適正な訪問介護サービスを提供しその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう入浴・排泄・食事、その他の生活全般を支援しサービスの提供を行った。また、地域の関係機関との連携を強化し、地域福祉に貢献するよう努めた。

2. 重点目標

(1) 地域貢献

親睦会として、町内のゴミ拾いの実施、また西会津小中学校のリサイクル活動へ積極的に参加し地域の方々と一緒に活動することができた。

(2) 人材確保

ケーブルテレビを活用しヘルパーの募集を行った。10月から始まった介護職員初任者研修では職員3名が講師として講義を行い、実技実習では13名を受入れたが登録ヘルパーとして就労するには至らなかった。

R2年度では2名の雇用はあったが1名は体調を崩し退職、もう1名は土曜日のみであるが就労している。

登録ヘルパーは現在22名在籍しているが、高齢化もあり(平均63.6歳)自分の年齢、体力、スキルにあった訪問調整を行い無理なく業務出来るように配慮した。

(3) スキルアップ

コロナ禍で研修会参加が難しく思うように参加できなかった。次年度は職責に必要な資格取得について外部研修に参加し、専門的にスキルアップを目指していく。

今年度訪問介護員研修は密集を避ける為、場所を2か所に分けて年間8回実施し、1回平均18人参加した。通常の研修内容に加え、特に感染予防対策の対応をするためPPE(個人用防護具)の着脱訓練を毎回実施した。

(4) 情報共有

サービス提供責任者はサービスの統一を図るため、登録ヘルパーから問題提起や困っていることについて報告を受けたら共有し、速やかに解決するように努めた。また利用者の自立支援の観点から、過剰なサービスを提供していないかを確認しあった。利用者へのアプローチ方法、リスク管理について、根拠をもって登録ヘルパーに指導していくことで、利用者の体調の変化の早期発見や、報告につながり適切に対応ができた。

事例検討会は年間29回開催し、関係しているヘルパーを招集し延べ90人参加した。

(5) 傾聴

今年度苦情はなかった。次年度も、利用者や家族からの要望を受け止め、早急に解決が必要であるものは情報共有しながら、利用者や家族が満足できるサービスを継続する。

訪問介護事業所利用状況

【令和2年度】

1.介護度別実人数

令和2年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	31	30	31	30	29	31	30	31	34	31	27	28	363
要介護2	20	18	20	21	18	15	14	15	14	9	11	11	186
要介護3	10	9	9	8	9	11	11	12	10	9	11	13	122
要介護4	16	16	15	14	14	13	14	13	12	15	17	17	176
要介護5	9	9	8	7	7	7	9	9	9	9	9	8	100
申請中等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	86	82	83	80	77	77	78	80	79	73	75	77	947
事業対象者	7	7	7	7	8	6	7	7	7	6	6	6	81
要支援1	7	8	9	11	11	12	12	11	11	10	10	10	122
要支援2	5	5	5	4	4	4	4	5	5	5	5	5	56
計	19	20	21	22	23	22	23	23	23	21	21	21	259
障害者自立支援	14	13	14	14	14	14	13	13	14	14	13	14	164
移動支援	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	11
計	15	14	15	15	15	15	13	14	15	15	14	15	175
合計	120	116	119	117	115	114	114	117	117	109	110	113	1381

2.延べ回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	1,700	1,599	1,588	1,600	1,487	1,489	1,600	1,328	1,308	1,256	1,221	1,447	17633
総合事業	115	119	128	142	123	134	140	137	143	116	129	151	1577
申請中等													0
障害者自立支援	162	169	171	165	147	164	175	169	162	142	127	170	1923
移動支援	4	5	4	5	4	3	0	3	4	5	5	4	46
合計	1981	1892	1891	1912	1771	1790	1915	1637	1617	1519	1482	1772	21179

3.延べ時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	1,229.08	1,178.45	1,164.09	1,144.45	1,086.12	1,060.50	1,114.65	939.25	949.57	900.09	885.33	1,068.40	12,721.11
総合事業	122.58	122.35	131.20	146.35	127.15	135.50	146.15	141.35	147.10	121.20	134.39	155.39	1,630.71
申請中等													0
障害者自立支援	167.00	177.00	173.30	172.00	153.00	173.30	117.00	169.00	163.30	145.30	130.30	169.00	1,969.50
移動支援	2.00	2.30	2.00	2.30	2.00	1.30	0.00	1.30	2.00	2.30	2.30	2.00	21.80
合計	1,520.68	1,480.55	1,470.59	1,465.10	1,368.27	1,370.60	1,437.08	1,260.90	1,281.97	1,169.29	1,152.32	1,395.19	16,343.12

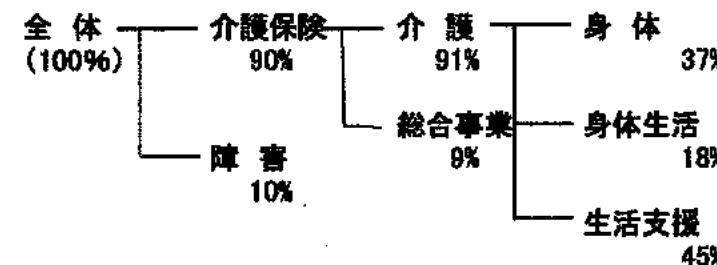
4.サービス提供責任者業務

	件 数	時 間		件 数	時 間
モニタリング(介護)	1704	1,044.59	訪問介護計画書作成	174	117.51
モニタリング(総合)	163	123.16	個別援助計画書	122	90.20
モニタリング(障害)	73	50.18	サービス担当者会議	172	202.08
モニタリング(移動)			カンファレンス	37	29.50
訪 問	907	621.17	訪問調整		551.28
実施報告書作成	1221	380.30	その他		5,053.15

5.ヘルパー活動サービス内容別状況

活動人數	活動時間	訪問回数
常勤	5 人	621:17
登録	24 人	18343:12

907回
21179回



ア 施設外研修状況 令和2年度 西会津町訪問介護事業所

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 ・福祉サービスの基本理念・倫理の基礎を理解する ・組織の一員としてのフォロワーシップの醸成 ・対人関係マナーとコミュニケーション ・理解促進シート相互紹介 ・キャリアデザインとアクションプランの策定 	事務員	須藤歩美	R2.8.5~8.7	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 朝礼で報告
2	高齢者虐待予防・身体拘束について	<ol style="list-style-type: none"> 1.身体拘束を必要としないケアの取組 ・高齢者虐待防止法の「虐待」の考え方 ・高齢者虐待のとらえ方 ・高齢者虐待発生の背景にあるもの 2.身体拘束について ・身体拘束を行う背景 ・身体拘束がもたらす弊害 	サービス提供責任者 登録ヘルパー	清野英子 小椋マサコ	R2.8.21	NPO法人福島県福祉サービス振興会 福島県文化センター	復命書 朝礼で報告
3	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 ・福祉サービスの基本理念・倫理の基礎を理解する ・組織の一員としてのフォロワーシップの醸成 ・対人関係マナーとコミュニケーション ・理解促進シート相互紹介 ・キャリアデザインとアクションプランの策定 	介護員	佐藤さおり	R2.9.2~9.4	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 朝礼で報告

4	令和2年度第2回福島県認知症介護実践者研修	10/20~21 ・認知症ケアの基本的理解（講義・演習） 10/26~28 ・認知症の人への具体的支援方法と展示会（講義・演習） ・課題作成、自施設実習取り組み説明 11/30 ・自施設実習評価・報告会（中止）・ 修了証交付	サービス提供責任者	伊藤萌美	R2.10.20~21 R2.10.26~28 R2.11.30	一般社団法人福島県認知症介護指導者連絡会 とうほう・みんなの文化センター	復命書 朝礼で報告

令和2年度事業報告書(登録ヘルパー研修)

研修名	研修内容	参加職種	参加者名・人数	期間	場所	研修結果の報告
第1回登録ヘルパー研修会	新型コロナウィルスの集団感染を防ぐために	訪問介護員	登録ヘルパー 18名	R2.4.3	介護センター実習室	報告書を回覧
第2回登録ヘルパー研修会	新型コロナウィルス感染症対策・対応マニュアルについて 脱水について	訪問介護員	登録ヘルパー 20名	R2.6.16	介護センター実習室 奥川未来交流館	報告書を回覧
第3回登録ヘルパー研修会	感染防止について(PPE着脱訓練) 食中毒について	訪問介護員	登録ヘルパー 17名	R2.7.22	介護センター実習室 奥川未来交流館	報告書を回覧
第4回登録ヘルパー研修会	感染防止について(PPE着脱訓練) 感染に関する聞き取りについて	訪問介護員	登録ヘルパー 19名	R2.8.27	介護センター実習室 奥川未来交流館	報告書を回覧
第5回登録ヘルパー研修会	感染防止について(PPE着脱訓練) 高齢者虐待予防と身体拘束について	訪問介護員	登録ヘルパー 19名	R2.11.16	デイサービスⅡ 奥川未来交流館	報告書を回覧
第6回登録ヘルパー研修会	感染防止について(PPE着脱訓練) 記録の書き方について	訪問介護員	登録ヘルパー 18名	R2.12.21	デイサービスⅡ 奥川未来交流館	報告書を回覧
第7回登録ヘルパー研修会	感染防止について(PPE着脱訓練) ノロウイルスについて	訪問介護員	登録ヘルパー 17名	R3.1.18	デイサービスⅡ 奥川未来交流館	報告書を回覧
第8回登録ヘルパー研修会	今年度のまとめと振り返りについて	訪問介護員	登録ヘルパー 17名	R3. 3.22	デイサービスⅡ 奥川未来交流館	報告書を回覧

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町訪問介護支援事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害 ・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

令和2年度

西会津町居宅介護支援事業所事業報告

1. 基本方針

- ・にしあいづ福祉社会理念、指針のもと、要介護状態になっても、住み慣れた自宅でその人らしい生活が続けられるように、利用者の尊厳を守り、傾聴の姿勢をもって支援に努めた。
- ・利用者のおかれている環境に応じ適切なサービスを安心、安全に利用して頂けるよう、利用者のニーズを把握し、町関係機関や、地域包括支援センター、各サービス提供機関との連携に努めた。また、困難ケースについて、地域包括支援センター主催のケア会議へ参加し、各専門機関と情報共有しながら利用者の生活支援に努めてきた。
- ・専門性の向上については、対人援助職としての質の高いサービス提供を行う為に、研修会へ参加や事業所内での勉強会を通じ自己研鑽に努めた。

2. 重点目標

(1) 地域への貢献

- ・地域の顔の見える関係づくりのため、昨年度から民生児童委員協議会定例会へ出席していたが、今年は新型コロナ感染予防対策のため参加は見合させた。年3回開催された認知症カフェには、利用者を紹介しつつスタッフとして運営の協力をしてことで、地域との交流、地域での利用者の様子を知る機会となった。
- ・社会資源の開発には至らなかったが、ささえ愛会議、介護保険事業計画策定委員会へ出席することで、ケアマネジメントの中で感じている課題や、必要な資源について、他の団体や関係機関と協議することができた。

(2) 人材の確保と育成

- ・コロナ禍の中で、外部研修への参加の機会は少なかったが、ケアマネジメントの質の向上に向け、法人内のケアマネジメント研修会の参加、事業所内カンファレンスや勉強会を実施し、アセスメントに必要な多方面からの視点の気づきを学ぶことができた。
- ・キャリアパスにおいては、キャリアパス生涯研修、法人内の研修会への参加や事業所内でも勉強会を実施し、キャリアパスの目的、事業所内での役割について理解に努めた。
- ・他法人との勉強会については、新型コロナ感染流行により開催することが出来なかつたが、電話にて事業所で行われている感染予防対策の実施状況について情報交換を行つた。今後もそれぞれの法人と情報交換を行い、お互いの地域での感染予防対策の状況を踏まえながら勉強会の開催ができる様検討している。

(3) 環境の整備

- ・システム活用については、福祉見聞録にある課題整理総括表、評価表の活用を実施してみた。課題整理総括表については、事務的な時間を要し上手く進めることができなかつた。評価表

については、この評価表を使用して担当者会議を行ったことで、サービス事業所より1つ1つ具体的な目標に対しての評価を頂くことが出来て良かった。この評価を基に、次年度の事務的な業務の効率化と誰が見ても分りやすい記録の整理に繋げて行きたい。

- ・運転業務について、ドライブレコーダーが搭載されたことで、より一層安全運転を意識し慎重な運転業務に努めた。
- ・新型コロナ感染予防対策で、感染予防対策についての研修会参加、感染予防対策マニュアルの作成、感染予防具の作成準備、PPE着脱についての勉強会を実施した。また、感染予防対策で事業所を2分割したが、パソコンを活用してのケース共有をしたり、3密に配慮した場所を確保して会議を行うなど、できる限りの情報共有に努めた。

(4) 社会の変化への適切な対応

- ・利用者のニーズを把握する中で、認知症独居、支援者不足のケースの増加があり、個別ケース会議へ参加する事で、町関係機関や地域担当民生委員、サービス事業所との情報共有や役割分担により支援に関わることができた。また、在宅看取りのケースも多くなつたが、本人、家族の思いを尊重し、医療機関を中心に状態変化に応じて、その都度情報共有やカンファレンスの開催で連携に努め、最後までその人らしさを支援した。
- ・事業所内でコミュニケーション能力の向上を目的に、年3回に分けて勉強会を行ってきた。今年度、利用者の満足度の向上を目指すため、利用者への満足度調査（アンケート）を実施した結果、「不満」と言う回答が1件あった。この結果を基に事業所内で振り返りを行い、今後も接遇面での向上を目指し自己研鑽に努めなければならないことを共有した。

(5) 各法令への対応

- ・今年度、保険者による給付適正化事業（ケアプラン点検事業）が実施され、ケアプラン作成や、適切なサービスの位置づけについて学ぶことができた。
- ・サービス提供にあたり、利用者、家族へ分りやすく説明し、提出が必要な書類については遅滞なく提出することに努めた。
- ・新型コロナ感染予防対策により、法令、運営事業における変更が多い状況であったため、その都度事業所内での情報共有し、利用者、家族へも速やかに説明した。

3. 令和2年度月別活動実績状況

(1) 介護度別利用人数（人）

年月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	83	63	33	29	16	224
5月	90	62	28	28	19	227
6月	94	62	29	29	16	230
7月	92	62	30	28	15	227
8月	93	62	29	27	16	227
9月	97	59	30	25	20	231
10月	93	61	31	26	22	233
11月	95	63	32	27	22	239
12月	96	64	33	25	21	239
1月	91	56	30	27	22	226
2月	89	58	33	28	21	229
3月	93	54	36	29	21	233
R2年度累計	1106	726	374	328	231	2765
H31年度累計	1053	715	501	348	190	2807

(2) ケアマネジメント対応別件数(件)

年月	電話対応件数	来所対応件数	訪問件数	サービス事業所連絡	ケアプラン作成数	担当者会議件数	モニタリング件数	福祉用具購入数	住宅改修
4月	206	17	342	238	25	34	306	0	0
5月	198	7	309	208	57	30	288	3 (3)	1
6月	237	13	289	211	36	42	294	0	1
7月	253	19	305	234	26	37	296	0 (0)	0
8月	207	2	268	193	59	35	267	0	0
9月	181	8	174	152	25	22	173	2 (2)	0
10月	206	9	321	221	30	36	296	2 (2)	0
11月	240	22	304	226	22	38	291	2 (2)	0
12月	233	9	307	213	29	24	255	0 (0)	2
1月	202	6	301	232	26	23	287	2 (2)	0
2月	207	1	277	224	34	37	242	0	0
3月	282	12	370	293	21	27	333	1 (1)	0
合計	2652	125	3567	2645	390	385	3327	12(12)	4

(3)利用者の動向

年月	新規契約	入院	入所	退院	退所	非該当等	永眠
4月	5	3	3	1	0	0	3
5月	5	5	1	0	0	0	2
6月	8	5	2	4	1	1	4
7月	9	4	3	1	0	1	2
8月	2	4	3	2	0	0	0
9月	11	6	0	3	2	0	2
10月	11	5	3	5	1	1	2
11月	8	6	5	2	3	0	3
12月	4	2	5	3	0	1	1
1月	11	5	1	0	0	1	4
2月	10	4	3	0	2	1	1
3月	3	7	3	2	0	1	2
合計	87	56	32	23	9	7	26

(4)認定調査・加算・住宅改修のみプラン作製

年月	認定調査 (3,780円)	初回加算 (3,000円)	入院連携加算		退院連携加算		住宅改修プラン (4,000円)	減算 (1/2)
			I (2,000円)	II (1,000円)	(I)	(II)		
4月	1	9	2	0	0	0	0	0
5月	0	19	4	1	2	0	0	0
6月	0	20	1	1	1	0	0	0
7月	0	9	2	2	0	0	0	0
8月	0	8	1	1	1	0	0	0
9月	0	18	5	1	0	0	0	0
10月	0	14	3	0	2	0	0	0
11月	0	30	6	0	2	0	0	0
12月	0	13	2	0	3	0	0	0
1月	0	14	3	1	3	0	0	0
2月	0	20	3	1	1	0	0	0
3月	0	15	5	1	1	0	0	0
合計	1	189	37	9	16	0	0	0

ア 施設外研修状況 令和2年度 西会津町居宅介護支援事業所

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	全会津介護支援専門員協会 第1回研修	第1部 「看取り士」上映 第2部 看取り士に関する情報交換・発表	介護支援専門員	平野保子	R2.7.14	全会津介護支援専門員協会 アピオスペース	復命書 朝礼で発表
2	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅職員研修	1.開会・オリエンテーション 1日目 セッション1【基礎科目の講義と演習】 （中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理） セッション2【基礎科目の講義と演習】 （福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める） （中堅職員としてのフォローワーシップの醸成） セッション3【重点科目の講義と演習】 （チームケアと問題解決—遭遇要因分析） 2日目 セッション4【啓発科目の講義と演習】 セッション5【行動指針の策定】 セッション6【キャリアデザインとアクションプランの策定】	介護支援専門員	折笠 みゆき	R2.11.4~11.5	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 朝礼で発表
3	喜多方地方定住自立圏認定調査合同勉強会	○介護保険事業状況について ○要介護認定記載のポイント ○認定調査に関する問題を出題	介護支援専門員	平野保子	R2.11.11	喜多方地方定住自立圏 喜多方プラザ 小ホール	復命書 朝礼で発表
4	令和2年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員研修	1：管理職としてのキャリアパス 2：福祉サービス基本理念・倫理を理解する 3：人材アセスメント 4：啓発科目の講義・演習 5：行動指針の策定(演習) 6：キャリアデザインとアクションプラン(演習)	管理者兼主任介護支援専門員	一登ユミ子	R2.12.21~22	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 朝礼で発表

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町居宅介護支援事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 ～通知	行政へ通知	県運営委員 ～通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

令和2年度 にしあいづ地域包括支援センター事業報告

1. 基本方針に対する評価

西会津町の業務委託実施方針のもと、単身高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中、要介護状態や認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく人生の最期まで暮らし続けられるよう、介護や医療、生活支援、介護予防を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築推進のため、それに関わる人々、関係機関が連携する体制づくりに努めた。

昨年度末から起きた新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの活動が難しい時期もあったが、感染対応マニュアルを作成し十分に感染予防対策したうえで、業務を継続した。

2. 重点目標に対する評価

(1) 介護予防ケアマネジメント

①その人らしい自立した生活ができるよう、介護予防の視点にたったケアプランを作成している。本人の意向を確認、アセスメントし、その人らしい生活を視野に、必要なサービスの利用に心がけた。また地域活動への積極的参加を継続し、地域での生活が継続できるように、サロンへの参加や近隣支援者との交流も確認しながらケアマネジメントを行なった。

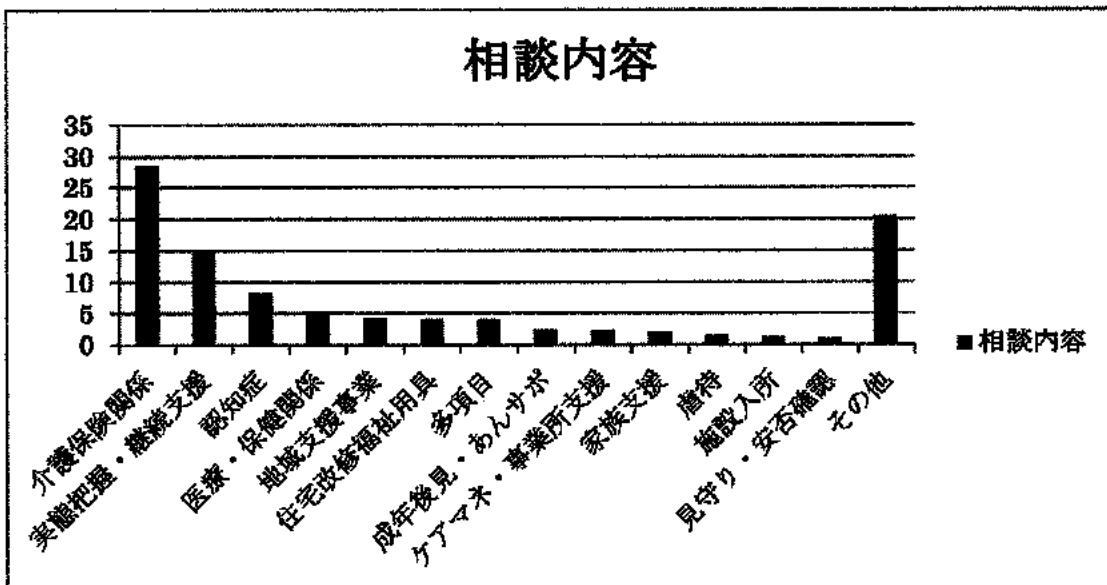
②ミニデイサービスでは定期的に検討会を開催し、利用状況の把握や情報共有を図り、サービスの向上に努めた。社会福祉協議会と連携を密にし、利用者の状態によっては随時情報共有しつつ対応を行った。今年度は2回に渡り、理学療法士により棒体操やストレッチを安全に実施するための注意点や、効果的な実施方法等の助言指導を受けた。また、新規採用の支援員については、介護予防や高齢者の理解が深まるよう学習会を行った。

③訪問型生活援助事業は5人の利用があった。シルバー人材センターと利用者の意向を確認し、モニタリングや報告書で利用者の状況等を評価し、利用者の生活機能の維持・向上に努めた。2人は介護申請し、1人は自立にて終了、2人は現在も利用中である。

(2) 総合相談支援業

①「地域包括支援センター」が高齢者の相談窓口であることを地域住民に浸透するために、関係機関の会議に参加した時や認知症サポーター養成講座・サロン等での講話の際、また家庭訪問時に、地域包括支援センターの役割を説明しパンフレットを配り周知に努めた。若い世代にも認知度を高めるために、法人ホームページの紹介ページの刷新や、活動状況の写真を更新した。

②相談内容（令和2年4月～令和3年3月）をおおまかに分類すると、下記のようになつた。



昨年度実績と比べると、相談件数・相談実人数ともに増加している。相談対象の年代は85歳以上、世帯は高齢者単身が多い。相談内容を分類すると、昨年度と同様で介護保険関係（認定申請やサービス利用）、次に実態把握・継続支援（民生委員や家族、行政、医療機関からの情報で生活状態の実態確認、サービス利用はしていないが継続的にモニタリングが必要なケースの訪問、会議後の継続的フォロー等）、認知症（家族・地域・警察等から対応相談、徘徊、物盗られ妄想、金銭管理、車運転等）という順位結果になっている。

相談を受け付け後は、三職種で共有協議し適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローし、必要に応じてセンター自らの各業務として対応していった。

さらに相談内容を分析すると下記のような課題が把握されたため、毎月の月次報告で町と共有してきた。

【認知症】

- ・認知症高齢者への対応（徘徊、物盗られ妄想、被害妄想、服薬管理、金銭管理、排泄面での介護負担、家族への支援、家族の認知症対応、サービス拒否、介護者が入院した場合の残された認知症高齢者の支援、閉じこもり、廃用性）
- ・若年性認知症（当事者と家族支援、徘徊時の見守り）

【多問題を抱えるケース】

- ・8050問題（認知症高齢者と無職の子供、中高年のひきこもり）
- ・同居家族の介護力（男性介護者、障がいをもった子供との同居）
- ・子供等身元引受人になってくれる人がいない世帯

(その他)

- ・高齢者の車運転
- ・アルコール依存症の人の在宅生活支援
- ・精神疾患入院患者（独居）の生活の場
- ・役場で介護申請した後、支援につながっていないケースの対応
- ・経済面からのサービス拒否
- ・男性独居高齢者の食生活
- ・健診未受診
- ・末期がんの在宅支援
- ・新型コロナウイルス感染症の影響（サービス利用控え、集まりに出かけられない
ストレス、遠方住の家族が来町できず今までの支援ができない）

③介護予防事業実態調査で多項目チェックがあつた高齢者訪問は、健康支援係から依頼が29名あり、心身や生活状況の実態調査を行つた。整形疾患や、認知症、閉じこもり（高齢で近隣に友人がいなくなった、新型コロナウイルス感染症により外出控え、難聴で他者と交流しにくい等）が、多項目にチェックがつく要因だった。訪問をきっかけに、4名が介護申請し介護サービスを、他1名が機能訓練事業開始となつた。多項目チェックにならないためには、若い頃からの生活習慣病予防、適度な運動習慣、高齢になっても役割をもち他と積極的に交流することなどセルフケアが重要と健康支援係に結果報告した。

（3）権利擁護業務

①成年後見制度等に關わる相談は6件あり、制度の概要などパンフレットを提供し紹介した。内老夫婦世帯の2ケースは、財産管理をしていた夫が入院・要介護状態となり施設入所。認知症のある妻が世帯の金銭管理を担っているが、紛失など適切な財産管理が出来ない状況。申立できる親族がいなかったため町と相談し、市町村長申立を進めた。生活費の管理支援が早急に必要なため、成年後見人等選任までの期間、日常生活自立支援事業（あんしんサポート）の利用につないだ。

②高齢者虐待対応事例は7件あり、内3件は認知症高齢者が対象。家族関係不和・認知症介護・男性介護者の孤立・介護者の介護力不足・経済的問題など、世帯背景には様々な課題あり、解決に向け、町や関係機関と連携しながら対応にあつた。

③消費者被害相談に対する個別ケース相談はなかつたが、平成27年度に相談があつた戦没者記念誌訪問販売と同業者による訪問販売に対する注意喚起が、県より町に情報提供があつたため、当時の対応結果を福祉介護課と情報共有した。

(4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ①町内の介護支援専門員等からの具体的な相談は8件あった。その対象者は認知症徘徊や物盗られ妄想、アルコール依存症のある方々だった。相談内容はサービス利用を増やす必要性があるが家族の了承が得られない、物盗られ妄想で交番に通報したり地域住民とトラブルがある、退院後生活のサービス利用等援助に困難を感じている、地域内を徘徊している事例だった。事例により、地域ケア個別会議を開催し関係者間で協議しサポートしたり、GPS等社会資源を紹介した。
- ②地域ケア個別会議を主催し地域支援ネットワーク構築を目指したことに加えて、包括もそのネットワークの一員として、民生児童委員協議会定例会、西会津町生活支援体制整備事業ささえ愛支援会議・3者協議、グループホーム連絡会、啓和会運営推進会議、グループホームのぞみ運営推進会議、福島県生活困窮者自立相談支援事業会議に参加し、さまざまな分野と連携した。新型コロナウイルス感染症対応の影響で、一部書面での情報共有になってしまったが、個々の支援については途切れることがないように必要な関係者間で協働した。

(5) 地域ケア会議

- ①地域ケア個別会議には、高齢者サービス調整会議、チームアプローチ研修会、ケアマネジメント研修会、個別ケース会議の4つを位置付けている。新型コロナウイルス感染症対応では3密を避ける必要があり、異なる団体から一つの場所に集合し協議する会議や研修会の開催は困難な場合もあったが、必要性に応じ書面としたり、集まる環境や時間を配慮することで継続できた。
- ②高齢者サービス調整会議は月1回サービス利用の情報共有が主な内容なので約半分は書面の配布で対応した。地域の対応力アップを目的としているチームアプローチ研修会とケアマネジメント研修会は、状況に応じメニューを変更しつつも感染症対応をして実施した。事例検討後は地域課題について参加者で意見交換し、町に提案した。個別ケース会議は2名の対象者（アルコール依存症、BPSDの強い認知症高齢者）について関係者間で協議し、その後の支援につなげた。
- ③「自立支援型地域ケア会議」は2回開催した。薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士より、具体的な助言をもらい新たな知識を得ることができた。介護予防に向けて、高齢者やその家族が自ら行動変容することにつながるように、その助言を活かし支援に努めた。

(6) 認知症総合支援業務

- ①平成28年に作成した「認知症ケアパス」は、発行から4年が経過し、今年度は新たな町の社会資源を盛り込んだ改訂版の発行に向け、西会津町高齢者サービス調整会議の参加事業所より、認知症の進行に伴い当事者の様子の変化と、家族・地域の心構えについて意見聴取を行い作成した。4月には改訂版西会津町認知症支援ガイドを関係機関と町内全戸に配布予定。
- ②認知症ケアスキルアップ研修会については、受講修了者のステップアップ研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により、外部講師を招くことが困難となった。外部講師からの助言を参考にしつつ、実施方法や研修内容を町と共に検討を重ねたが、オンライン環境など研修開催条件を整えることが困難であったため、今年度の開催は中止とした。
- ③認知症サポーター養成講座は、5団体に実施。働き盛り世代への認知症の普及啓発の取り組みとして、昨年度会津美里町との情報交換会で学んだ『子供から親世代へ認知症の普及啓発の取り組み』を活かし、小学校での講座では、受講後の児童たちから家族に授業で学んだことを伝えてもらい、保護者には児童から話を聞いた感想を振り返りシートのコメントに記載してもらった。子供から話を聞いた親世代が認知症を知る機会ができた。
- ④認知症初期集中支援チームは、被害妄想や暴言暴力行為・サービス利用拒否などの周辺症状が強く、服薬管理が困難な独居高齢者1件を支援。チームが介入し、鑑別診断のため専門医の受診・検査入院につないだ。
- ⑤認知症カフェ(オレンジカフェいいで愛)は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当初計画通りには実際出来なかつたが、カフェ開催を希望される地域住民からの声に応えるため、感染対策に努めた実施方法について検討を重ねた結果、個別に事業を周知し、参加人数の制限と時間短縮など感染対策を講じながら、群岡・奥川・尾野本の3地区に出向いて開催した。
- ⑥認知度高齢者の見守り体制の整備では、西会津町高齢者等あんしん見守りネットワーク会議に参加し、地域包括支援センターに寄せられる相談事例などを紹介。徘徊相談ケースでは、独居や日中家族が就労しているため一人で過ごしている等の理由から、常時の見守りが困難なケースが多く、介護サービス利用の他、随時民生委員や警察とも情報共有してきた。警察に保護されたケースが1件あったが、以前地元交番へ情報共有していたケースであったため、身元確認や緊急連絡等が捜査情報に活かされた。

にしあいづ地域包括支援センター実績報告書 令和2年4月～令和3年3月

※()は前年度

1.相談件数(延べ件数)

	来所	電話	訪問	メール・文書	会議	その他	総計
日中	70	1861	393	28	20	371	2743(2165)
夜間	1	26	0	2	0	3	32(10)
総計	71(84)	1887(1293)	393(465)	30(19)	20(11)	374(303)	2775(2175)
新規(再掲)	20(37)	260(188)	63(66)	3(1)	5(3)	48(45)	399(340)

2.相談実人数

	男性	女性	不明	総計
継続	129	186	0	315(234)
新規	135	183	2	318(311)
総計	264(231)	369(314)	2	633(545)

3.年代別(延べ件数)

	65歳未満	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明	総計
相談者年齢	123(121)	439(339)	649(612)	1552(1100)	12(3)	2775(2175)

4.世帯構成(延べ件数)

	高齢者単身	高齢者世帯	高齢者同居	その他・不明	総計
世帯構成	1070(830)	865(596)	702(518)	137(231)	2775(2175)

5.相談者(延べ件数)

家族	本人	491(510)	近隣 地域関係	近隣住民	7(41)
	配偶者	178(139)		親戚・知人	104(26)
	子供	415(365)		自治会・老人クラブ	0(10)
	子の配偶者	103(60)		商店・コンビニ	2(4)
	兄弟姉妹	58(33)		金融機関	1(0)
	親	7(0)		新聞店	0(0)
	甥姪	37(19)		宅配・交通機関	0(0)
	その他(家族)	52(24)		飲食店	0(0)
関係機関等	地域包括	17(5)	行政関係	その他(近隣)	0(4)
	ケアマネ	147(135)		福祉担当	110(72)
	サービス事業所	189(173)		介護保険担当	328(196)
	福祉施設	3(22)		障害者担当	7(4)
	社会福祉協議会	36(12)		健康増進課	167(95)
	シルバーパートナー	21(0)		初期集中支援チーム	0(0)
	家庭裁判所	0(0)	その他	警察・消防	18(14)
	医療機関	487(385)		NPO・団体	0(0)
	薬局	7(8)		ケース会議	1(0)
	民生委員	55(61)		その他	8(1)
	成年後見人	2(12)	総計		
	その他(関係機関)	9(9)			3067(2449)

6.相談内容(延べ件数)

前年度()

	件数		件数
1.日常生活相談	258(196)	14.生活保護・経済的困難に関する事	20(29)
2.介護一般の相談	52(55)	15.成年後見制度に関する事	51(31)
3.介護保険サービスに関する事	529(341)	16.日常生活自立支援事業に関する事	23(4)
4.介護保険に関する事	571(388)	17.虐待に関する事	37(58)
5.保健・医療に関する事	731(438)	18.消費者被害に関する事	0(11)
6.介護予防事業に関する事	124(81)	19.情報提供・情報共有	1046(517)
7.障害福祉に関する事	14(4)	20.継続観察・実態把握	138(143)
8.施設入所に関する事	48(103)	21.見守り相談	69(33)
9.家族間の問題に関する事	40(19)	22.安否確認	11(8)
10.住宅改修・福祉用具に関する事	78(75)	23.緊急対応	28(22)
11.認知症に関する事	235(179)	24.苦情	1(10)
12.精神疾患に関する事	63(20)	25.その他	140(116)
13.アルコール問題に関する事	57(15)	総計	4362(2896)

7.介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント(延べ件数)

○予防給付管理

	介護予防支援	総合事業予防ケアマネジメント
直営プラン	531(516)	256(266)
委託プラン	0(1)	0(0)

○介護予防ケアマネジメント

ミニデイ・訪問型生活援助	283
--------------	-----

8.包括的・継続的ケアマネジメント支援(延べ件数)

前年度()

	ケアマネージャー	サービス事業所	その他
相談・助言	9	4	14
サービス調整	0	0	0
関係機関調整	1	6	3
同行訪問等	6	0	5
医療機関等への同行	0	1	2
担当者会議参加	0	0	0
会議開催支援	2	1	4
連絡・報告	24	3	17
その他	0	0	15
合計	42(56)	15(65)	60(43)

○介護支援専門員や事業所等からの相談内容(実件数)

	ケアマネージャー	サービス事業所等
支援困難ケースについて	1 (0)	1 (3)
ケアマネジメントについて	1 (1)	0 (0)
認知症高齢者への対応	3 (0)	1 (1)
利用者や家族からの苦情	0 (0)	0 (0)
医療・介護の連携	0 (0)	0 (0)
生活困窮・金銭管理	0 (1)	0 (1)
その他	0 (1)	2 (1)
合計	5 (3)	5 (6)

地域ケア個別会議

参加事業所（略の説明）

特養⇒特別養護老人ホームさゆりの園、D S⇒さゆりの園デイサービスセンターⅡ、のぞみ⇒グループホームのぞみ、生支ハ⇒高齢者生活支援ハウス、老健⇒老人保健施設「憩の森」、D C⇒老人保健施設「憩の森」通所リハビリテーション、訪介⇒西会津町訪問介護事業所、居宅⇒西会津町居宅介護事業所、障がい相談⇒障がい相談事業所、レンタル⇒福祉用具貸与事業者、薬局⇒さゆり・こゆり調剤薬局、訪看⇒西会津町訪問看護事業所、西診⇒西会津診療所、しなのき⇒介護付き有料老人ホームしなのきホーム、しょうぶ苑⇒小規多機能型居宅介護事業所西会津しょうぶ苑、桐⇒しょうぶ苑グループホーム桐、おとめゆり⇒しょうぶ苑グループホームおとめゆり、社協⇒西会津町社会福祉協議会、民協⇒民生児童委員協議会、福祉介護課⇒福祉係・介護係、健康増進課⇒健康支援係、包括⇒にしあいづ地域包括支援センター

【高齢者サービス調整会議】

<目的>

地域の高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように、地域の関係機関が集まり、地域のサービス利用状況や各事業所が抱える課題等の情報を共有し、解決に向けた連絡調整や役割分担を図り、必要な地域づくり・資源開発と、政策形成につなげられるようにすることを目的に開催する。

※今年度は新型コロナウィルス感染拡大防止のため、重要議題が無い場合は書面で確認し、お知らせ等の周知がある場合は資料と共に配付し、情報共有を図った。

開催回数	参加事業所	内容
12回 (6・9・11・ 12・1・2・3月 は書面開催)	特養・D S・のぞみ・生 支ハ・老健・D C・訪介・ 居宅・訪看・西診・薬局・ しなのき・しょうぶ苑・ おとめゆり・桐・社協・ 民協・福祉介護課・健康 増進課・包括	<ul style="list-style-type: none">・各機関の利用情報・各事業所からの近況・R2年度包括主催の会議や研修会の日程について・生活支援コーディネーターの事業説明及びサロンシートについて・緊急通報システムについて・介護保険負担限度額認定申請について・ふんわりチャンポン大作戦について・高齢者生活支援ハウス入居希望者について・認知症ケアパス改訂版について・赤ベコプロジェクトについて・冬期間の憩の森入所について

【個別ケース会議（困難事例）】

<目的>

解決すべき課題や多問題を抱えた困難事例のケースについて、各専門職、団体や関係機関と連携を図り、個別支援及び地域課題を意識しながら迅速な課題解決に向けての支援につなげる。

開催回数	参加事業所	開催日・対象者	内 容	地域課題	結果・その後
4回	福祉介護課、健 康増進課、西 診、訪介、居宅、 D.S、包括、親 戚、近隣、民生 委員、交番	①8月24日 69歳（女性）	アルコール依存症の問題を抱えた独居高齢者。多発性神経炎（アルコール性）による下肢痛と痺れがあり歩行が困難で転倒や失禁がある状態。特定の知人男性宅で世話になり生活することが中心になっているが飲酒し大声をだし近所からクレームが来たり、失禁して悪臭がしていたり周囲は困っている。今後の生活について本人の意向の確認がとれず、医療機関受診も拒否しているので、関わっている保健師、包括、西会津診療所、福祉介護課で課題整理と今後の支援の方向性を協議した。断酒するためには周囲の理解が必要であるため、知人男性に断酒の関わりができるか確認することや、転倒が多いので救急搬送の確率が高いため、本人に了承をとりアルコール治療のできる病院に事前に情報提供することにした。	アルコール依 存症の人の在 宅支援	本人が滞在している男性知人宅に訪問。飲酒しており、下肢には複数の褥瘡ができて痛み訴えあり。独歩困難、失禁状態で室内環境も不衛生。本人に受診の必要性を説明し、西会津診療所に状態報告。病院への入院加療紹介となり、本人を自宅に戻す。入院受入れまでの12日間は近隣支援者の見守り支援の協力により断酒。親族・町保健師同伴で受診・入院となった。 ※その後は、②の会議。
		②12月16日 69歳（女性） ※①と同様の対 象者	①の対象者。前回のケース会議の後、9月に転倒し右目周辺の裂傷、トイレに歩けず失禁状態、両足に床ずれ複数で医療機関入院となったが、12月病院内カンファレンスで、治療は終了し退院可能だが、他の患者とトラブルがあり集団生活は難しいので施設ではなく、本人も望んでいる		

		<p>在宅に戻る方向となった。退院後、本人が再飲酒せずに在宅で過ごすため必要な支援・約束事について、前回のメンバーに、親戚や地域の人、居宅ケアマネを加え協議した。退院に向けては、自宅が老朽化しているため今後住める環境かを本人に確認してもらう機会（外出）をもてるか、積雪もひどく冬期間の在宅は難しいため入院延長できるか、退院後のアルコール治療はどうしたらいいかを病院に相談することとした。</p>		<p>院後自宅に住むことは不可能であり、町営住宅への転居を本人も承諾し、町営住宅に入居決定までは入院継続となった。※その後は、③の会議。</p>
	<p>③2月24日 70歳（女性） ※①と同様の対象者</p>	<p>①の対象者。町営住宅への転居を本人が了承し、町内在住の親戚が申し込みを行っていたが、入居できる見込みとなつた。退院後再飲酒せず過ごすために必要な支援と退院に向けての準備・役割分担について、①②の参加者に加え、さらにサービス事業所を交えて協議した。病院側から、再飲酒につながらないように服薬管理が重要とのことだったので、服薬確認をメインにサービスを組み立てることとした。引っ越しについては、退院前の外出時に、本人に自宅と転居先の住環境を確認してもらい必要なものを親戚の支援で揃えることとし、退院の日取りはその時に決めることとした。</p>	<p>アルコール依存症の人の在宅支援</p>	<p>左記のケース会議後、退院準備に向け転居先の環境確認のため、病院支援で本人が2度目の一時外出。必要な家財道具の搬入や介護サービス導入等の準備を進め、3月中旬退院予定。</p>

	<p>④12月1日 86歳（女性）</p>	<p>要介護2の独居高齢者。娘に対する物盗られ妄想がある。本人からこれまでに交番や行政等に相談があったが、11月からは頻繁に西会津交番に電話があり、喜多方警察署や福島県警本部にも電話するため、対応に苦慮。娘や地域住民に対する暴言・暴力行為やサービス利用拒否もあることから、交番、居宅、デイサービス、西会津診療所、福祉介護課、健康増進課、包括で現状を共有し支援方法を検討した。妄想の他にも服薬管理ができない等、総合的に在宅で一人の生活は危険な状況であるため、専門医療（できれば入院）につなげる必要がある。その手段として、認知症初期集中支援チームを活用することとし、まずは娘夫婦にチームについて説明をし、同意を得られれば、家族に希望の病院を聞きつつ進めていくことになった。</p>	<p>独居の認知症高齢者の生活の場</p>	<p>娘夫婦と面談し、福祉介護課から左記のケース会議の結果を説明。独居で服薬管理ができない、娘に対する被害妄想から本人への関わりにも精神的負担が大きいため、認知症状（暴言・暴力行為等）軽減のため専門医での治療につなげるための認知症初期集中支援チームの支援希望。チーム員介入により専門医受診・入院につながった。※別紙認知症初期集中支援チーム対応事例参照。</p>
--	---------------------------	--	-----------------------	--

【ケアマネジメント研修会】

<目的>

高齢者のみの世帯やひとり暮らしが増加するなか、介護が必要になったとしても、また認知症になったとしても、できるだけ住み慣れた地域で生活できるための仕組み作りが求められている。個別の事例の検討を通じ、個々のニーズに応じて必要とされるサービス（インフォーマルを含む）を適切に結びつけ調整を図りつつ包括的かつ継続的にサービス供給を確保できるように、地域の対応のスキルアップを目指す。

開催回数	参加事業所	内 容 ※() 内は事例提出事業所	地域課題
10回	居宅・包括 福祉介護課 健康増進課 しなのき・おと めゆり・しよう ぶ苑・特養・老 健・のぞみ・訪 介・DC・訪看・ 社協・会津保健 福祉事務所	6月 90歳女性。要介護2。独居。自立度J2 認知度Ⅲa。毎日、訪問介護利用。毎日散歩するが、他家の軒先の花を探ったり、危険な場所を歩くので、近所の親戚から町内在住の長男に連絡が行き、長男の精神的負担になっている。本人の希望通り在宅生活を継続するための支援について検討。(居宅) ※その他、令和2年2月に事例検討した1ケースの振り返り報告。	徘徊者の地域見守りネットワークの仕組みづくり・徘徊者緊急時を想定した捜索訓練
		7月 60歳男性。要介護2。弟と二人暮らし。自立度A1 認知度自立。小規模多機能利用中。利用当初は栄養改善・体力向上の目標が明確だったが、1年後の現在は体重増加しクロスワード熱中し睡眠時間も少ない状況。通いサービスが中心であるがこのままの継続でいいか、家族支援も含め検討。(小規模多機能)	作業型通所サービスの必要性 ・パーキンソン病の方の対応 勉強会・男性のみ世帯の食生活・男性介護者への支援
		8月 84歳女性。要介護2。有料老人ホーム入所中(町外から入所)。自立度B2 認知度I。自己主張が強く、「他人と違い大変な体になっている、動けない」と職員を長時間独占する。一部介助が必要ながらも自分で動くことができる所以、どのように促していくか快く自分で動くことができるようになるかを検討。(しなのき)	地域を超えた情報収集と、次の機関へのつなぎ

	<p>9月 自立支援型地域ケア会議</p> <p>助言者：薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士</p> <p>① 87歳女性。要支援1。夫と二人暮らし。自立度J2 認知度II b。 テーマ「夏の体調不良を乗り切り、在宅での生活を続けるために」（地域包括）</p> <p>② 79歳男性。要支援1。長男夫婦と同居。自立度J2 認知度II b。 テーマ「リハビリや生活習慣の改善への意欲が低い利用者のモチベーションをあげるために」（地域包括）</p> <p>10月 81歳女性。要介護3。グループホーム入所中。自立度J2 認知度III a。他の利用者に対して暴言や、相手の反応に対して手をあげる素振りをする。そのため、利用者間では避けられてしまっている。職員間で何度も対応方法を検討してきたが状態改善には至らないので、ほかにどのような方法があるか検討。（のぞみ） ※その他、6月と7月に事例検討した2ケースの振り返り報告。</p>	認知症高齢者の共同生活の難しさ
	<p>11月 自立支援型地域ケア会議</p> <p>助言者：薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士</p> <p>① 70歳女性。要支援2。長女と二人暮らし。自立度A1 認知度自立。 テーマ「冬に向かうにあたり腰痛が再発しないために」</p> <p>② 86歳女性。要支援2。独居。自立度J2 認知度I。 テーマ「冬期間の身体機能低下を予防し、在宅生活を維持していくためには」</p>	
	<p>12月 87歳女性。要介護3。長男夫婦と同居。自立度A2 認知度III b。排泄の汚染が目立つようになり家族の負担軽減のため、ショートステイとデイサービスで月の大半をサービス利用で過ごしている。本人にとって連続したサービス利用が適切なのか支援内容の検討と、排泄面での家族へのアドバイスについて検討。（居宅）</p>	認知症理解の普及 グループホームの待機者増加

	<p>1月① 88歳女性。要介護5。長男、二男と同居。自立度 B1 認知度Ⅱa。二男がキーパーソンであるが介護について無関心で、ひきこもりの長男に任せている。自宅内は猫の多頭飼育で不衛生。地域との交流もないこの世帯への支援について検討。(居宅)</p>	8050問題 猫の多頭飼育問題
	<p>2月① 98歳女性。要介護3。特別養護老人ホーム入所中。自立度 B1 認知度Ⅲb。夜間不眠や「死んだほうがいい」と悲観的な言葉、介護抵抗と心落ち着かない。日々の生活を心穏やかに過ごすために、施設内でも事例検討したケース。この研修会にて、在宅にいた時の情報や、他機関からの意見を提供した。(特養)</p>	人生会議への取り組み
	<p>3月① ・8月、9月、10月、12月に検討した5ケースの振り返り報告。 ・1年間の地域課題の共有</p>	

【チームアプローチ研修会】

<目的>

ケアマネジメント（介護支援サービス）は、さまざまな領域の専門職がチームとして対応することが重要。チームアプローチに焦点をあて、利用者が住み慣れた地域で最後まで尊厳を保ちながらその人らしい生活を継続できるよう、支援に関わる専門職の資質向上を目指し研修会を開催。

開催回数	参加事業所	内 容
2回	特養・D.S.・のぞみ・老健・D.C.・訪介・居宅・訪看・西診・社協・福祉介護課・健康増進課・包括	<p>第1回 5月 訪問看護事業所から、テーマ「超高齢者のターミナルの関わりについて（医療と介護の連携）」の事例提供にて、グループワーク形式で事例検討した。 (参加者：26名)</p> <p>第2回 9月 西会津町健康増進課と合同企画にて、外部講師による専門職向けの講演会を開催。 (参加者：31名)</p> <p>講義①「あなたの背骨、健康ですか？」 講師：福島県立医科大学 会津医療センター 整形外科・脊柱外科学講座教授 白土修氏</p> <p>講義②「ロコモに負けず 元気・長生き・運動器！」 講師：福島県立医科大学 会津医療センター 整形外科・脊柱外科学講座リハビリテーション科 遠藤達矢氏</p> <p>※年度計画では全3回予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策のために2回になった。</p>

【高齢者虐待対応事例】

対応件数	対象者	内容	対応・結果
7件	①88歳 女性	長男夫婦と3人暮らし。長男の妻と折り合いが悪く、十分に食事を提供してもらえていないようで、痩せた様子に自治区の人たちは心配している。長男の妻がいるので、近所の人たちは何も言えない状況。訪問して様子を見て欲しいとの福祉協力員より情報提供。	近隣である診療所職員に世帯状況確認。二男は近隣市町村・三男は県外在住で、これまで冬期間は二男・三男宅を往来しながら過ごしていたが、今期は行かず自宅で長男夫婦と生活。先日地区内で押し車を押したまま動けなくなっている所を発見し、痩せて歩けない状況であったため、目的地の親戚宅まで送迎を支援。その際本人からは、この半年間は長男が運んでくれるおにぎりを食べていることと、長男の妻からは責められる話があった。同日親戚宅から二男へ連絡が入り、本人は二男宅で保護。二男の支援で介護保険申請。認定調査に福祉介護課福祉担当職員が二男宅に訪問し事実確認。長年長男夫婦からのネグレクトあり。本人も自宅には帰りたくないとの意向であったため、今後は二男宅で生活しながら介護サービス利用予定となった。終結。
	②78歳 女性	夫と三男(三男は病気による退職で帰省していたが町内に住所なし)の3人暮らし。三男が本人より長電話を注意されたこと等に対して、殴る蹴る等の暴行を加えた。これまで暴言を言われたことは何度かあったが、暴力を受けたことはなし。帰省した二男から警察に通報。警察が確認すると、三男は暴力行為を認めたが、本人に外傷はなし。警察から三男へ口頭注意あり。	福祉介護課より情報提供を受ける。緊急性はなく、再度暴行により警察が介入した場合は、町でも積極的に介入していくことで情報共有。その後、三男は就労のため別居。

	③ 84歳 男性 要介護3 認知症	独居。過去に何度か徘徊があり、親族・地域・警察と見守りをしていたケース。夜間の徘徊があり、生命の危険があることから娘宅のある町外へ生活拠点を移行したが、娘と同居ではなく、離れた別宅で生活。食事は娘が運んでいるが、終日施錠がされている。地元のショートステイを利用しながら施設入所（特養・老健・グループホーム）待機中。痩せて活気がない状態と担当ケアマネから情報提供。	ケアマネからの相談内容を福祉介護課と情報共有。ショートステイ入所中に担当ケアマネ立ち合いで本人と面談。本人は地元のショートステイは顔見知りが多く安心していた。現在の生活は、夜間徘徊したことで心配されて連れて行かれたためやむを得うことと、子供達には気は遣っているとの返答。今後も地元のショートステイを利用の継続を希望。今後は定期的に1週間ずつショートステイと生活拠点を行き来していくサービス予定のため、体重推移や経過を継続観察していくことで関係者間と共有。
	④ 85歳 女性	前年度より継続事例。夫と2人暮らしでしたが、夫からの暴言暴行が繰り返されるため、県外の長女宅で夫婦共に生活中。再び夫からの暴言が再燃したため、長女が警察に相談。本人と夫を分離するよう助言があったため、地元に戻り有料老人ホームへの入居相談あり。	介護認定未申請者であるため、緊急的な分離であれば一時的に長男宅へ本人を分離する方法について親族間で相談してもらうが、長男が感染流行地域と往来している生活のため、新型コロナウイルス感染の恐れの高い長男宅での生活は困難な状況。長女宅隣域の地域包括支援センターに情報提供し介入依頼。本人・長女と面談してもらい、本人保護のため養護老人ホームへのショートステイ受入れを調整。サービス調整中の間、夫の暴言で長女と激しい口論となつたため、家族が地元警察に通報。夫は精神科受診につながり入院により分離。終結。
	⑤ 98歳 女性	長男と2人暮らし。住所地は県外だが、毎年降雪時期以外は町内で長男と生活。住所地と往来の生活を送っていたが、新型コロナウイルス感染拡大により住所地に戻れない。近隣住民から診療所に長男の怒鳴り声が酷いと相談あり。長男が処方希望で診療所に来院したが、平成29年より受診歴がなく、受診してもらい痛み止めと睡眠導入剤処方。住所地では介護サービスを利用していったようだが、町内ではサービス利用意向なし。診療所から健康支援係にも情報提供済。	地区担当民生委員に見守り状況確認。本人が外出したいと騒ぎ、毎日長男が車に乗せ外出。近隣住民が本人の要望で1度外出支援をした時に、長男が「余計なことをするな」と怒鳴り介入拒否。長男は態度や言葉が荒々しく周囲は苦手意識あり。最近大声を出している所は近隣では聞いていないが、秋になり住所地に戻る時期になると思い見守りしているとの情報。福祉介護課・診療所と情報共有。民生委員と情報共有から1ヶ月後、呼吸確認ができなくなり長男が診療所に連絡。徐々に経口摂取が困難な状態になっていたとのことだが、最終受診日から4ヶ月間受診していないため検死となつた。

	<p>⑥ 91歳 男性 要介護1 認知症</p>	<p>長男夫婦と3人暮らし。自ら摘便行為を行い、トイレ内を汚染するため家族がトイレを使用させないよう施錠し、オムツ対応にした。排泄介助でヘルパーが訪問すると、ベッド柵に手を縛られていた。排便時にオムツの中に手を入れたり、オムツ外しをする行為に家族は困り、オムツ交換後に長男の妻が再び本人の手をベッド柵に縛り、右手は強く掴まれ内出血になっていた。本人から「長男の妻から叩かれる」と言っていたと登録ヘルパーより通報。</p>	<p>事実確認。訪問時は手の拘束は外れていたが、右手甲～手首にかけ内出血跡確認。本人はオムツを外すと長男の妻から怒られ、手を強く握られるため、ショートステイ利用を希望。高齢者虐待対応協力者会議開催。福祉介護課と同行し、家族の介護負担を確認。摘便で汚れた手で周囲を触るため大声で怒ることと、不潔行為を防ぐため本人の手や体幹を縛ったことを認める。長男の妻には、本人の前で怒ることは望ましくないことを伝え、介護負担軽減のためショートステイ利用を勧める。長男は農繁期が多忙なため利用を希望するが、長男の妻は本人の年金ではサービス利用料を補えきれいため拒否。長男夫婦以外の親族に経済的援助は頼れない状況。今後介護負担限度額認定に該当すると減免になることを提示。その後ショートステイ利用再開となつたが、経口摂取量低下し、脱水のため入院加療。入院により終結。</p>
180-	<p>⑦ 90歳 女性 要介護1 認知症</p>	<p>無職の長男と2人暮らし。2人の年金で生活しているが、長男は適切な金銭管理ができなく、負債を抱えた生活困窮世帯。親族や近隣に金銭を無心するが返済をしないため、周囲は関わるを拒絶。長男に十分な介護力はないが、経済的課題から介護サービスに制限あり。通所サービス利用時に左足に複数の水疱と壊疽状態を発見するも、長男は受診代・タクシ一代もないため受診援助を拒否。介護サービス利用料預り金から受診代を捻出し、関係者間で受診支援。長男によるネグレクトと経済的課題があるケースとして診療所から福祉介護課へ情報提供。</p>	<p>担当ケアマネに情報収集。暖房器具がなくコタツで寝起きし、食事は長男が準備しているが、猫が舐め不衛生な状態。当面排泄介助で訪問介護が1日おきに訪問し、主治医の指示にて緊急時の連絡体制とし訪問看護の連絡先を長男に情報提供されていた。状況確認のため福祉介護課と訪問。左足広範囲に処置が必要。室内は極寒な環境。長男は介護をしたい気持ちはあるが、終日はみれないため施設利用希望。世帯の収支状況確認。負債もあり本人の年金は長男が管理。本人の状態の医学的判断を踏まえ、生命の安全確保と適切な環境とケア確保のため、町が特別養護老人ホームへの措置を決定。措置入所1ヶ月後に高齢者虐待対応評議会議開催し、今後の方向性を検討。足の処置は継続中。長男の能力・介護力の向上はこれまでの経過から改善は見込めず、在宅環境を整備は困難。今後も長男による経済的搾取の可能性も高いため、措置解除後は施設契約入所方向で福祉介護課・特別養護老人ホーム担当者が長男と面談し、特別養護老人ホーム入所契約。終結。</p>

【成年後見相談事例】

相談件数	対象者	内容	対応・結果
6 件	① 89歳 男性 要介護2 認知症	独居。配偶者の死去に伴い、グループホーム入所。別居の長男は本人がどこの金融機関に口座を持っているのか等、全く分からぬく対応に苦慮。自宅内を整理した所、様々な金融機関関係の書類が出てきた。	長男より、金融機関をまわったが相続手続き等の問題が発生していることが発覚したと相談あり。本人は認知症により判断能力が不十分な状態。相続手続きや財産管理等代理行為が必要になるため、成年後見制度を紹介。パンフレットを長男へ送付した。
	② 88歳 女性 認知症	老夫婦世帯であったが、在宅サービス利用からグループホーム入所を経て、入院・死去。姪より、本人の担当をしていった成年後見人の金銭管理に不信感(後見人が本人の預貯金から用途不明の多額の金額を死亡後にも引き落としたり、報酬を引いたりしている等)があるため、在宅サービスを利用していた期間の利用料請求と支払い方法、司法書士が後見人になった経緯を申立に関わった当時の職員に確認したいとの相談。	介護サービスや入院等は契約行為に基づくものであり、支払いがなければ利用できないことと、故人が生前介護や医療サービスを利用できていたのは、後見人が法定代理人として後見業務である契約行為・金銭管理を行っていたためであり、被後見人死亡後も生前の清算等、死後事務もあることを説明。当時の職員は現在在籍していないことを伝える。後見人選任は家庭裁判所の審判に基づき、後見人は定期的に活動報告を家庭裁判所に提出し、後見報酬額は活動内容を精査した家庭裁判所が後見人に付与するものであることを説明。後見人の監督機関は家庭裁判所会津若松支部への問い合わせを紹介。

<p>③88歳 男性 要介護2 認知症</p> <p>④85歳 女性 要介護1 認知症</p>	<p>老夫婦世帯。子供なし。88歳男性が世帯の財産管理をしていたが、骨折により入院。要介護状態となり現在施設入所中。所有している車や保険等の解約手続きが困難。</p> <p>85歳女性が独居となり世帯の財産管理を担っているが、紛失や支払い手続きができなく滞納するなど、適切な財産管理ができない状況。入院・介護サービス利用時の契約・支払い行為等も支援が必要。</p>	<p>親族と夫の入所施設より85歳女性に金銭管理・契約行為判断能力が乏しく、親族がやむを得なく一時的に代行したが、継続的な支援は困難と相談あり。書類管理や金融機関で金銭払戻が自力でできなく、近隣の知人達にATMでの払戻を頼むため、知人達も対応に困惑していた。双方の兄妹へ現状を伝え、成年後見制度を紹介するも、高齢で遠方であることや関係不和を理由に支援困難な状況。町と相談し成年後見制度町長申立てを進めた。85歳女性は生活費の管理支援が早急に必要なため、成年後見人等選任までの期間、日常生活自立支援事業を利用。88歳男性は保佐・85歳女性は補助開始の審判が確定し、専門職（行政書士）が選任となった。</p>
<p>⑤63歳 女性 統合失調症</p>	<p>30歳代で統合失調症発症。県外で生活していたが、夫の退職を機に転入。夫は数年前に死去。独居。子供なし。弟妹とは疎遠で、近くに身寄りがない。本人より「独り身なので成年後見制度の説明を聞いてみたい」との相談。</p>	<p>パンフレットで成年後見制度を説明。町主催の法律相談会にも参加申込をしており、将来の任意後見制度についても相談を検討していた。エンディングノートの活用を紹介。</p>
<p>⑥90歳 男性 要介護1 認知症</p>	<p>96歳女性（要介護1 認知症）との老夫婦世帯。本人が世帯の書類や金銭管理をしているが、書類の紛失により手続きや支払いが遅滞することが頻回にあるため日常生活自立支援事業利用中。認知機能低下に伴い、理解判断力の低下が進行。今後成年後見制度への移行検討が必要となった。</p>	<p>居宅担当ケアマネより、遠方に住む義妹とキーパーソンの甥が帰省するため面談に同席依頼あり。担当ケアマネ・社協と同行訪問。税金・保険関係の管理が困難な状況となり、日常生活自立支援事業での支援では十分に確認がとれないことから、成年後見制度への移行検討が必要となってきていることを共有。成年後見制度と手続き方法について説明。甥が申立人となり、本人夫婦の成年後見制度利用を勧めていく方向性となった。</p>

【西会津町地域包括支援センター連絡会】

西会津町における地域包括ケアの構築のため、にしあいづ地域包括支援センターの業務が円滑に運営できるよう「西会津地域包括支援センター連絡会」を行う。

開催回数	参加事業所	内容
12回	福祉介護課・介護係（課長補佐、地域包括支援センター担当者）、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員 ※健康増進課（事業説明・情報共有がある場合のみ参加）	<p>毎月、ミニデイサービス、生活支援体制整備事業に関すること、認知症対策と認知症地域支援推進員、地域ケア会議、地域福祉活動、新総合事業に関すること等について情報共有や検討した。</p> <p>※上記のほか、主な内容</p> <p>(4月) 認知症初期集中支援チームの活動について、認知症ケアパス改訂版について、認知症カフェについて、新型コロナウィルス対応について、赤べこプロジェクト開催についての相談（健康増進課より）</p> <p>(5月) 新型コロナウィルス感染拡大防止対策について、認知症ケアパス改訂版について、認知症初期集中支援チームの4月に実施した打合わせ会の報告、6月の自立支援型地域ケア会議の開催について検討</p> <p>(6月) サロン再開に向けて（コロナ対策含め）、認知症ケアスキルアップ研修会開催検討、サロン交流会の開催に向けての検討</p> <p>(7月) 認知症サポートー養成講座、徘徊傾向にあるケースの見守り等について、地域包括支援センター運営協議会について</p> <p>(8月) 認知症カフェ群岡・奥川地区での開催に向けて検討、シルバー人材センターのヘルパーの感染対策について、サロン交流会の結果報告、認知症スキルアップ研修会見合わせ検討</p> <p>※8月については日程の調整がつかず9月4日に開催</p> <p>(9月) 認知症ケアスキルアップ研修会中止決定、認知症カフェ開催に向けた対応について、民生委員への認知症サポートー養成講座、9月開催の自立支援型地域ケア会議について</p> <p>(10月) 認知症サポートー養成講座（学校関係）について、キャラバンメイト事務局打合せ、ケアパス原案について、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業について（健康増進課より）</p> <p>(11月) 認知症サポートー養成講座開催結果、認知症カフェの振り返り、感染症予防 PLAY！について（健康増進課より）</p> <p>(12月) 除排雪事業、認知症ケアパス改訂版のデザイン等について、認知症初期集中支援チームの支援経過、西会津高校での認知症サポートー養成講座について、ささえ愛支援会議視察研修の結果について</p>

		<p>(1月) 認知症キャラバンメイト連絡会について、認知症カフェ物品購入について、認知症ケアパスについて、ミニディ支援員への助言指導について、認知症初期集中チームの対応ケースについて</p> <p>(2月) 初期集中支援チームの結果報告、地域包括支援センター運営協議会について、軽度者に対する福祉用具特例給付に係る確認方法について、新型コロナワクチン接種について（健康増進課より）</p> <p>(3月) ささえ愛支援会議の次のテーマ「食」について、認知症ケアパス改訂版全戸配布・CATVでの紹介、認知症サポーター養成講座・上半期計画について、高齢者の見守りを兼ねた弁当配食について、包括の24時間相談体制に向けた取組みについて（携帯当番制の実施）</p>
--	--	---

【令和2年度 サロン等における講話実施状況】

開催回数	包括でできる講話メニューの紹介の場		内 容
4回	8月 サロン交流会（4日：野沢） （5日：尾野本） （6日：群岡・新郷） （7日：奥川）		テーマ「地域包括がサロンの皆さんと一緒にやりたいこと」 地域包括支援センターで行っているサロンメニューについて紹介。介護保険制度やサービス、介護予防、認知症予防、認知症サポーター養成講座の他に、昨年から新たに『もしもの時のために』を追加したことを伝えた。地域包括の事業内容、活動状況等について分かりやすく説明し、高齢者の身近な相談窓口である事を紹介した。
開催回数	対象サロン（参加人数）		内 容
7回	8月 小山サロン（7名）		テーマ「もしものときのために」 現代は医師から病状の説明を受け、自身で治療方針を選ぶこともできる時代。考え方も多様化し、本人の思いが尊重される。コロナ禍でも「人生会議」は重要とされている。元気な時に「大切にしていること」、「信頼できる人」について考え、できれば記録に残し、もしもの時の希望も信頼できる人と話し、伝えておく事でいざという時に自分の気持ちが尊重され、また残された人も気持ちを大切にして支援することができる事を伝えた。またエンディングノートのメリットやデメリットについても説明し、実際に見てもらった。
	9月 飯沢サロン（18名）		テーマ「もしものときのために」 参加者の中には独居高齢者の緊急の対応をされ、急変時の対応等について話し合った経過もあつたため、地域で関わった時のエピソードにも触れながら講話をした。また参加者自身の体験談も踏まえ、我が事として考えてもらう時間が共有できた。
	10月 弥平四郎サロン（8名）		テーマ「もしものときのために」 信頼できる人に自分の思いを日頃から伝えておくことの大切さを説明した。信頼できる人では、主治医（診療所）は何でも話しやすく、しっかり面倒を見てくれる所以安心だと話が聞かれた。また日頃から隣近所だけでなく、離れて暮らす子供達ともいざという時にどうして欲しいのか等を話していると言う参加者もいた。

	10月	中ノ沢サロン（8名）	<p>テーマ「認知症予防について」</p> <p>認知症の症状や予防、初期症状についてチェック表を用いて参加者でチェックした。早期発見や相談先、対応などについても説明。相談先としてかかりつけ医の他、地域包括支援センターも紹介した。認知症カフェやケアパスについても触れながら、認知症は誰もがなり得る病気で、認知症になっても大丈夫な町づくりを目指していきましょうと伝えた。</p>
	10月	徳沢サロン（14名）	<p>テーマ「もしものときのために」</p> <p>エンディングノートの紹介をした際、購入を希望される方もいたため、販売先を紹介した。参加者より、これまで最期をどう迎えたいかと考えた事が無かつたが、講話を聞いて、大事なことだと思い、これから家族と話したり、考えたりしていきたいと前向きな言葉が聞かれた。ピンピンコロリを目指すためにも、日頃からウォーキングや血圧測定等をしながら健康管理に取組んでいるという参加者もあり、雨の日や冬期間にできる運動なども紹介した。</p>
	2月	小山サロン（6名）	<p>テーマ「認知症予防について」</p> <p>誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、地域ぐるみで認知症の人やその家族を支えていく必要があり、今後は認知症の人と共に生き、皆で認知症予防に取組むことが大切である事を伝えた。軽度認知症障害の気づきチェックリストを実施し、認知症の主な症状や望ましい接し方、早期の相談の有効性や相談先を紹介。また、認知症ケアパス改訂版が4月に全戸配布となる事、初期集中支援チームの活動等に触れつつ、運動や健康、人との交流、生きがい等生活の中で楽しく前向きに取り組む事も大事である事を伝えた。</p>
	2月	萱本サロン（22名）	<p>テーマ「もしものときのために」</p> <p>元気な時に大切にしている事や希望する治療やケアを自分の信頼している人に話をしたり、エンディングノートに書いておく事で、自分の気持ちを表現できなくなった時に残された人達の判断の助けになる事、生前エンディングノート的なものを書いていた事で、残された遠方住の子供達が葬儀や家の整理をする事が出来たエピソードの紹介をした。エンディングノートは既に3名の方が書いていると応え、わたしの「大切なこと」メモの話を聞きながら記入されている参加者もいた。</p>

【令和2年度認知症センター養成講座実施状況】

開催回数	対象者	トピックス
5回	西会津町民生児童委員 42人	昨年度民生児童委員が改選となり、現任者が受講。認知症初期集中支援チームの紹介や包括に寄せられる相談事例を基に認知症の方への接し方（対応例）を説明。振り返りシートでは、講座修了者の地域での活動につながるように、今後認知症に関する機会（認知症カフェの手伝いや施設利用者の話し相手）があった際の協力の意向を確認。40人中25人が時間に余裕があったり、都合がつけば協力可能との意向であった。今後ステップアップ研修会を実施する際には、意向のあった方々へ声掛けしていく。
	萱本サロン 17人	キャラバンメイトは説明に、例え話や事例を提供し、認知症をより身近なものにしていた。アンケート結果では「自分が認知症になった時の不安」を訴えている内容が多い印象であった。住民の不安に対する内容を今後の認知症センター養成講座にどのように取り入れていくか、検討をしていく必要がある。
	出ヶ原サロン 14人	自治区からの依頼で「認知症を正しく理解する」「認知症を身近なこととして考えることができる」等を目的に実施。参加者は受講中うなずきながら興味を持って聞いていた。導入で「グーパー体操」などを行い、場をなごませてから講座を実施した。
	西会津小学校6学年（児童・教員） 40人	今年の6年生は昨年度講座を受講しているため、今年度はステップアップ講座を実施。昨年度に学んだ内容を○×クイズや講話で振り返り、8月に高齢者疑似体験を体験していた経験も良い効果があり、高齢者の気持ちになり「どんな風に接してもらいたいか」等を考えた。後半は認知症の人への接し方のロールプレイで見て、どのように対応するか意見発表し、最後は全員が『今後自分たちにできそうなこと』を付箋に書き、1人ずつ宣言した。児童には修了書を作成し渡した。今回の講座では、児童たちに授業で学んだことを家族に伝えることを宿題とし、保護者には振り返りシートで子供から話を聞いた感想をコメントとして記載して頂いた。働き盛り世代が講座を受講する機会が少ないことが課題であったため、子供たちが保護者に学んだことを伝えられたため、子供から話を聞いた親世代が認知症を知る機会ができた。

	西会津高校 3 学年 (生徒・教員) 13人	今年度の西会津中学校で受講している生徒は3名。テキストの内容を中心に講義で認知症の理解（認知症の種類・症状・治療・予防）を説明し、演習（個人ワークとロールプレイ）で認知症の方の思いを知ることと、認知症の方への接し方について生徒から意見発表や対応の実演を行ってもらった。対応を披露してくれた生徒の高齢者への声掛けの仕方は接し方のポイント「3つのない」に沿った接し方が出来ていた。認知症の方の徘徊を見かけた際、声かけまでは出来なくでもできる対応として、発見した際の当事者の姿を写真撮影してその家族に居場所等を伝えるという感想は、スマートフォン等を所持している現代の若者の発想の1つだと感じた。
合計	全 5回 延べ参加者数 146人 <学校：2 自治区：2 職域：0 各種団体：1 >	
令和元年度	全 8回 延べ参加者数 171人 <学校：3 自治区：3 職域：1 各種団体：1 >	

【令和2年度 認知症カフェ（オレンジカフェいいで愛）実施状況】

開催回数	開催月	会 場	参加人数	トピックス
3回	9月	西会津町保健センター （群岡地区）	当事者 3名　家族（介護者） 1名 専門職 2名　地域住民 1名 合計 7名	ケアマネの紹介や昨年度の参加者から群岡地区住民3組限定で参加。少人数で同じ地域の住民同士ということもあり、地域の人々の話や昔の生活の話など、共通の話題で会話が弾んだ。プログラムは茶話会のみであったが、にこにこ相談所に来ていた地区担当保健師が顔を出してくれてので、感染症予防についてのミニ講話を実施してもらった。当事者からは「寒くなってきたから温かい飲み物（お茶）が欲しい。せんべいは固いので柔らかいお菓子が良い。」「1時間座っているのも辛いので、途中で身体を動かす時間があると良い。」との声があった。
	10月	奥川みらい交流館 (奥川地区)	当事者 4名　家族（介護者） 2名 専門職 1名　地域住民 0名 合計 7名	奥川地区住民3組限定で包括に相談歴がある方やケアマネの紹介で参加。介護サービスを利用していない方や、徘徊が頻繁にあるが、通所サービス利用につながらない方もケアマネと一緒に参加。前回の反省を活かし、飲み物は温かいコーヒー・お茶を準備。会場が和室だったため、社協より椅子5脚を借用。終了時には「楽しかった。また来ます。」との言葉があった。徘徊のあった方については、参加中の様子を写真撮影し家族に提供。その後、通所サービス利用につながった。
	10月	林業研修センター (尾野本地区)	当事者 3名　家族（介護者） 1名 専門職 3名　地域住民 0名 合計 7名	ケアマネからの紹介で尾野本地区住民3組限定参加。今回の参加者は、全員会場までの送迎がなければ来場できない方であったため、町の公用車で各自宅から会場までの往復を送迎対応した。日頃顔を合わせる機会がない3組であったが、小学校時代の顔見知りや親戚・知人とのつながりから共通の話題で会話が弾んでいた。生活支援コーディネーターにも準備や話し相手など協力して頂いた。

【認知症初期集中支援チーム対応事例】

会議開催回数	対象者	内容	対応・結果
3回	86歳 女性 独居 要介護2	個別ケース会議④事例。娘に対する物盗られ妄想が強く、娘や近隣住民に対する暴言・暴力行為や、警察への頻繁な連絡が多発。薬や食材管理が十分にできなく、火の不始末も見られる。サービス利用拒否もあるため、親族や関係機関も対応に苦慮している。娘夫婦より、認知症状（暴言・暴力行為等）軽減により穏やかに生活できるため、専門医への診断・治療につなげる支援希望。	チーム員会議開催。支援目的の共有と今後の対応を検討。チーム員と担当ケアマネで本人宅を訪問。診療所受診が中断しているため訪問したことを本人に説明。残薬多量にあり、本人からは「ボケたくない。娘に迷惑を掛けたくない。」と話があったため、内服をきちんと飲めないことは認知症になる可能性があることを説明し、残薬整理のためチーム員同伴で診療所受診。本人から主治医（サポート医）へ物忘れに対する不安の訴えがあったため、主治医から専門医受診を紹介すると本人同意。娘夫婦・チーム員と専門医受診に向けての対応を協議し、娘とチーム員同伴で専門医受診。鑑別診断検査に継続的な通院が必要となつたが、娘への被害妄想から家族での対応が困難なため、検査目的のため入院。鑑別診断検査の結果、アルツハイマー型認知症（初期）の診断。内服コントロール開始し、穏やかに他者とトラブルなく入院生活継続中。今後は4月上旬にグループホーム入所予定。

ア 施設外研修状況 令和2年 にしあいづ地域包括支援センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	全会津介護支援専門員協会 第1回研修	第1部 「看取り士」上映 第2部 看取り士に関する情報交換・発表	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R2.7.14	全会津介護支援専門員協会 アピオスペース	復命書 朝礼で発表
2	ふんわりチャンポン大作戦	・基本知識の確認 ・デモンストレーション ・手技の相互チェック」 ・ゾーニング検討 講師：会津医療センター鎌田一宏 医師 福島県立医大竹口優三医師	社会福祉士兼認知症地域支援推進員 保健師長	鈴木朋美 齊藤美香	R2.8.11	西会津町役場 健康増進課 野沢体育館	復命書 朝礼で発表
3	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修	【1日目】 ・セッション1 チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 ・セッション2 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する リームリーダーとしてのリーダーシップの醸成 ・セッション3 OJTの効果的推進 意図的・計画的職員指導・育成の展開 福島市社会福祉協議会 遠藤潔氏 【2日目】 ・セッション4（啓発科目の講義と演習） ・セッション5（行動指針の策定） ・セッション6（キャリアデザインとアクションプランの作成） 福島県社会福祉事業団八巻正男氏	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R2.9.24～25	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 朝礼で発表

4	感染予防PLAY!	①感染予防ロールプレイ インシエープラステ*ライン 佐藤理恵氏 ②感染予防の基礎知識 地域包括ケア研究所 奥和久医師 ③オリジナル感染予防策の作成 インシエープラステ*ライン 佐藤理恵氏	主任介護支援専門員 保健師長	秦千香子 齋藤美香	R2.12.11	西会津町健康増進課 西会津町役場 大会議室	復命書 朝礼で発表
5	すいしんいんセッション オンラインでつながろう！学びあおう！ (オンライン)	第1回「本人の声を起点に暮らしと地域と共につくろう！」 第2回「ニロナ禍でこそ、つながろう、つなげよう」 第4回「無理なく、長く、着実に、地域に根差す、見守りネットワークを」	社会福祉士兼認知症 地域支援推進員	鈴木朋美	R2.10.28 R2.11.25 R3.1.27	認知症介護研究・研修東京センター 西会津町役場	復命書 朝礼で発表
6	異業種連携による認知症にやさしいサービスアイデア発表会 (オンライン)	(1)開会・審査員紹介 (2)プレゼンテーション(A～Eチームの発表) (3)投票・結果発表	主任介護支援専門員	秦千香子	R3.1.27	認知症にやさしい異業種連絡協議会	復命書 朝礼で発表
7	オンライン講演 「奥会津で在宅医療に取り組む思い」 (オンライン)	「奥会津の在宅医療に取り組む思い」 講師：山中克朝教授	主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症 地域支援推進員 保健師長	秦千香子 鈴木朋美 齋藤美香	R3.3.19	奥会津4町村の在宅医療・介護連携研修会	復命書 朝礼で発表
8	認知症カフェセミナー 2021 (オンライン)	企画1 コロナ状況下の認知症カフェ(事例報告) 企画2 シンポジウム1 認知症カフェ維続にむけたアクション! 企画3 シンポジウム2激論！認知症カフェ	主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症 地域支援推進員 保健師長	秦千香子 鈴木朋美 齋藤美香	R3.3.23	認知症介護研究研修仙台センター	復命書 朝礼で発表

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：にしあいづ地域包括支援センター

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度（接遇）		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質（内容）		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

令和2年度

障がい相談事業所にしあいづ事業報告

1. 基本方針

障害者総合支援法の基本理念に基づき、障がい者本人が希望する自宅等で安心して生活できるよう、障害福祉サービス利用などを勧め支援を行ってきた。

社会参加の機会が確保されるよう障がい者本人が利用できる資源について情報提供し、行政やサービス事業者・関係機関等との連携を図り、定期的に外出できる行事やサロンを案内することで、地域社会との関わりを持つことができた。

新たな社会資源開発や改善には至らなかったが、現在の資源を有効に活用し日常生活の支援ができた。

2. 重点目標

(1)相談支援と連携

主に障がい者本人や家族から相談に応じ、利用できるサービス内容や利用までの手順など必要に応じ資料に沿って情報の提供や助言を行い、サービス利用に伴う調整を各事業所等と速やかに行うことができた。特に障害福祉サービスの利用や持病など健康・医療面についての相談が多くあった。

(2)個別支援

地域や自宅での生活を望む利用者に対し、日常生活を送るにあたり必要な決定事項などは本人の意向を大切に対応した。本人一人で出来そうなことについては見守り、助言や支援が必要なことに関しては障がいの特性に合わせた言葉かけやサービスを追加することで、今まで通り在宅生活を継続する支援ができた。

(3)心身の変化に合わせた対応

本人が主体となるサービス提供が行えるよう自宅等へ訪問し、サービスの利用に関する意向を開き、希望する事業所の見学に同行した。その後、就労や生活介護・居宅介護などのサービス等利用計画を作成し、サービス利用に繋げることができた。

定期的に自宅やサービス事業所等へ出向き、サービス提供状況の確認を行い、必要に応じサービス等利用計画の変更や、身体や精神状況に変動のある利用者に対しても、医療機関受診の同行などを行い主治医などと情報共有を行い対応してきた。

児童のケースでは子育て支援センターと連携し、サービス利用の調整を行った。しかし本人の体調や事業所の空きがなくスムーズに利用開始には至らず、未だ待機の状態で連絡待ちの利用者(児童)が2名おり、今後利用開始となる予定である。

介護保険併用の利用者に対しては、介護保険サービスと障がい福祉サービス利用をスムーズに行えるよう担当ケアマネージャーと連携を図ることができた。

(4)相談支援専門員の質の向上

相談支援ワーキンググループは新型コロナウィルス感染症のため開催されなかつたが、会津圏域の情報については、相談支援アドバイザーより情報共有してもらう事ができた。

最近相談の多い障がい児については、障がい児相談支援の専門コース別研修に参加し、障がい児に対する知識や理解を深め相談業務に活かすことができた。

障がい相談事業所にしあいづ
(令和2年4月～令和3年3月)

(計画相談支援を利用している障害者等の人数)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
	障害者	障害児	56	0																						
身体障害	4	0	4	0	4	0	6	0	5	0	3	0	6	0	4	0	4	0	6	0	5	0	5	0	56	0
重度心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知的障害	13	0	9	0	9	0	13	0	13	0	12	0	13	0	10	0	7	0	10	0	16	0	10	0	135	0
精神障害	6	0	6	0	5	0	5	0	6	0	5	0	7	0	4	0	5	0	5	0	7	0	9	0	70	0
発達障害	0	1	0	2	0	4	0	3	0	4	0	1	0	1	0	2	0	2	0	3	0	4	0	2	0	29
高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	23	1	19	2	18	4	24	3	24	4	20	1	26	1	18	2	16	2	21	3	28	4	24	2	261	29

(計画相談支援月別状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
障害者	3	2	2	2	5	2	8	3	6	0	5	6	44
障害児	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
計	3	2	4	2	5	2	8	3	6	0	5	7	47

(障害福祉サービス利用実施状況) ※重複利用あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就労	3	2	2	1	3	1	6	3	3	0	5	3	32
居宅	1	0	1	0	3	2	2	0	2	0	0	0	11
生活介護	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	2	5
短期入所	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	1	1	6
施設入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
グループホーム	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	5
療育	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
計	5	3	5	2	7	3	8	4	11	0	6	9	63

ア 施設外研修状況 令和2年度 障がい相談事業所にしあいづ

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅職員研修	<p>セッション1【基礎科目の講義と演習】 〈中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理〉</p> <p>セッション2【基礎科目の講義と演習】 〈福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める〉 〈中堅職員としてのフォロワー・シップの醸成〉</p> <p>セッション3【重点科目の講義と演習】 〈チームケアと問題解決—遭遇要因分析〉</p> <p>セッション4【啓発科目の講義と演習】</p> <p>セッション5【行動指針の策定】</p> <p>セッション6【キャリアデザインとアクションプランの策定】</p>	相談支援専門員	佐藤 千春	R2.11.4~11.5	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 朝礼で発表
2	令和2年度福島県障がい者相談支援従事者専門コース別研修	<p>講義1「子どもの発達について」</p> <p>講義2「相談援助活動における子どもの権利」</p> <p>演習&ワーク 「未就学期・学齢期～地域づくり」</p>	相談支援専門員	佐藤 千春	R2.11.24	福島県相談支援専門員協会 郡山市総合福祉センター	復命書 朝礼で発表

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：障がい相談事業所にしあいづ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨						合計
申立者	利用者	説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	
		0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

令和2年度事業報告書
グループホームのぞみ

<事業の概況>

令和2年度は、安心して自分らしい暮らしが出来るように、食事の準備、清掃、洗濯物たたみなどの家事を行うに当たり、入居者様が出来るところは出来るだけご本人に行って頂きながら、入居者様同士の大きなトラブルが起きないように配慮、支援してきた。またコロナ禍により家族との面会ができない為、オンライン面会を進めることにより入居者様とご家族様との対面をスムーズに行うことができた。

<重点目標について>

(1) 生活援助

令和2年度は、入居者様との日々のコミュニケーションを大切にし、思いをくみ取るよう努めた。毎月モニタリングを行い、状態の変化に合わせて、計画作成に反映できた。

(2) 施設整備

避難・誘導・通報訓練は、消防署と連携して、毎月実施する事ができた。建物の修繕箇所が多く目立ち、エアコン清掃、交換、業務用洗濯機等の修繕も早急に対応してきた。次年度も急な修繕が必要な際は速やかに対応していく。

(3) 職員の資質向上

コロナ禍の為、内部、外部研修への参加は少なかったが、事業所内での勉強会を実施し、スキルアップを図った。

<基本事項について>

(1) 個別援助計画

日常生活の中での残存機能は維持してきたが、痛みによる歩行困難等もあり、以前よりは、シルバーカーを使用する方が増えて来ている。しかし、施設外での活動の際、散歩が困難な方は、日光浴をするなど、気分転換できるような機会を作るよう心掛けてきた。

(2) 生活相談

入居者の状態報告は、入居者様の各主治医へ文書を作成し、訪問を通して状態報告・提出を行うことで、訪問、診療所とともに同じ内容で報告することで、状態の共有ができた。感染に関しては、今年度も、手洗いうがいを実施し、インフルエンザやノロウイルスによる感染症に対応できた。

(3) 機能訓練

- ①日常生活にメリハリをつける事により、現状の維持や生活意欲の低下防止に努める事ができた。
- ②施設外の散歩等の機会はなかなか作ることができなかつたが、施設の食材購入に同行する事により外出し心身のリフレッシュを図ると共に、店内を歩く事により脚力の低下予防や維持に努める事ができた。

(4) 健康管理

- ①令和2年度は2件の転倒による骨折が見られたが、訪問看護を通じて医師への往診依頼や、救急車の手配をする事により適切な対応が出来た。
- ②施設内での感染予防の為に、感染症の勉強会やPPE着脱訓練や感染時のシミュレーション（初動対応等）や、手洗いうがいを行う事により、感染防止に努める事が出来た。

(5) 衛生管理

業者による施設内の清掃は実施する事ができなかつた為、次年度はコロナウイルス感染症の状況等を見つつ実施していきたい。

(6) 他施設、地域社会との連携

コロナウイルス感染症対策の為、他施設や地域との交流は行うことができなかつた。令和2年7月の町の洪水警報の際は、速やかに町へ報告、相談を行い高齢者支援ハウスに避難をした。その際、他事業所との連携により、速やかに避難する事が出来た。

(7) 事業内容（日課）について

自由活動においては、趣味や買い物、畠仕事等、各自のしたいことを行ってもらうよう心掛けてきた。趣味に関しては、集中して作業を行う事が難しくなってきているため、無理のない程度で行ってもらうよう声掛けを行った。

R2年度 利用状況

(単位：人)

	在籍者数		入退所		入退院		合計
	男性	女性	入所	退所	入院	退院	
R2 4月	4	5	0	0	0	0	9
5月	4	5	0	0	0	0	9
6月	4	5	0	0	0	0	9
7月	4	5	0	0	0	0	9
8月	4	5	0	0	1	1	9
9月	4	5	0	0	0	0	9
10月	4	5	0	0	0	0	9
11月	4	5	0	0	0	0	9
12月	4	5	0	0	0	0	9
R3 1月	4	5	0	0	0	0	9
2月	4	5	0	0	0	0	9
3月	4	5	0	0	0	0	9

R2年度 延べ利用人数

(単位：人)

月	実人数	延べ人数
R2 4月	9	270
5月	9	279
6月	9	270
7月	9	279
8月	9	279
9月	9	270
10月	9	279
11月	9	270
12月	9	279
R3 1月	9	279
2月	9	252
3月	9	279
合計		3, 285

R2年度延べ利用人数 3, 285人 前年比11人増

R2年度 要介護度別実人数

(単位：人)

	要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
R2. 4月	0	0	2	0	0	2	1	3	1	0	0	0	4	5
5月	0	0	2	0	0	1	1	4	1	0	0	0	4	5
6月	0	0	2	0	0	1	1	4	1	0	0	0	4	5
7月	0	0	2	0	0	1	1	4	1	0	0	0	4	5
8月	0	0	2	0	0	1	1	4	1	0	0	0	4	5
9月	0	0	1	0	1	1	1	4	1	0	0	0	4	5
10月	0	0	1	0	1	1	2	4	0	0	0	0	4	5
11月	0	0	1	0	1	1	2	4	0	0	0	0	4	5
12月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5
R3. 1月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5
2月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5
3月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5

平均要介護度 要介護2(2.6)

R2年度 年齢別利用人数

	65～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	計	平均年齢
R2. 4月	3	2	2	1	1	9	83
5月	3	2	2	1	1	9	83
6月	3	2	2	1	1	9	83
7月	3	2	2	1	1	9	83
8月	3	2	2	1	1	9	83
9月	3	2	2	1	1	9	83
10月	3	2	2	1	1	9	83
11月	3	2	2	1	1	9	83
12月	3	1	3	1	1	9	84
R3. 1月	3	1	3	1	1	9	84
2月	3	1	3	1	1	9	84
3月	3	1	3	1	1	9	84
	36	20	28	12	12	108	

年齢～最高97歳 最低66歳 平均83.8歳

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	ふんわりチャンポン大作戦	・デモンストレーション(手指消毒・PPE着脱) ・感染経路の説明 ・ゾーニング実検討 ・一問一答	介護員	若林まゆみ	R2.8.11	野沢体育馆	復命書 職員会議で報告
2	ふんわりチャンポン大作戦	・デモンストレーション(手指消毒・PPE着脱) ・感染経路の説明 ・ゾーニング実検討 ・一問一答	介護員	小島敏夫	R2.8.11	野沢体育馆	復命書 職員会議で報告
3	令和2年度 福島県認知症対応型サービス事業管理者研修	・認知症対応型サービス事業における管理者の役割、知識について	介護員	岩原祐美	R2.8.27～8.28	福島県男女共生センター	復命書 職員会議で報告
4	感染予防 play !	感染予防の基本	介護員	五十嵐津子	R2.12.11	西会津町役場	復命書 職員会議で報告
5							
6							

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：グループホーム のぞみ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和2年度

こゆりこども園業務報告書

<事業の概要>

就学前の子どもに関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき教育・保育を必要とする乳幼児を保育し、養護と教育の一体化を図りながら豊かな人間性を持った子どもを育成することを基本としたこども園運営に努力してきた。

<重点事項>

1. 児童保育について

- ①個々の子どもの健康状態や発達段階を把握し、個々に応じた保育に努めてきた。
- ②施設内の環境保全に十分留意し、快適に過ごせるように努めてきた。
- ③個々の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育者との信頼関係を作り情緒の安定を図ってきた。
- ④自発性を大切にし、興味や要求を受け入れ、生活経験に即した総合的な指導に努めてきた。
- ⑤運動や表現遊びなどいろいろな活動を通して、子ども相互の集団活動が出来るように努めてきた。また、運動会や発表会等で発表する機会を作り、子どもの成長した姿を保護者に伝えるようにしてきた。
- ⑥七夕祭り・団子さし・節分・ひな祭り等の伝統行事を実施し、由来などを知らせ社会の事象に关心を持たせてきた。
- ⑦発育障害と思われる児童についての相談業務を子育て支援センターや児童相談所・耶麻福祉相談コーナーの相談員と協力し、保護者の相談活動に努めてきた。
- ⑧延長保育の児童に対しては、温かな雰囲気の中で気楽に遊ぶことが出来るような環境を整え、個人的な配慮が行き届くように努めてきた。

2. 児童の健康管理について

- ①常に子どもの健康状態を把握するため、登園時の視診により病気やけがの有無やその状態について観察し、健康管理に努めてきた。
- ②園内での感染症防止のため、感染症対応マニュアルに基づいて全職員が的確かつ迅速に対応してきた。
- ③楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食事をし、嫌いな食べ物でも少しずつ食べれるよう指導してきた。
- ④天気の良い日は出来る限り戸外遊びを取り入れ（野外保育・固定遊具・砂場等）心身の発達に努めてきた。
- ⑤各種診察の実施（尿検査・歯科検診・内科検診・身体計測）

3. 児童の食事について

- ①離乳の進行にあたっては、町栄養士と相談しながら栄養バランスに気をつけ、一人ひとりの発育・発達状態、食べ方や健康状態に配慮して行えた。

- ②様々な人と一緒に食べる楽しさを味わうことができた。
- ③園での食事の状況について、家庭との連絡を十分に取り合うことができた。
- ④毎月の給食委員会でアレルギー児への対応について職員間での情報共有をはかった。

4. 防火・安全体制について

- ①施設内外における危険箇所、危険なものがいか等の点検を常に行い安全の確保に努めてきた。
- ②安全な教育・保育環境を確保するため、子どもの年齢・場所・活動内容に留意し、事故予防対策マニュアルに基づきながら安全の確認を行ってきた。
- ③災害時における組織体制づくりを明確にし、避難方法に習熟するため毎月1回の避難訓練を実施した。
- ④登園あるいは野外保育における交通安全には特に重点をおき、絶対に事故が発生しないよう日頃からの指導を行ってきた。交通教育専門員の指導により交通安全教室の開催を実施してきた。

5. 地域社会との交流について

保育実習や総合学習体験活動（ボランティア）等の受け入れを行ってきた。

6. 小学校との連携

- ①小学校との交流計画・連携計画の中で、教育・保育を行って行くことで小学校へのスムーズな接続を行った。
- ②学校活動や学校の見学などを通じて異年齢との交流により豊かな人間性と社会性を育んできた。

7. 職員の研修について

保育者としての意識の高揚と専門知識・保育技術の向上、更にはこども園運営と保育の充実を図るため計画的に各種研修会に参加させた。（別紙1アのとおり）
職員間のコミュニケーションを活発化し、知識・情報の共有化を図るため、園内研修を行った。（別紙1イのとおり）

8. 保護者との連携について

保護者に対しこども園での子どもの生活状態や各種行事等を「園便り・クラス便り・連絡帳」で知らせ、家庭との連携を密にし、円滑なる施設運営に努めてきた。
また、園には保護者会が組織されており、行事には積極的に協力を頂き親子との触れ合いの場として成果を挙げることが出来た。

9. 月別保育児童数について（別紙2のとおり）

10. 月別保育業務内容について（別紙3のとおり）

1.1. 子育て支援事業について（別紙4のとおり）

①放課後児童健全育成事業

保護者が昼間に就労等により家庭にいない小学校児童に、適切な遊びと生活の場を提供し、保護者の子育て支援を行った。

②一時預り保育

保護者の就労形態に伴う一時的な保育や、保護者の傷病による緊急時の保育を行い、児童の福祉の増進と健全育成を図るとともに、保護者の子育て支援を行った。

③子育てサークル事業

子どもの遊び、親子の触れ合いを通して、子育てのあり方について学習活動を行い、また保護者同士の仲間づくりの交流の場を提供した。

別紙1-ア 施設外研修状況

西会津町こゆりこども園

NO.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	令和2年度発達障がい児支援者スキルアップ研修	講義「ライフステージを見据えた発達障がい児への支援」 講師 福島県発達障がい者支援センター 心理嘱託員 川島慶子 氏	保育リーダー	渡部千佳子	R2.8.25 R2.9.15	会津若松市 (スマートシティアクト)	復命書
2	令和2年度保育士等キャリアアップ研修	講義「保健衛生・安全対策」 講師 棚橋愛 氏	保育リーダー	伊藤洋子	R2.11.26 R2.11.27	会津若松市 (会津商工会議所)	復命書
3	令和2年度保育士等キャリアアップ研修	講義「障害児保育～理解・発達援助・環境」 講師 石巻専修大学 松好伸一 氏	保育士	五十嵐津奈子	R2.12.6 R2.12.14	会津若松市 (会津アビオ)	復命書
4	令和2年度保育士等キャリアアップ研修	講義「マネジメント～理解・組織設定・人材育成」 講師 楚山和司 氏	保育係長	星菜保子	R2.12.10 R2.12.11	会津若松市 (会津商工会議所)	復命書
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							

別紙1-イ 施設内研修状況

西会津町こゆりこども園

	研修名	研修内容	発表者	参加職種	参加人数	期間	研修結果の周知方法
1	施設内研修	保育カンファレンス	石川育子	保育士	9名	R2.4.21	資料全員配布
2		保育カンファレンス	橋本まどか	保育士	10名	R2.5.20	資料全員配布
3		プール遊びと夏の感染症について	中島奈津美	保育士	10名	R2.6.25	資料全員配布
4		熱中症について	菊地恵	保育士	10名	R2.7.30	資料全員配布
5		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	田部みさき	保育士	8名	R2.8.31	資料全員配布
6		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	薄上マリン	保育士	8名	R2.9.28	資料全員配布
7		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	三留望	保育士	10名	R2.10.29	資料全員配布
8		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	伊藤麻衣子	保育士	9名	R2.11.26	資料全員配布
9		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	五十嵐美穂	保育士	10名	R2.12.24	資料全員配布
10		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	五十嵐唯	保育士	10名	R3.1.26	資料全員配布
11		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	矢部穂乃香	保育士	11名	R3.2.26	資料全員配布
12		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	佐藤沙羅	保育士	10名	R3.3.19	資料全員配布

(別紙2)

令和2年度 月別保育児童数

(基準日毎月末日現在) (単位 人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
151	152	153	153	154	155	157	158	160	159	160	160
(8)	(10)	(8)	(8)	(7)	(4)	(7)	(8)	(13)	(9)	(11)	(9)

()は、延長保育人数

【内訳】 ※令和3年3月31日現在

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男児	7	3	14	16	10	19	69
女児	7	12	17	27	15	13	91
合計	14	15	31	43	25	32	160

月別保育業務内容

(R2.4～R3.3)

西会津町こゆりこども園

(別紙3)

月 日	保育業務内容	月 日	保育業務内容
4. 2 15 16 16 23 24	入園式・家庭訪問 身体計測 新入園児歓迎会 健康診断（3～5歳児） 避難訓練 誕生会	7. 1～10 7 8～29 10～17 14 15	個別懇談 七夕誕生会 英語教室 お話しの会（4、5歳児） ダンス教室（5歳児） 身体計測・プール開き
5. 1 8～29 12 13～27 14～28 15 20 25 27 28	子どもの日の集い お話しの会（4、5歳児） 交通安全教室（3～5歳児） 英語教室（4・5歳児） 野外保育 体位計測 誕生会 運動教室（4歳児） 避難訓練 健康診断（0～2歳児）	18 27 28	夕涼み会 ※保護者会主催 運動教室（4歳児） 避難訓練
6. 3～17 8～9 8 13 15 16 18 19 24 25	英語教室（4・5歳児） 歯科検診 運動教室 保育参観（5歳児） 身体計測 ダンス教室（5歳児） 音楽教室（3歳児） お話しの会（3歳児） 誕生会 避難訓練	8. 4 7～21 20 21 24 26 27	すいか割り お話しの会（1才児） 身体計測 音楽教室（3歳児） 運動教室（4歳児） 誕生会 避難訓練
		9. 2 14 18 25 26	ダンス教室（5歳児） 体位計測 誕生会 避難訓練 運動会
		10. 1 1～29 6 7～21 8	就学児検診 野外保育 ダンス教室（5歳児） 英語教室（5歳児） 遠足

月 日	保育業務内容	月 日	
14 16 19~22 21~28 22 26 30	身体計測 お話の会（5歳児）・誕生会 歯科検診 健康診断 非常食体験 運動教室（4歳児） 音楽教室（3歳児）	2. 4~15 8 9 10~24 15 17 18 24 25	個別懇談（0~4歳児） 運動教室（4歳児） ダンス教室（5歳児） 英語教室（5歳児） 身体計測 小学校体験入学（5歳児） 入園説明会 誕生会 避難訓練
11. 6 11 13 19	お話の会（4歳児） 避難訓練 身体計測 誕生会	3. 3 11 12 16 18 19 25	ひなまつり誕生会 身体計測 お別れ会 ダンス教室（5歳児） 卒園式予行練習 避難訓練 卒園式
12. 2~9 8 11 14 15 16~17 18 23 25	英語教室（5歳児） ダンス教室（5歳児） 発表会収録 運動教室（4歳児） 身体計測 個別懇談（5歳児） お話の会（3歳児） クリスマス誕生会 避難訓練		
1. 4 8~15 13 14 19 20 22 25 29	保育始め お話の会（2歳児） だんごさし 身体計測 お店屋さんごっこ ダンス教室（5歳児） 誕生会 運動教室（4歳児） 避難訓練・音楽教室（3歳児）		
2. 3	豆まき		

子育て支援事業報告(令和2年度)

西会津町こゆりこども園

【子育てサークル(平日)】

開所日時:毎週水曜日 10:00~12:00

開所場所:こゆりこども園内 子育て支援室

(利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用延べ人数(組)	13	22	28	23	9	37	35	28	40	22	16	32	305

(活動内容)

月 日	内 容	場 所	参加人数	担当者
4. 15	身体計測・育児相談	子育て支援室	6名	鈴木房
5. 20	音の出る玩具で遊ぶ	子育て支援室	6名	
6. 17	絵本を読んでもらう	子育て支援室	10名	
7. 1	製作(七夕かざり)	子育て支援室	5名	
8. 26	ぬいぐるみ遊び	子育て支援室	4名	
9. 30	作ってあそぼう	子育て支援室	8名	
10. 21	エンピカー遊び	子育て支援室	6名	
11. 11	身体計測・絵本を見る	子育て支援室	10名	
12. 9	ベビーヨガ	子育て支援室	13名	
1. 20	育児相談・玩具遊び	子育て支援室	6名	
2. 17	ブロック遊び	子育て支援室	4名	
3. 3	親子でひな人形作り	子育て支援室	8名	

【健診サポート】

(赤ちゃん栄養教室)

月 日	場所	担当者
4. 24	こゆりこども園 子育て支援室	鈴木房
6. 23		
8. 18		
10. 27		
12. 22		
2. 26		

(1歳6ヶ月・3歳健診)

月 日	場所	担当者
5. 21	こゆりこども園 子育て支援室	鈴木房
7. 16		
9. 17		
11. 19		
1. 21		
3. 4		

【放課後児童健全育成事業(ひだまり子どもクラブ)】

開所場所:西会津小学校内 みんなの広場

(開所日数・利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	21	18	23	22	21	21	23	20	21	20	19	24	253
利用延べ人数	789	772	902	852	731	835	844	767	778	774	735	906	9,685

(特別活動内容)

月 日	内 容	参加人数
4. 24	お誕生会	31
5. 22	お誕生会	43
6. 19	お誕生会	37
7. 7	お誕生会	38
8. 21	お誕生会・夏祭り	47
9. 25	お誕生会	41
10. 23	お誕生会	42
10. 30	ハロウインお楽しみ会	43
11. 27	お誕生会	38
12. 25	お誕生会	42
1. 25	お誕生会	44
2. 22	お誕生会	44
3. 22	お誕生会	45

【一時保育】

利用期間	延べ人数	満年齢	実施場所	理 由
4/9-4/30	3	1	こゆりこども園	仕事の為
5/7-5/28	3	1	こゆりこども園	仕事の為
6/4-6/26	5	1	こゆりこども園	病院受診の為
7/2-7/31	13	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
8/20-8/27	3	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
9/3-9/30	8	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
10/1-10/29	10	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
11/5-11/27	10	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
12/3-12/24	9	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
1/6-1/29	14	1	こゆりこども園	病院受診の為
2/2-2/26	15	1	こゆりこども園	病院受診の為
3/4-3/26	21	1	こゆりこども園	病院受診の為

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町こゆりこども園

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	1	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	1	0	0	0	0	1

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度（接遇）		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質（内容）		1	0	0	0	0	0	1
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	0	0	1

令和2年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」事業報告

1. 基本方針

運営規程及び平成27年1月に、町とにしあいづ福祉社会が協働し共同公表した介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を展開した。具体的な実施報告は、別紙の「実施計画報告」の通りである。

2. 入所定員

50名(短期入所療養介護を含む)。

3. 利用対象者

要介護1から要介護5までの認定を受けた者。

4. 重点目標

(1) 認知症ケアの向上

認知症を有する利用者の増加に対応するため、認知症ケア及び認知症リハビリテーションを実施し、多職種によるチームアプローチにより、利用者のADL(日常生活動作能力)の維持・向上を推進した。また、ユマニチュードの技法を導入し、センター方式を活用したアセスメントを実施した。過去の音楽や写真等を用いて、昔の記憶を活性化させる回想法のアプローチも実施した。

(2) 在宅復帰・在宅療養への積極的な支援と連携強化

施設サービス計画に基づいた、身体機能・認知機能の維持向上を目的とした生活リハビリテーションの提供、栄養管理、在宅医療の継続支援を実施し、老健施設の有する機能を発揮することで在宅復帰を推進した。また、在宅復帰・在宅療養支援等指標において、在宅復帰率80.8%、ベッド回転率11.0%、重度者割合(要介護4・5の割合)51.7%にて運用できた。

(3) 職員の専門性の向上

新たなキャリアパスに基づき職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS(自己啓発援助制度)を推進することで、専門性・資質の向上を図った。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用については、職員の段位取得までには至らなかつたが、テキストの内容を活用し各職員が介護技術をチェックし確認できる体制を整備した。また、SDSにおいては、専門職の資格取得に向けた勉強会を実施し、介護福祉士と調理師の資格取得者を輩出することが出来た。

(4) 環境の整備・健全経営

新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、施設内外の定期的な点検と修繕、職員トイレの洋式化等を実施することで、安心で働きやすい環境を整備した。ICT(情報伝達技術)の活用としては、施設内のWi-Fi(無線ネットワーク)環境整備によりオンライン研修体制を構築し、さらにパソコンを増設し事務処理の効率化を推進した。また、各法令や制度への理解を深める勉強会を実施し、適切なケアの見直しによりオムツ代や医薬品等を削減したことで健全経営を推進した。

令和2年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」入所 実施報告

(1)認知症ケアの向上

係・部門	実施計画内容	
相談	①事例検討会やカンファレンスを通して、多職種で認知症アセスメントを実施し、共通認識をもって、統一したケアを提供できる体制とする。	①ケアスタッフ会議にて事例検討会を実施し、認知症アセスメントを深めた。本人のニーズに近い生活が送れるよう、個別ケアの提供を試み、統一した関わりを持つことができた。
	②認知症ケアへの取り組みについて施設内に掲示し、来所者が正しく理解出来るように工夫していく。	②園会の制限等で家族の来所頻度は減ったが、窓口に認知症の方への接し方についての掲示をし、認知症の方が混乱しない対応をしていただけるよう理解を促した。
医療・看護	①個人の抱える疾患や認知症に起因する身体合併症を管理し、看護の視点から療養上の留意点をチームで共有していく。	①認知症に起因する経口摂取低下のある利用者に対して、医師に報告し必要な処置(点滴等)を行い、病状の管理をしている。また、看護の視点から療養上の留意点をサービス担当者会議等にて共有し、チームで認知症ケアを提供できた。
介護	①センター方式 D 借用シートを活用し、24 時間の心身状態の変化をアセスメントすることで、予防的に関わるタイミングやケア内容を協議していく。また、積極的に施設内事例検討会へ事例を提出し、認知症ケアの向上を目指す。	①9月9日ケアスタッフ会議において事例検討会を実施した。センター方式 D 借用シートについては、時間帯ごとの記入欄が小さいため改良を加えた独自のアセスメントシートを使用することにより 24 時間の行動パターン(特に排泄パターン)を把握することが出来た。また、個別的に関わる機会を多く持てるよう意識してケアにあたることが出来た。
	②にしあいづ物語 100 選や西会津町史を活用し、写真や史実から地域ならではの回想法を実施していく。	②レクリエーションの間に昔の西会津町の映像を流したが、地域に偏りがあったため、リハビリ係と協働で昭和 30 年以降の町広報誌から選定した写真を用い、修正を行った。地域での出来事を回想しながら、利用者から当時の話題を引き出すことができた。
リハビリテーション	①チームアプローチによる認知症ケアを実現するために、センター方式を活用したアセスメントを実施し、ユマニチュードによる利用者それぞれの生活履歴や性格に合わせた認知症ケアを行っていく。	①ユマニチュードについては、利用者それぞれの生活履歴や性格に応じた対応を実施した。また、センター方式の書式を使用したアセスメントについては、D1 シートを用いて、10 件の評価を実施した。次年度にはさらに導入を進めていく予定である。
	②認知機能の維持を図るために、古い音楽や写真・映像による回想法を用いたアプローチやパズル等の簡単な作業プログラムを提供できる体制を整備する。	②認知機能維持のため、介護係と協働し、西会津町の古い写真をカラー収集した画像や動画を作成し回想法アプローチを実施した。また、パズル等の作業プログラムを提供できる体制を整備し、感染症予防対策と併行しながら実施した。
	③季節を感じてもらう為に、キュウリやスイカ、ナス等をベランダで育成し、収穫した作物に実際に触れてもらうことや季節を感じる音楽を流すアプローチを実施した。また、デジタル機器の活用については、タブレット端末を活用し、昔の動画や音楽を流して認知機能の向上を促すアプローチを実施した。アロマについては、気分を落ち着かせる効果があるフリージアの香りで実施したが、香料の調整が難しく安定運用には至らなかった。次年度には方法を改善し実施していく予定である。	③季節を感じてもらう為に、キュウリやスイカ、ナス等をベランダで育成し、収穫した作物に実際に触れてもらうことや季節を感じる音楽を流すアプローチを実施した。また、デジタル機器の活用については、タブレット端末を活用し、昔の動画や音楽を流して認知機能の向上を促すアプローチを実施した。アロマについては、気分を落ち着かせる効果があるフリージアの香りで実施したが、香料の調整が難しく安定運用には至らなかった。次年度には方法を改善し実施していく予定である。
栄養・給食	①認知症による食事摂取困難者に対し、認知症の病態と摂食嚥下の 5 期に基づいたアセスメントを行うことで適切な食事支援へ繋げる。	①食事摂取困難者に対し、病態と摂食嚥下のどの段階に問題があるか関連書籍も活用しながらアセスメントを行った。しかし、問題の解決・改善策の提案までには至らなかった。次年度も、参考事例や書籍での研鑽や他職種からの情報も活用し、アセスメントの精度を上げることによって、問題に対する適切な提案・支援が出来るように取り組んでいく。

(2) 在宅復帰・在宅療養への積極的な支援と連携強化

係・部門	実施計画内容	
相談	①多職種での入所前後訪問指導を実施し在宅療養を想定したケアプランを策定する。また、療養上必要なADL・IADLの拡大、環境設定、関係機関と協働により在宅復帰を支援する。	①多職種での入所前後訪問指導は6件実施。3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催し、モニタリングの結果から在宅復帰のタイミングを多職種で協議し、在宅復帰に繋げることができた。また、居宅介護支援専門員と連携・協議し、在宅復帰後のサービス利用の見通しを立てることで、支援する家族が在宅での生活を想定できるように支援した。
	②町や診療所からの要請による緊急入所が必要なときの受け入れ先として対応していく。また、要請があった際は速やかに情報を収集し、各係へ伝達できるよう努める。	②要請があった場合は、ベッドの調整が可能な限り受け入れを実施した。各関係機関と連携し協働アセスメントし、利用終了後のフォローアップについても協議することが出来た。
医療・看護	①医師による治療方針や療養上の留意点を看護計画書へ記載することで、疾患の予後予測や症状別の対処法を多職種間で共有していく。	①個々の抱える疾患に対する療養上の留意点を看護計画書に記載し、特に継続的な治療が必要な場合は、医師による治療方針や処置期間を明記するようにした。退所時サマリー(退所時看護要約)を活用することで多職種間と情報を共有することができ、利用中の様子を家族に伝え医療機関につなぐことが出来た。
	②在宅医療の継続支援のため、医療機関・訪問看護事業所と連携し、切れ目のない在宅医療体制を目指す。	②利用中に状態変化があった場合には、医療機関・訪問看護事業所に情報を提供し、在宅医療体制が滑らかに連携するように対応できた。
介護	①在宅訪問を実施し、入所時から在宅生活を想定したケア方法を検討し計画的に実施していく。また、退所にあたっては、各関係機関への情報提供、在宅での本人・家族への直接指導を行う。	①入所前の在宅訪問は8件ほどを行い、在宅での様子や家屋状況を確認し、可能な限り自宅に近い環境で施設での生活を送っていただくことが出来た。訪問が難しい場合は自宅での様子をビデオ撮影し、パソコン上で係内外での閲覧、把握ができる体制を整備した。また、自宅への退所前には実際に在宅へ訪問したケースが1件、家族が来所したケースが2件あり、排泄介助や食事介助、体位交換の方法等の助言指導を行った。
リハビリテーション	①在宅復帰・在宅療養支援機能指標に基づくリハビリ体制を構築していくために、リハビリテーションマネジメント体制とリハ専門職配置割合の安定運用を行っていく。また、各職種と連携し入退所前後訪問に取り組む。	①加算理報額獲得の要件であるリハビリテーションマネジメント体制とリハ専門職配置割合の安定運用を実施することが出来た。人員不足の際に、勤務調整にて対応出来る体制を整備し、入退所前後訪問についても他職種と連携し実施した。
	②在宅復帰・在宅療養を支援していくチームアプローチを実践していくために、在宅における利用者の動作や住環境を映像による共有とアセスメントできる体制を整備する。特に、在宅訪問時における映像を、入所時における各職種との連携強化に効果的に使用できるように工夫していく。	②今年度より導入したタブレット端末を使用し、在宅の住環境について情報共有が出来る体制を整備した。各職種とは在宅の様子を映像にて共有することができたため、入所時には、在宅生活を想定した効果的な個別および生活リハビリテーションの実施につなげられた。また、退所時においても、在宅生活に活かせる動作指導や住環境への助言を実施することができた。
	③各職種と連携し、心身機能の評価に基づいた個別リハビリテーション、生活リハビリテーションを実施していく。また、効果的な福祉用具の選定や住環境設定を実施していく。	④個別リハビリテーション、生活リハビリテーションを実施していくため、介護技術指導者研修会等で得た知識を下に、車椅子シーティングやベッドポジショニング等による生活環境設定に取り組んだ。また、福祉用具の選定についても、歩行補助具の選定に力を入れた。
栄養・給食	①入所中から在宅を想定した食事内容の評価や生活環境の確認等を行い、在宅生活を見据えた食支援を実施していく。	①入所前訪問に施設介護支援専門員と同行することで、詳細に自宅での情報(食事の様子、嗜好等)を聞き取ることができた。また、そこから新たな栄養面のニーズを把握し、計画に反映することができた。
	②特別食や咀嚼・嚥下対応食提供者、低栄養のリスクのある方を対象とした栄養指導や他事業所との情報共有の効率化の為、実際の食事の写真や注意点を記入したリーフレットを活用する。	②入所者が外出する際の食事について、施設での食事の写真を例にして家族へ説明を行った。その際に、分かり難さがあった為、実際の献立の写真5種類(煮物・和え物・サラダ等)を食形態の例として一覧表にまとめ作成した。次年度に活用していきたい。

(3)職員の専門性の向上

係・部門	実施計画内容	
相談	①定期的に人権擁護員等を招き外部評価を受けることで、施設での取り組みが人権へ配慮できているか確認していく。	①人権擁護員の外部評価は、新型コロナウィルス感染症流行につき訪問活動は自粛しているところで未実施。施設内権利擁護委員会にて7月「職員のマナーチェックリスト」、9月「虐待の芽チェックリスト」を実施。利用者への不適切な教称やあだ名呼びはなくなったが、職員同士ではいまだに確認されるため、標語を作成し掲示することで注意喚起を促している。
	②人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスにおいて、アドバンス・ケア・プランニングを実施できるよう推進していく。	②事前に本人・家族の意向を確認し、ケアプラン第一表に記載することで各職種との共有を図っている。希望があり、状態が安定していれば、外出・外泊の支援を行い、医療的なフォローをしながら自宅で過ごす時間を設けられるようにしている。また、最期を家族と迎えられるよう、ターミナル期は個室を準備する等の環境を整備した。
医療・看護	①訪問看護事業所への在宅訪問研修を継続し、さらなる連携強化を図っていく。	①新型コロナウィルス感染症の影響により在宅訪問研修は実施出来なかった。次年度には感染流行の状況を鑑み検討していく予定である。訪問看護事業所等への情報提供については継続して実施出来た。
	②終末期における在宅医療・緩和ケアの知識や技術の向上ため、係内勉強会を実施する。また、そこで得たものを共有し、実践するため、多職種との研修会を企画する。	①業務マニュアルを用いた係内勉強会は実施できたが、多職種との研修会は実施できていないため、次年度に検討していく予定である。終末期と診断された際は、本人・家族が穏やかに最期を過ごせるように個室を準備する等の環境整備を実施した。また、適切な臓器管理による身体的疼痛の緩和や、心理的側面に配慮した支援からQOL(生活の質)を高め、病状の悪化に良い影響を与えるケアを提供した。
介護	①介護プロフェッショナルキャリア段位制度を適用し、認定レベル4以上の介護人材を育成する。「知識」「実践的スキル」の両面から教育・指導・実践することで介護職全体の資質向上を図る。	①キャリア段位のテキストを活用し、各職員がチェック内容を確認できるよう、施設内への表の配達を行った。また、毎月実施される介護技術指導者向け研修会に参加し、介護スキルと指導スキルの向上を図った。令和3年3月10日にケアスタッフ会議内において、肢離介護についての伝達研修会を行い、根拠に基づいた介護を再確認することができた。SDS(自己啓発援助制度)においては、介護福祉士の資格取得に向けた勉強会を実施し、2名の資格取得につながった。
	②利用者満足度の向上のため、接遇・サービスマナー研修に参加し、ホスピタリティのある介護の定着を目指す。	②令和2年5月19日「接遇・コミュニケーションスキル」についての施設内研修会に参加した。心を込めた温かいもてなしが提供できるよう、独自の接遇マナーチェックリストを作成した。令和3年3月のケアスタッフ会議にて、係内で相手を思いやるホスピタリティについて確認し合うことが出来た。
	③心身の状態に変化がみられた際は、支援内容・ケア方法を再検討し、速やかに介護計画書に反映することで、ケアの統一を図っていく。	③状態変化がみられた際には、カンファレンスを実施し情報を共有することで統一したケアを行う体制を整備した。施設内サービス担当者会議後に速やかに計画書を作成することは概ね達成できた。
リハビリテーション	①福祉用具の選定力と住環境の設定力を向上させるために、業者と連携を図りながら福祉用具に関する最新情報の収集を行っていくと共に係内勉強会を実施していく。	①業者から収集した最新の福祉機器情報について、係内にて共有していく場を設けた。また、義肢装具業者との連携も図り義具に関する情報収集を実施し、職員の選定力向上に取り組んだ。係内での勉強会は、国際福祉機器展のテキストと動画を用いて実施した。

	<p>②在宅復帰・療養支援において的確な助言と医学的根拠のあるリハビリを実施していくために、 SDS・Off-JTへの支援体制の中、職業団体の研修等へ参加し専門技術の向上に励む。</p> <p>③スタッフのキャリアプランを支援していくために、それぞれのキャリアプランを把握していくと共に各自のプランを共有し、それに基づいた Off-JT 体制の整備を進めていく。また、キャリアパスの適切な運用を実施していく。</p>	<p>②新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主にインターネットや電子論文等を用いて専門技術の習得を行った。また、オンライン研修が増加しているため、 ZOOM (Web 会議ツール) についての操作方法の勉強会を開催した。 SDS (自己啓発援助制度) においては、オンラインにて職業団体主催の協会指定管理者研修（上級）やフレイル対策推進リーダー研修等を受講した。また、介護支援専門員試験の答練会（予想・過去問題）を計 16 回開催した。</p> <p>③スタッフのキャリアプランを支援するために、それぞれの希望するキャリアプランの把握、目標設定を把握する面談を実施した。それに対応した Off-JT 体制を整備し、新入職員を対象とした進歩確認表を作成し活用した。</p>
栄養・給食	<p>①キャリアパスを活用し、各自が求められるスキルを理解し、より具体的な目標設定を行い、目標達成に向けて意欲的に取り組む。</p> <p>②所属する職業団体や全老人への事例・研究発表に取り組み、日常業務の見直しや資質向上を目指す。</p>	<p>①10月より各自、期初目標を設定し、係会議での勉強会の企画・開催や業務改善に意欲的に取り組むことが出来た。また、調理師試験受験予定者対し、栄養係で SDS (自己啓発援助制度) による受験対策勉強会の開催（5回）や模擬・予想問題の提供等の支援を行い、1名の資格取得につながった。</p> <p>②日常業務の見直しや資質向上の取り組みとして、動画を用いた勉強会を係全体で受講した。国で定めている食事摂取基準の改正点や高齢者の食事を作るにあたっての注意点を学ぶことができた。事例・研究発表については、業務の都合により取り組むことが出来なかった。</p>

(4) 環境の整備・健全経営

係・部門	実施計画内容	
事務	①施設内外の修繕・劣化状況を把握するため、定期的な点検を実施し、必要に応じて修繕対応することで、利用者にとって快適な環境、職員にとって働きやすい環境整備に努めしていく。	①利用者にとって快適な環境、職員にとって働きやすい環境整備のために、施設内外の定期的な点検を実施し、修繕・劣化が見られた場合には速やかに修繕を行った。また、当初予算で計上されていた、男子トイレの洋式化の実施、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金での感染予防対策における物品等の購入で、安心で働きやすい環境整備を実施した。次年度には、作成したチェックシートを活用することで、修繕箇所の確実な把握・情報共有を実施し、安心できる生活空間を整備していく。
	②修繕や危険箇所がある際は、各部門から問い合わせ、対応する仕組みを整える。	②各部門からの報告担当者を決定することで、修繕や危険箇所の報告を一元化で扱い上げ、対応できる仕組みを整えた。しかし、各部門からの速やかな報告には課題が残るため、次年度には報告経路と方法について検討していく。
	③物品等の収支状況を定期的に周知することで、職員一人一人の経費節減の意識付けに繋げていく。	③各委員会での支出状況や各部門での予算計上品の購入状況を、適時、報告周知することで、職員の経費削減の意識付けに繋げることが出来た。しかし、定期的な報告周知をしていく体制整備には至らなかったため、次年度には、定期的に情報共有ができる場を設定し、さらなる意識付けに繋げていく。
相談	① 計画的な入退所管理により、在宅復帰・在宅療養支援等指標における加算型の安定運用を目指す。	①在宅復帰・在宅療養支援等指標において、在宅復帰率 80.8%、ベッド回転率 11.0%、重度割合（要介護 4・5 の割合）51.7% となっている。ケアマネ連絡会議を定例化し入退所状況を共有

	<p>②福祉見聞録システムを活用し、多職種とのケース共有が円滑に進行するように努めていく。</p>	<p>し管理することで、加算型を安定運用することが出来た。</p> <p>②福祉見聞録システム上で、モニタリング結果を同一様式に入力することで相互共有を図りブランディングへ繋げることが出来た。</p>
医療・看護	<p>①職場の5S(整理・整頓・清掃・清潔・継)を継続する。特に、医療機器の定期メンテナンスと医療品の在庫管理を徹底していく。</p>	<p>①職場の5S(整理・整頓・清掃・清潔・継)を継続し、特に、以下の4点の取り組みに力を入れてきた。 1. 薬品庫倉庫(施設)における薬品管理と整理整頓 2. 薬剤を使用した医療機器の清掃 3. 手洗いやケア後の消毒に使用するアルコールスプレーの設置管理 4. 勤員の身だしなみや接遇向上に関する研修。 また、週1回の医療機器メンテナンスを習慣化することで、異常の早期発見から修理・交換を速やかに対応することができた。さらに、医薬品の在庫管理担当者を決定し計画的に運用することで、感染症予防対策用品の管理を徹底し、在庫ロスを防ぎ経費を削減できた。</p>
	<p>②看護施設における適切な医療提供のため、係内勉強会を開催し、制度への理解を深めていく。</p>	<p>②適切な医療提供のため看護業務マニュアル(着取り・急変時対応・病院受診・ショートステイ入退所対応)を整備した。そのマニュアルを用い係内にて勉強会を実施し、内容の確認を行なった。また、新しく配置された職員の指導にも使用することが出来た。</p>
	<p>③多職種との情報共有のため、福祉見聞録システムを活用した申し送り体制を構築する。</p>	<p>③担当医の診察結果や、本人・家族への病状説明の内容を福祉見聞録システム内のケース記録へ転記することで、多職種が共有できる体制としている。また、申し送りの際にはケース記録を参照しながら実施することで、申し送り漏れを防ぐ体制を構築した。</p>
介護	<p>①PCの増設により記録業務の効率化を図っていく。</p>	<p>①10月にノートパソコンが増設となり、福祉見聞録以外の書類(ショートステイ関係や計画書、勘定について等)が行えると共に、持ち運びができることにより食堂での見守りをしながらの記録業務を行えるようになった。継続して3台のパソコンを有効に使用し、利用者の直接介護にあてる時間を確保した。</p>
	<p>②福祉見聞録等にて、各部門の支援計画を参考し、個別援助計画書の整合性を図っていく。</p>	<p>②個別援助計画に沿った記録が徹底されるよう、係内での啓発や業務内での声かけ、記録の確認を行うなどの環境整備を行った。計画書を作成するに当たっては、他部門の支援計画を参考し、それがないか確認しながら進めることが出来た。また、個別援助計画を実施するにあたり、適切な排淮ケアについて検討し、オムツの種類を見直すことによって経費を削減できた。</p>
リハビリーション	<p>①老健加算型介護報酬を継続し健全な経営を行っていくために、その要件となる在宅復帰・在宅療養支援機能指標におけるリハビリ職員配置点数を確保していく。また、入所退所前後訪問割合点数の安定確保のために、在宅訪問へ職員が行ける勤務体制を整備する。</p>	<p>①麦計算ソフト(Excel)を利用してリハ専門職員の配置時間の集計システムを作成した。それにより、老健加算型介護報酬取得に関わる配属時間と入所退所前後訪問指導時間と迅速に集計することが可能となり、加算要件点数を確保することが出来る体制を整備できた。</p>
	<p>②事務業務の効率化と働きやすい職場を整備するために、ICTを活用し、作業手順の見直しと業務の集約・簡素化を実施していく。職員の健康面においては、お互いが留意して気遣っていく職場風土を作っていく。また、それらの取り組みの実施状況について、係内で、その評価と改善を定期的に行っていく体制も整備していく。</p>	<p>②ICTの活用については、事務係と連携し施設内のWi-Fi(無線ネットワーク)環境の整備を行い、リハビリ実施記録等においては、福祉見聞録の活用を進めた。また、現在のリハビリ係内の業務における作業手順の見直し、業務の集約・簡素化を実施した。健康面については、お互いが留意して気遣っていく職場風土を作るために、健康上有不安がある場合に勤務変更等にて対応できる体制を整備した。しかし、その評価と改善を定期的に行っていく体制整備には至っていないため、次年度に実施していく予定である。</p>

	<p>③介護保険や法令改正等に迅速に対応出来るために、介護報酬や法令等の改正情報を厚生労働省の介護報酬Q&Aや全看護師の機関誌により把握し、係内で勉強会を開催し共有化を図っていく。</p>	<p>③新型コロナウイルス感染対策における介護保険や法令改正等に関する情報を共有できる機会を定期的に設け、令和3年度介護報酬改定に向けての勉強会を実施できた。</p>
栄養・給食	<p>①使用食材の検討や仕込み方法の工夫、既存の厨房機器の活用を行い、それを基に業務工程を見直し、厨房業務の効率化を目指す。</p>	<p>①調理員から積極的に調理機器を活用した調理方法の提案があり、調理手順の記録と調理時の写真を残し係会議で共有ができた。それにより、調理業務の時間短縮にもつなげることが出来た。</p>

令和2年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」利用実績

①入所利用実績

	実人数						延べ日数
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
令和2年4月	2	2	12	10	9	35	984
令和2年5月	1	1	13	10	10	35	972
令和2年6月	1	1	14	10	8	34	937
令和2年7月	1	0	13	11	8	33	936
令和2年8月	1	1	13	8	9	32	918
令和2年9月	1	2	10	9	9	31	870
令和2年10月	1	4	10	6	10	31	899
令和2年11月	1	4	12	9	9	35	884
令和2年12月	3	6	11	8	8	36	1,024
令和3年1月	5	6	11	8	8	38	1,127
令和3年2月	6	3	12	8	7	36	951
令和3年3月	5	2	9	9	10	35	1,001
合計	28	32	140	106	105	411	11,503
前年度	(20)	(23)	(127)	(148)	(89)	(407)	(11,106)

②介護度年齢別状況

※()内は前年度実績

	~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	合計
男性	要介護1	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護3	0	0	0	0	2	3	0	1	6
	要介護4	0	0	0	2	1	1	3	1	8
	要介護5	0	0	0	0	3	2	2	0	7
女性	小計	0	0	0	2	1	7	9	3	23(22)
	平均	0	0	0	4	4	3.7	3.5	4.6	3.7(3.7)
	要介護1	0	0	0	0	1	2	0	0	3
	要介護2	0	0	0	0	1	1	3	0	5
	要介護3	0	0	0	0	0	3	3	5	11
	要介護4	0	0	0	0	0	3	7	0	11
	要介護5	1	0	1	0	0	3	3	2	11
	小計	1	0	1	0	1	11	18	7	41(42)
	平均	5	0	5	0	2	3.5	3.3	3.6	4.5 3.5(3.5)
	合計	1	0	1	2	2	18	27	10	64(64)
	平均	5	0	5	4	3	3.6	3.4	3.9	8.6(8.6)
	男性平均	89.5歳	女性平均	90.6歳	全体平均	90.2歳	最高	102歳	最低	59歳

③入退所状況

	自宅	GH	小規模	有料等	老健	特養	病院	永眠	合計			
	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	退所	入所	退所	
令和2年4月	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0		
令和2年5月	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和2年6月	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0		
令和2年7月	3	1	0	0	0	0	0	0	1	1		
令和2年8月	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和2年9月	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0		
令和2年10月	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和2年11月	6	2	0	0	0	0	0	0	0	1		
令和2年12月	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和3年1月	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和3年2月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和3年3月	0	3	0	0	0	0	0	0	2	1		
合計	36	19	0	0	0	1	0	0	0	5	3	
前年度	(32)	(25)	(3)	(1)	(0)	(0)	(1)	(2)	(2)	(0)	(5)	(13)(6)
									21	42	43	
									(7)	(51)	(47)	

④市町村別年間実人数

市町村名	男性	女性	計
西会津町	23	39	62
会津坂下町	0	1	1
柳津町	0	1	1
計	23	41	64

令和2年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」利用実績

⑤短期入所療養介護利用実績

	実人数							延べ日数
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
令和2年4月	0	1	3	16	10	10	4	44 484
令和2年5月	0	1	5	17	10	12	5	50 555
令和2年6月	0	1	6	14	10	11	5	47 537
令和2年7月	1	1	4	16	11	12	4	49 582
令和2年8月	2	1	5	15	11	10	5	49 604
令和2年9月	2	1	8	13	13	10	5	52 602
令和2年10月	0	2	10	12	12	10	7	53 628
令和2年11月	0	2	5	14	12	11	5	49 573
令和2年12月	0	2	4	13	13	9	5	46 506
令和3年1月	0	2	3	12	12	8	5	42 413
令和3年2月	0	2	4	12	12	7	4	41 431
令和3年3月	1	3	6	11	13	8	5	47 514
合計	6	19	63	165	139	118	59	569 6,429
前年度	(1)	(12)	(54)	(170)	(160)	(111)	(89)	(597) (6,842)

⑥短期入所介護度年齢別状況

		~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	合計
男性	要介護1	0	1	0	0	1	2	3	1	0	8
	要介護2	0	0	0	0	5	0	2	1	0	8
	要介護3	0	0	0	1	3	2	4	0	0	10
	要介護4	0	1	0	1	2	2	1	0	0	7
	要介護5	0	0	0	1	0	1	2	3	0	7
	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
小計		0	2	1	3	12	7	12	5	0	42(45)
平均		0	2.5	1	4	2.5	3	2.7	3.6	0	2.9(3)
女性	要介護1	0	0	0	1	1	4	2	2	0	10
	要介護2	0	0	0	0	3	2	5	0	1	11
	要介護3	0	1	1	1	0	1	2	1	0	7
	要介護4	0	0	0	0	1	3	5	3	0	12
	要介護5	0	0	0	0	0	1	3	2	0	6
	要支援1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	要支援2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
小計		0	1	1	3	5	11	18	8	1	48(61)
平均		0	3	3	2	2.2	2.5	3.12	3.3	2	2.8(3.1)
合計		0	3	2	6	17	18	30	13	1	90(106)
平均		0	2.6	3	3.2	2.4	2.7	2.9	3.4	2	2.8(3.1)

⑦入所・短期入所療養介護合算実績

※()内は前年度実績

	ロング	ショート	計		平均
令和2年4月	984 (912)	484 (559)	1,468	(1,471)	48.9 (49.0)
令和2年5月	972 (887)	555 (621)	1,527	(1,508)	49.2 (48.6)
令和2年6月	937 (823)	537 (630)	1,474	(1,453)	49.1 (48.4)
令和2年7月	936 (1,018)	582 (518)	1,518	(1,536)	48.9 (49.5)
令和2年8月	918 (936)	604 (571)	1,522	(1,507)	49.0 (48.6)
令和2年9月	870 (906)	602 (564)	1,472	(1,470)	49.0 (49.0)
令和2年10月	899 (914)	628 (614)	1,527	(1,528)	49.2 (49.2)
令和2年11月	884 (869)	573 (600)	1,457	(1,469)	48.5 (48.9)
令和2年12月	1,024 (960)	506 (561)	1,530	(1,521)	49.3 (49.0)
令和3年1月	1,127 (898)	413 (621)	1,540	(1,519)	49.6 (49.0)
令和3年2月	951 (942)	431 (497)	1,382	(1,439)	49.3 (49.6)
令和3年3月	1,001 (1,041)	514 (486)	1,515	(1,527)	48.8 (49.2)
合計	11,503 (11,106)	6,429 (6,842)	17,932 (17,909)	49.1 (49.0)	

令和2年度

医療処置一覧

介護老人保健施設「憩の森」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	428	381	429	314	400	333	368	437	216	190	118	222
経管栄養者人数	64	68	66	71	60	62	68	48	40	35	28	52
PEG・Mチューブ交換	2	4	4	1	2	2	3	2	3	0	3	1
Hr.カテーテル挿入者人数	86	59	60	62	86	54	31	32	30	56	44	48
Hr.カテーテル交換	3	3	3	5	6	3	3	2	2	1	2	7
膀胱洗浄	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	6	5	10	7	9	1	11	5	8	8	10	3
臨時検査	13	15	17	18	16	6	10	10	7	4	7	4
点滴 Div	53	27	25	30	88	89	48	20	19	42	11	16
抗生素 iv	41	24	33	22	64	18	38	20	26	26	9	10
インスリン	2	2	43	36	16	6	15	22	35	33	4	2
受診	1	0	0	1	1	4	0	0	0	0	1	1

処置人数	3836件
経管栄養者人数	662件
PEG・Mチューブ交換	27件
Hr.カテーテル挿入者人数	648件
Hr.カテーテル交換	40件

膀胱洗浄	1件
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	83件
臨時検査	127件
点滴 Div	468件
抗生素 iv	331件
インスリン	216件
受診	9件

令和2年度行事食一覧表

令和2年度行事食一覧表				令和3年度行事食一覧表				介護老人保健施設 森の森			
実施日	行事会員	行事内容	実施日	行事会員	行事内容	実施日	行事会員	行事内容			
令和2年	4月 16日	①お花見御膳 春のちらし寿司 吸い物(手まり鮨) 汆き合わせ 揚げだし豆腐の梅だれかけ ミニケーキ(苺)		11月 3日	⑩文化の日	赤飯 小づゆ 鰯の蒲焼 ブロッコリーの梅かつお和え					
	27日	①副菜選択デー 野菜の吉野煮 新玉ねぎのポン酢和え		18日	⑪新そば会	新そば かき揚げ 納入りなます					
	29日	②昭和の日 ご飯 小づゆ 魚の煮付け クルミの白和え		23日	⑫勤労感謝の日	赤飯 味噌汁(豆腐) 魚の山椒焼き ポテトの味噌炒め					
	5月 3日	③憲法記念日 ご飯 ざくざく 魚のくずあんかけ 春菊とのりの和え物		12月 21日	21冬至	ご飯 味噌汁(にら・もやし) 魚の辛味焼き 冬至南瓜					
	4日	④みどりの日 赤飯 味噌汁(豆腐) 魚の山椒焼き ポテトの味噌炒め		24日	22クリスマス献立	クリスマス散らし寿司 洋風スープ煮 チキン豆腐団子 茄子サラダ					
	5日	⑤こどもの日 春の散らし寿司 あさりの潮汁 魚のフライ ポテトサラダ		31日	23大晦日	年越しそば かき揚げ インゲンの胡麻味噌和え					
	15日	⑥お田植え御膳 しそ味噌のおにぎり 味噌汁(じやが芋とうろい) 春の天から 天つゆ わらびのナムル	令和3年	1月 1~3日	24正月 特別献立	伊達巻 筑前煮 散らし寿司 雜煮風煮物 きんとん 豆汁 ひれかつ煮込み 紅白なます 山海汁 鯛の照り焼き ポテトサラダ 精進揚げ くるみの白和え 五目煮しめ たたき牛蒡 三日とろろ 七福神イモ雑煮 錦なます 豚肉の南蛮焼 春雨の酢の物					
	27日	⑦副菜選択デー アスパラの味噌マヨネーズ和え アスパラのお浸し		15日	25小正月御膳	三色おはぎ 小づゆ 椿たらの甘露煮 敷の子豆 いご					
	6月 8日	⑧さなぶり御膳 吹き寄せご飯 吸い物(花鮨) 鮯の桜えびフリッター ふきとうどの油炒め 和菓子風ムースヨモギ		2月 3日	26節分御膳	大豆御飯 ざくざく 天ぷら盛 ほうれん草の胡桃和え					
	24日	⑨副菜選択デー 夏野菜の香り和え 野菜の洋風炊き合わせ		11日	27建国記念日	赤飯 小づゆ 魚の味噌煮 ゼンマイと油揚げの煮付け					
	7月 8日	⑩七夕御膳 冷やしうめん 料理 精進揚げ 奴豆腐 七夕ポンチ		23日	28天皇誕生日	桜ごはん なめこ汁 魚の香味ソースかけ マカロニサラダ					
	21日	⑪土用の丑の日 うな丼 吸い物(花鮨) 胡瓜もみ 桜漬け大根		26日	⑫副菜選択デー	野菜の柏煮 ふろふき大根					
	23日	⑫海の日 冷やしよもぎそば 冬瓜の炒り煮		3月 2日	29ひな祭り御膳	ひな祭り寿司 吸い物(花鮨) 炊魚 菜花となめこのおひたし					
	30日	⑬副菜選択デー 白菜ともやしのナムル すんだ和え		17日	30彼岸入り	三色おはぎ 小づゆ 魚の生姜煮 蕎麦のマリネ					
	8月 10日	⑭山の日 ご飯 味噌汁(里芋) 松風焼き 中華風なます		19日	31お中日	赤飯 吸い物(花鮨) 揚げ豆腐と野菜あんかけ おさつサラダ					
	13日	⑮盆入り 御飯 吸い物(花鮨) 精進揚げ 天つゆ クルミの白和え 黒ごまプリン		32彼岸明け		いなり寿司 吸い物(エビ団子) 肉と野菜の旨煮 野菜の白和え					
	15日	⑯終戦記念日 赤飯 小づゆ 煮魚 揚げ出し豆腐の枝豆あん									
	28日	⑰副菜選択デー 冬瓜の帆立あんかけ 揚げ豆腐サラダ									
	9月 19日	⑱お彼岸入り御膳 三色おはぎ 小づゆ 魚の酒粕焼き 大根の鑿あんかけ									
	21日	⑲敬老の日 赤飯 かき卵汁 ブリの照り焼き えのきの御しあえ									
	25日	⑳彼岸明け いなり寿司 清汁(みょうが) 肉と野菜の旨煮 椿の白和え									
	26日	㉑副菜選択デー 千切りの煮付け 切干大根のサラダ									
	10月 12日	㉒秋の味覚御膳 赤飯 白玉団子入り根菜汁 魚の紅葉揚げ 枝豆の白和え									
	26日	㉓副菜選択デー 紅葉和え 里芋の春菊和え									

行事食 合計32回

副菜選択デー 合計 8回

令和2年度 介護老人保健施設「憩の森」施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・開催場所	復命方法
1	令和2年度全会津介護支援専門員協会 第一回研修会	第一部 映画「みとりし」上映 第二部 ・看取りケアに関する情報交換会 ・発表	支援相談員兼 介護支援専門員	近藤貴之	R2.7.14	全会津介護支援専門員協会 アピオスペース	復命書 復命書回覧
2	令和2年度全会津介護支援専門員協会 第一回研修会	第一部 映画「みとりし」上映 第二部 ・看取りケアに関する情報交換会 ・発表	看護係長兼 介護支援専門員	八幡一子	R2.7.14	全会津介護支援専門員協会 アピオスペース	復命書 復命書回覧
3	ふんわりちゃんとん大作戦	1.基礎知識の確認 福島県立医科大学会津医療センター 鎌田医師 2.デモンストレーション 3.ゾーニング検討 4.手技の相互チェック 5.鎌田医師コメント(オンライン)	准看護師	山口時恵	R2.8.11	風邪に立つライオン基金 野沢体育館	復命書 復命書回覧
4	ふんわりちゃんとん大作戦	1.基礎知識の確認 福島県立医科大学会津医療センター 鎌田医師 2.デモンストレーション 3.ゾーニング検討 4.手技の相互チェック 5.鎌田医師コメント(オンライン)	准看護師	中島愛	R2.8.11	風邪に立つライオン基金 野沢体育館	復命書 復命書回覧
5	令和2年度第2回能力開発セミナー 育てるより育つ環境を整える やる気を引き出すコーチング講座 総会・記念講演	1.介護労働安定センターについて 2.講義「育てるより育つ環境を整える やる気を引き出すコーチング講座」	介護係長	鈴木あや子	R2.8.21	介護労働安定センター 郡山安積総合学習センター	復命書 復命書回覧
6	令和2年度第2回能力開発セミナー 育てるより育つ環境を整える やる気を引き出すコーチング講座 総会・記念講演	1.介護労働安定センターについて 2.講義「育てるより育つ環境を整える やる気を引き出すコーチング講座」	介護支援専門員兼 介護副係長	小林栄里	R2.8.21	介護労働安定センター 郡山安積総合学習センター	復命書 復命書回覧
7	令和2年度介護労働者管理責任者講習	I 第1回講習「雇用管理論」(総合) 1.魅力ある職場と雇用管理の目的確認 2.雇用管理上の最低限ルール確認 3.雇用管理の目的再確認 II 第2回講習「労働時間管理(専門)」	副施設長兼 事務長	伊勢亜久美子	R2.9.7	介護労働安定センター 郡山安積総合学習センター	復命書 復命書回覧

8	中間管理職のマネジメント能力向上のカギ 自分自身を振り返り、チームにおいてリーダーシップのあり方について考える	1.介護労働安定センターについて 2.中間管理職マネジメント能力のカギ 3.講義～自分自身を振り返り、チームにおいてリーダーシップのあり方について考える	介護係長	鈴木あや子	R2. 9. 7	介護労働安定センター 郡山安積総合学習センター	復命書 復命書回覧
9	中間管理職のマネジメント能力向上のカギ 自分自身を振り返り、チームにおいてリーダーシップのあり方について考える	1.介護労働安定センターについて 2.中間管理職マネジメント能力のカギ 3.講義～自分自身を振り返り、チームにおいてリーダーシップのあり方について考える	介護リーダー	長谷川良三	R2. 9. 7	介護労働安定センター 郡山安積総合学習センター	復命書 復命書回覧
10	社会福祉施設等における新型コロナウイルス 感染症拡大防止のための研修会	1.新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の基本的事項と 感染拡大防止の為の注意点 2.防護服の着脱方法 3.障がい者支援施設における新型コロナウイルス感染症 発生時の具体的な対応事例	看護副係長	佐藤かつ子	R2. 9. 16	福島県会津保健福祉事務所 さゆりの園会議室(リモート研修)	復命書 復命書回覧
11	令和2年度介護労働者管理責任者講習	I 第3回講習「資金管理」(専門) 1.魅力ある職場と雇用管理の目的確認 2.資金管理上最低限知っておくべき事 3.資金支給額決定の事例体験 II 第4回講習「人事管理(専門)」 1.魅力ある職場と雇用管理の目的確認 2.「キャリアパス制度」本来の意味を確認しよう 3.「キャリアパス制度の運用」のどこが問題か? 4.「キャリアパス制度」を自分たちのものに	副施設長兼 事務長	伊勢亀久美子	R2. 10. 23	介護労働安定センター 郡山市労働福祉会館	復命書 復命書回覧
12	令和2年度喜多方地方定住 自立園認定調査員 合同勉強会の開催について	1.介護保険事業状況等について 2.要介護認定調査票記載のポイント 3.認定調査に関する問題を出題	看護係長兼 介護支援専門員	八幡一子	R2. 11. 11	西会津町役場福祉介護課 喜多方プラザ小ホール	復命書 復命書回覧
13	令和2年度喜多方地方定住 自立園認定調査員 合同勉強会の開催について	1.介護保険事業状況等について 2.要介護認定調査票記載のポイント 3.認定調査に関する問題を出題	介護副係長兼 介護支援専門員	小林栄里	R2. 11. 11	西会津町役場福祉介護課 喜多方プラザ小ホール	復命書 復命書回覧

14	令和2年度第2回キャリアアップ講習会 中間管理職のマネジメント能力向上の カギ リーダーとしてスタッフを活かす方法 を考える (安心して働き続けるために)	1. 介護労働安定センターについて 2. 中間管理職のマネジメント能力向上のカギ 3. 「リーダーとしてスタッフを活かす方法を考える」	介護副係長兼 介護支援専門員	小林栄里	R2. 11. 20	介護労働安定センター 郡山市安積総合センター集会室	復命書 復命書回覧
15	令和2年度第2回キャリアアップ講習会 中間管理職のマネジメント能力向上の カギ リーダーとしてスタッフを活かす方法 を考える (安心して働き続けるために)	1. 介護労働安定センターについて 2. 中間管理職のマネジメント能力向上のカギ 3. 「リーダーとしてスタッフを活かす方法を考える」	介護リーダー	佐藤留美	R2. 11. 20	介護労働安定センター 郡山市安積総合センター集会室	復命書 復命書回覧
16	令和2年度キャリアパス制度課題別研修 ～「キャリアパス」を機能させる 指導的職員の役割とは～	1. キャリアパスにおける指導職の役割を考える 2. 個々のコミュニケーションの特徴について 3. 部下の熟成度に合わせたリーダーシップ 4. 評価者としての指導職を考える	栄養リーダー兼 管理栄養士	佐藤明日香	R2. 12. 3 -4	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 復命書回覧
17	令和2年度キャリアパス制度課題別研修 ～「キャリアパス」を機能させる 指導的職員の役割とは～	1. キャリアパスにおける指導職の役割を考える 2. 個々のコミュニケーションの特徴について 3. 部下の熟成度に合わせたリーダーシップ 4. 評価者としての指導職を考える	リハビリリー ダー兼 作業療法士	長嶺耕一	R2. 12. 3 -4	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 復命書回覧
18	令和2年度キャリアパス制度課題別研修 ～「キャリアパス」を機能させる 指導的職員の役割とは～	1. キャリアパスにおける指導職の役割を考える 2. 個々のコミュニケーションの特徴について 3. 部下の熟成度に合わせたリーダーシップ 4. 評価者としての指導職を考える	介護リーダー	長谷川良三	R2. 12. 3 -4	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 復命書回覧
19	令和2年度キャリアパス制度課題別研修 ～「キャリアパス」を機能させる 指導的職員の役割とは～	1. キャリアパスにおける指導職の役割を考える 2. 個々のコミュニケーションの特徴について 3. 部下の熟成度に合わせたリーダーシップ 4. 評価者としての指導職を考える	介護リーダー	佐藤留美	R2. 12. 3 -4	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 復命書回覧

20	令和2年度キャリアパス制度課題別研修 「キャリアパス」を機能させる 指導的職員の役割とは	1. キャリアパスにおける指導職の役割を考える 2. 個々のコミュニケーションの特徴について 3. 部下の熟成度に合わせたリーダーシップ 4. 評価者としての指導職を考える	介護リーダー	長谷川ウタ子	R2.12.3 -4	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 復命書回覧
21	令和2年度介護老人保健施設 リスクマネージャー養成講座Ⅰ期	1部 1. リスクマネージャ資格について 2. 老健施設の今後とリスクマネジメント 3. リスクマネジメント法律論Ⅰ 4. 医療、介護過誤への対応について 2部 1. ヒヤリハットの重要性と、苦情発生の心理学 2. ケアの質の評価について 3. コロナウイルス関連 4. コーチングについて 5. 施設における介護事故 3部 1. 労務管理について 2. 個人情報の取り扱いについて 3. サービス管理論（利用者との信頼関係、苦情対応と顧客満足） 4. 介護保険制度を取り巻く現状と法令遵守	介護リーダー	佐藤留美	R2.12.7 ・14・24	公益社団法人全国老人保健施設協会 憩の森相談室（リモート研修）	復命書 復命書回覧
22	令和2年度介護老人保健施設 リスクマネージャー養成講座Ⅰ期	1部 1. リスクマネージャ資格について 2. 老健施設の今後とリスクマネジメント 3. リスクマネジメント法律論Ⅰ 4. 医療、介護過誤への対応について 2部 1. ヒヤリハットの重要性と、苦情発生の心理学 2. ケアの質の評価について 3. コロナウイルス関連 4. コーチングについて 5. 施設における介護事故 3部 1. 労務管理について 2. 個人情報の取り扱いについて 3. サービス管理論（利用者との信頼関係、苦情対応と顧客満足） 4. 介護保険制度を取り巻く現状と法令遵守	介護員	國分幸夫	R2.12.7 ・14・24	公益社団法人全国老人保健施設協会 憩の森相談室（リモート研修）	復命書 復命書回覧
23	感染予防Play	1. 感染予防ロールプレイ 2. 讲義「感染予防の基礎知識」 3. オリジナル感染予防策の作成 自分が運営に関わる空間・場の感染予防策を考えるプログラム	准看護師	齊藤恵美	R2.12.11	西会津町健康支援課 西会津町役場 大会議場	復命書 職員会議にて 伝達研修

24	令和2年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研究課程管理職員研修	<p>セッション1【基軸科目の講義と演習】 〈管理職員としてのキャリアデザインと環境整備〉</p> <p>セッション2【基礎科目の講義と演習】 〈福祉サービスの基本理念・倫理を推進する〉</p> <p>セッション3【重点科目の講義と演習】 〈組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成〉</p> <p>セッション4【啓発科目の講義と演習】 〈人材アセスメント〉</p> <p>セッション5【行動指針の策定】</p> <p>セッション6【キャリアデザインとアクションプランの策定】</p>	課長兼 リハビリテー ション係長	横谷貴之	R2. 12. 21 -22	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター講堂	復命書 復命書回覧
25	令和2年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研究課程管理職員研修	<p>セッション1【基軸科目の講義と演習】 〈管理職員としてのキャリアデザインと環境整備〉</p> <p>セッション2【基礎科目の講義と演習】 〈福祉サービスの基本理念・倫理を推進する〉</p> <p>セッション3【重点科目の講義と演習】 〈組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成〉</p> <p>セッション4【啓発科目の講義と演習】 〈人材アセスメント〉</p> <p>セッション5【行動指針の策定】</p> <p>セッション6【キャリアデザインとアクションプランの策定】</p>	看護係長兼 介護支援専門員	八幡一子	R2. 12. 21 -22	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター講堂	復命書 復命書回覧
26	令和2年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研究課程管理職員研修	<p>セッション1【基軸科目の講義と演習】 〈管理職員としてのキャリアデザインと環境整備〉</p> <p>セッション2【基礎科目の講義と演習】 〈福祉サービスの基本理念・倫理を推進する〉</p> <p>セッション3【重点科目の講義と演習】 〈組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成〉</p> <p>セッション4【啓発科目の講義と演習】 〈人材アセスメント〉</p> <p>セッション5【行動指針の策定】</p> <p>セッション6【キャリアデザインとアクションプランの策定】</p>	介護係長	鈴木あや子	R2. 12. 21 -22	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター講堂	復命書 復命書回覧
27	令和2年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研究課程管理職員研修	<p>セッション1【基軸科目の講義と演習】 〈管理職員としてのキャリアデザインと環境整備〉</p> <p>セッション2【基礎科目の講義と演習】 〈福祉サービスの基本理念・倫理を推進する〉</p> <p>セッション3【重点科目の講義と演習】 〈組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成〉</p> <p>セッション4【啓発科目の講義と演習】 〈人材アセスメント〉</p> <p>セッション5【行動指針の策定】</p> <p>セッション6【キャリアデザインとアクションプランの策定】</p>	介護係長	大山俊	R2. 12. 21 -22	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター講堂	復命書 復命書回覧

28	令和2年度社会福祉法人事務長等研修	講義 「社会福祉法人会計目的及び事務長等の役割等について」	事務員	伊藤智美	R2. 12. 23	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 郡山ユラックス熱海	復命書 復命書回覧
29	令和2年度管理職員のための プリセプター運用研修 業務の標準化とともに進める職場作り	1日目 1.【業務の標準化 総論】講義と演習 2日目 2.【よりよいマニュアル作り】講義と演習	介護副係長兼 介護支援専門員	小林栄里	R3. 1. 20- 21	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 「憩の森」相談室 リモート研修	復命書 復命書回覧
30	令和2年度管理職員のための プリセプター運用研修 業務の標準化とともに進める職場作り	1日目 1.【業務の標準化 総論】講義と演習 2日目 2.【よりよいマニュアル作り】講義と演習	看護副係長	佐藤かつ子	R3. 1. 20- 21	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 「憩の森」相談室 リモート研修	復命書 復命書回覧
31	令和2年度介護老人保健施設 リスクマネージャー養成講座Ⅱ期	1部 1.施設における防犯対策(夜勤中の対応を含む) 2.高齢者の虐待の防止について 3.口腔ケアの大切さ 4.老健の施設類型を上げる取組 2部 1.災害対応について 2.老健施設における在宅復帰率・回転率 3.ICTを用いた業務効率化 4.老健施設のリスクマネジメント 5.老健施設における感染症の発生に対する 3部 1.職員のキャリアアップについて 2.メンタルヘルスについて 3.外国人介護人材の受け入れの問題点と今後について 4.苦情解決の実際 5.リスクマネジメントと保険の機能 6.まとめ～望まれるリスクマネージャーとは	介護リーダー	佐藤留美	R3. 2. 3 ・8・15	公益社団法人全国老人保健施設協会 憩の森相談室（リモート研修）	復命書 復命書回覧
32	令和2年度介護老人保健施設 リスクマネージャー養成講座Ⅱ期	1部 1.施設における防犯対策(夜勤中の対応を含む) 2.高齢者の虐待の防止について 3.口腔ケアの大切さ 4.老健の施設類型を上げる取組 2部 1.災害対応について 2.老健施設における在宅復帰率・回転率 3.ICTを用いた業務効率化 4.老健施設のリスクマネジメント 5.老健施設における感染症の発生に対する 3部 1.職員のキャリアアップについて 2.メンタルヘルスについて 3.外国人介護人材の受け入れの問題点と今後について 4.苦情解決の実際 5.リスクマネジメントと保険の機能 6.まとめ～望まれるリスクマネージャーとは	介護員	國分幸夫	R3. 2. 3 ・8・15	公益社団法人全国老人保健施設協会 憩の森相談室（リモート研修）	復命書 復命書回覧

2. チームアプローチ研修会参加（地域包括支援センター主催）

テーマ	事例提供者・講師	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
超高齢者のターミナルのかかわりについて ～医療と介護の連携について～	西会津町訪問看護事業所	介護支援専門員、准看護師、介護員	4名	令和2年7月14日(火)	振り返りシートまとめ回覧
あなたの背骨、健康ですか？ ～腰痛・足の痛みやしびれ・骨のゆがみに注意～	福島県立医科大学 会津医療センター 教授 白土 修氏	介護支援専門員・看護師・介護員	5名	令和2年11月6日(金)	振り返りシートまとめ回覧

1. 令和2年度 施設内研修会

テーマ	開催主体	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
「接遇・コミュニケーションスキル」について	施設内研修委員会	全職種	29名	令和2年5月19日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「職場の人間関係・メンタルヘルスケア」について	施設内研修委員会	全職種	31名	令和2年6月16日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「事故防止対策」について	リスクマネジメント委員会	全職種 パート職員を含む	31名	令和2年6月24日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「高齢者の権利擁護」について	施設内研修委員会	全職種	31名	令和2年7月21日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「虐待防止」について	権利擁護委員会	全職種 パート職員を含む	43名	令和2年7月29日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「職業倫理とコンプライアンス」について	施設内研修員会	全職員	31名	令和2年8月18日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「衛生・食中毒感染」について	リスクマネジメント委員会	全職員 パート職員を含む	40名	令和2年8月26日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「多職種との連携」について	施設内研修員会	全職員	27名	令和2年9月15日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「褥瘡発生予防」について	排泄褥瘡対策委員会	全職員 パート職員を含む	38名	令和2年9月30日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

「感染症への対応」について	施設内研修委員会	全職員	26名	令和2年10月20日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「インフル・ノロを含む感染予防対策」について	リスクマネジメント委員会	全職員 パート職員を含む	41名	令和2年10月28日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「事故や緊急事態への対応」について	施設内研修委員会	全職員	26名	令和2年11月17日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「情報の取扱い」について	施設内研修委員会	全職員 パート職員を含む	40名	令和2年11月25日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「苦情対応」について	施設内研修委員会	全職員	24名	令和2年12月15日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「認知症ケア」について	施設内研修委員会	全職員 パート職員を含む	33名	令和2年12月23日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「身体拘束廃止」について	権利擁護委員会	全職員 パート職員を含む	29名	令和3年1月19日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「プライバシーの保護」について	施設内研修委員会	全職員 パート職員を含む	32名	令和3年1月27日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「看取り介護の実践」について	施設内研修委員会	全職員	23名	令和3年2月16日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「令和2年度成果報告会」	各係	全職員	31名	令和3年3月16日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

2. 令和2年度 事例検討会

テーマ	事例提供者	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
利用者の事例を通して、継続してケアを行っていくにはどうしたら良いか	介護係 黒澤 裕明	介護係 看護係	16名	令和2年9月9日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
センサーマットにより職員が訪室することについて 納得でき、安心できると思つてもらえるような支援方法について	介護係 三留 江利子	介護係 看護係 リハビリ係 ティケア係	21名	令和3年3月22日(月)	資料全員配付 グループワーク内容まとめ、振り返りシートまとめ回覧

3. 自己啓発支援制度(SDS)状況

内容	主催	対象職員	参加人数	期間	支援内容と結果
令和2年度介護福祉士国家試験勉強会	介護係	介護員	3名	令和2年12月～ 令和3年1月	場所・資料印刷の提供 2名合格
令和2年度調理師試験対策勉強会	栄養係	調理員	2名	令和2年10月～12月	場所・資料印刷の提供 1名合格
第1回厚生労働省の担当官が介護報酬改定(栄養関連)わかりやすく解説!管理栄養士・栄養士の現場はこう変わる(介護保健施設編)	栄養士会	管理栄養士	1名	令和2年3月21日	参加を可能とする為の勤務調整
令和2年度福島県介護支援専門員実務研修受講試験勉強会	リハビリ係他	受験予定者	10名	令和2年6月～ 令和2年10月	場所・資料印刷の提供
協会指定管理者(上級)研修(e-ラーニング)	日本理学療法士協会	理学療法士	1名	令和2年4月～ 令和2年12月	受講を可能とする為に勤務調整及び情報提供
フレイル予防人材育成研修プログラム (e-ラーニング)	日本理学療法士協会	理学療法士	1名	令和2年4月～ 令和2年12月	受講を可能とする為に勤務調整及び情報提供

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町介護老人保健施設「憩の森」

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	2	0	0	0	0	3
	家族	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	1	2	0	0	0	0	4

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		1	0	0	0	0	0	1
職員の態度 (接遇)		1	0	0	0	0	0	1
サービスの質 (内容)		2	0	0	0	0	0	2
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		4	0	0	0	0	0	4

令和2年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所(予防)療養介護事業所事業報告

1. 基本方針

運営規程及び平成27年1月に、町とにしあいづ福祉会が協働し共同公表した介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を展開した。具体的な実施報告は、別紙の「実施計画報告」の通りである。

2. 入所定員

50名(短期入所療養介護を含む)。

3. 利用対象者

要介護1から要介護5までの認定を受けた者。

4. 重点目標

(1) 認知症ケアの向上

認知症を有する利用者の増加に対応するため、認知症ケア及び認知症リハビリテーションを実施し、多職種によるチームアプローチにより、利用者のADL(日常生活動作能力)の維持・向上を推進した。また、エマニチュードの技法を導入し、センター方式を活用したアセスメントを実施した。過去の音楽や写真等を用いて、昔の記憶を活性化させる回想法のアプローチも実施した。

(2) 在宅生活・在宅療養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス計画に基づいた、身体機能・認知機能の維持向上を目的とした生活リハビリテーションの提供、栄養管理、在宅医療の継続支援を実施し、老健施設の有する機能を発揮することで在宅復帰を推進した。また、在宅復帰・在宅療養支援等指標において、在宅復帰率80.8%、ベッド回転率11.0%、重度者割合(要介護4・5の割合)51.7%にて運用できた。

(3) 職員の専門性の向上

新たなキャリアパスに基づき職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS(自己啓発援助制度)を推進することで、専門性・資質の向上を図った。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用については、職員の段位取得までには至らなかったが、テキストの内容を活用し各職員が介護技術をチェックし確認できる体制を整備した。また、SDSにおいては、専門職の資格取得に向けた勉強会を実施し、介護福祉士と調理師の資格取得者を輩出することが出来た。

(4) 環境の整備・健全経営

新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、施設内外の定期的な点検と修繕、職員トイレの洋式化等を実施することで、安心で働きやすい環境を整備した。ICT(情報伝達技術)の活用としては、施設内のWi-Fi(無線ネットワーク)環境整備によりオンライン研修体制を構築し、さらにパソコンを増設し事務処理の効率化を推進した。また、各法令や制度への理解を深める勉強会を実施し、適切なケアの見直しによりオムツ代や医薬品等を削減したことで健全経営を推進した。

令和2年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護(予防) 実施報告

(1)認知症ケアの向上

係・部門	実施計画内容	
相談	①事例検討会やカンファレンスを通して、多職種で認知症アセスメントを実施し、共通認識をもって、統一したケアを提供できる体制とする。	①ケアスタッフ会議にて事例検討会を実施し、認知症アセスメントを深めた。本人のニーズに近い生活が送れるよう、個別ケアの提供を試み、統一した関わりを持つことが出来た。
	②認知症ケアへの取り組みについて施設内に掲示し、来所者が正しく理解出来るように工夫していく。	②面会の制限等で家族の来所頻度は減ったが、窓口に認知症の方への接し方についての掲示をし、認知症の方が混乱しない対応をしていただけるよう理解を促した。
医療・看護	①個人の抱える疾患や認知症に起因する身体合併症を管理し、看護の視点から療養上の留意点をチームで共有していく。	①認知室に起因する経口摂取低下のある利用者に対して、医師に報告し必要な処置(点滴等)を行い、病状管理をしている。また、看護の視点から療養上の留意点をサービス担当者会議等で共有し、チームで認知症ケアを提供できた。
介護	①センター方式D領域シートを活用し、24時間の心身状態の変化をアセスメントすることで、予防的に関わるタイミングやケア内容を協議していく。また、積極的に施設内事例検討会へ事例を提出し、認知症ケアの向上を目指す。	①令和3年3月22日事例検討会を実施し、多職種で事例を深めることができた。また、提供事例を通して、他利用者への対応の振り返りの機会ともなった。認知症があっても説明と同意を行うことが、尊厳ある対応につながることを再確認できた。センター方式D領域シートの活用までは至らなかったため、次年度は焦点情報シートを活用し、本人を理解して、できる可能性を引き出す支援を行っていく。
	②にしあいづ物語100選や西会津町史を活用し、写真や史実から地域ならではの回想法を実施していく。	②レクリエーションの時間に昔の西会津町の映像を流したが、地域に懐りがあったため、リハビリ係と協働で昭和30年以降の町広報誌から選定した写真を用い、修正を行った。地域での出来事を回想しながら、利用者から当時の話題を引き出すことができた。
リハビリテーション	①チームアプローチによる認知症ケアを実現するために、センター方式を活用したアセスメントを実施し、ユマニチュードによる利用者それぞれの生活歴や性格に合わせた認知症ケアを行っていく。	①ユマニチュードについては、利用者それぞれの生活歴や性格に応じた対応を継続して実施することができた。また、センター方式の書式を使用したアセスメントについては、D1シートを用いて、10件の評価を実施した。次年度にはさらに導入を進めていく予定である。
	②認知機能の維持を図るために、古い音楽や写真・映像による回想法を用いたアプローチやパズル等の簡単な作業プログラムを提供できる体制を整備する。	②認知機能維持のため、介護係と協働し、西会津町の古い写真をカラー撮影した画像や動画を作成し回想法アプローチを実施した。また、パズル等の簡単な作業プログラムを提供できる体制を整備し、使用毎にアルコール消毒を行いながら実施した。
	③季節を感じてもらう為に、キュウリやスイカ、ナス等をベランダで育成し、収穫した作物に実際に触れてもらうことや季節に応じた音楽を流して環境整備を行った。また、デジタル機器の活用については、今年度より導入したタブレット端末を活用し、昔の動画や音楽を流し利用者に観察いただくアプローチを実施した。アロマについては、気分を落ちさせる効果があるフリージアの香りで実施したが、香料の調整が難しく安定運用には至らなかった。次年度には方法を改善し実施していく予定である。	
栄養・給食	①認知症による食事摂取困難者に対し、認知症の病態と摂食嚥下の5期に基づいたアセスメントを行うことで適切な食事支援へ繋げる。	①食事摂取困難者に対し、病態と摂食嚥下のどの段階に問題があるか複数書籍も活用しながらアセスメントを行った。しかし、問題の解決・改善策の提案までには至らなかった。次年度も、参考事例や書籍での研鑽や他職種からの情報も活用し、アセスメントの精度を上げることによって、問題に対する適切な提案・支援が出来るように取り組んでいく。

(2)在宅生活・在宅療養への積極的な支援と連携強化

実施計画内容		
係・部門		
相談	①各関係機関との協働アセスメントを実施し、在宅生活・療養を継続できるように支援していく。 ②町や診療所からの要請による緊急入所が必要なときの受け入れ先として対応していく。また、要請があった際は速やかに情報を収集し、各係へ伝達できるよう努める。	
	①3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催し、モニタリングの結果から在宅復帰のタイミングを多職種で協議し、在宅復帰に向けている。また、訪問時に写真や動画を撮影し、ICT(情報通信技術)を活用した他機関との情報共有を実施した。 ②要請があった場合は、ベッドの調整が可能な限り受け入れを実施した。各関係機関と連携し協働アセスメントし、利用終了後のフォローアップについても協議することが出来た。	
医療・看護	①医師による治療方針や療養上の留意点を個別援助計画へ記載し、疾患の予後予測や症状別の対処法を多職種間で共有していく。 ②在宅医療の継続支援のため、医療機関・訪問看護事業所と連携し、切れ目のない在宅医療体制を目指す。	
	①個々の抱える疾患に対する療養上の留意点を看護計画書に記載し、特に継続的な治療が必要な場合は、医師による治療方針や処置期間を明記するようにした。退所時サマリー(退所時看護要約)を活用することで多職種間と情報を共有することができ、利用中の様子を家族に伝え医療機関につなぐことが出来た。 ②利用中に状態変化があった場合には、医療機関・訪問看護事業所に情報を提供し、在宅医療体制を構築できた。在宅で療養している利用者への医療のサービスが滞らないように支援出来た。	
介護	①住環境や家族の介護力を勘案し、出来る限り本人の望む生活が継続できるように、在宅生活を想定したADL・IADL生活リハビリを個別援助計画に組み入れ実施する。 ②居宅サービス担当者会議へ出席し、施設での生活の状況や個別援助計画の評価を共有することで、各関係機関と協働し在宅療養支援を行う。	
	①マットレスやベッド幅等の福祉用具の選定や、ベッドの出入りの環境等を自宅に近づけるために、確認表の作成を行ったことにより、統一したケアや環境を提供することができた。個別援助計画には在宅生活がより快適に過ごせるような施設での取り組みや適切な介護方法を記載し、実施することができた。 ②居宅サービス担当者会議の開催時間によっては介護係での参加が多い現状ではあるが、実際に生活している自宅での様子を確認できる良い機会となっている。在宅の環境に近づけられるよう工夫し、必要に応じて環境面での助言等を行った。また、個別援助計画の評価については、検討の場を設けることはできなかったが、利用ごとに各担当が実施した。会議出席の際は、各係から情報を収集し、より良い在宅療養支援を継続することが出来た。	
リハビリテーション	①各関係機関・専門職と在宅復帰・在宅療養を意識した協働アセスメントや情報共有を行うために、在宅における利用者の動作や環境を映像にて確認できる体制を整備する。 ②在宅生活を想定したリハビリプログラムの作成やADL指導を行うために、必要時には在宅訪問を行い、効果的な福祉用具の選定や住環境設定を実施していく。 ③情報共有と連携の円滑化を図るために、福祉見聞録システムやICT(情報通信技術)を活用した記録管理を進める。	①今年度より導入したタブレット端末を使用し、在宅における住環境整備やアセスメントに基づく情報共有ができる体制を整備した。入所時には、在宅生活を想定した効果的な個別および生活リハビリテーションの実施につなげられた。また、退所時においても、在宅生活に活かせる動作指導や住環境への助言を実施することができた。 ②必要時には在宅訪問を行い、在宅生活の情報を他職種から収集し、環境やご本人の身体機能に応じた福祉用具を選定、環境調整を行った。また、在宅生活を想定したリハビリプログラムの作成やADL(日常生活動作)の指導も実施できた。 ③福祉見聞録システムとICT(情報通信技術)化によるリハビリ記録と計画書の管理体制を整備した。それにより、情報共有と連携の円滑化を進めることができた。
栄養・給食	①入所中から在宅を想定した食事内容の評価や生活環境の確認等を行い、在宅生活を見据えた食支援を実施していく。	①短期入所者の在宅への訪問が実施できていない為、次年度は、訪問による在宅での食事内容や生活環境の確認を支援相談員や居宅介護支援専門員と連携して取り組んで行く。

	<p>②特別食や咀嚼・嚥下対応食提供者、低栄養のリスクのある方を対象とした栄養指導や他事業所との情報共有の効率化の為、実際の食事の写真や注意点を記入したリーフレットを活用する。</p>	<p>③食形態が利用中変更となった利用者の家族へ、食事の様子やその内容について、他職種と協力し動画を活用した説明をすることができた。糖尿病食や誤嚥のリスクが高い利用者・家族へ、施設での評価と合わせて疾患や食事における問題点に関連するリーフレットを渡し、在宅での栄養・食生活の支援を行った。</p>
--	--	--

(3)職員の専門性の向上

係・部門	実施計画内容	
相談	①定期的に人権擁護員等を招き外部評価を受けることで、施設での取り組みが人権へ配慮できているか確認していく。	①人権擁護員の外部評価は、新型コロナウイルス感染症流行につき訪問活動は自粛しているとのことで未実施。施設内権利擁護委員会にて7月「職員のマナーチェックリスト」、9月「虐待の非チェックリスト」を実施。利用者への不適切な敬称やあだ名呼びはなくなったが、職員間ではいまだに確認されるため、標語を作成し掲示することで注意喚起を促している。
	②人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスにおいて、アドバンス・ケア・プランニングを実施できるよう推進していく。	②事前に本人・家族の意向を確認し、個別援助計画書に記載することで各職種との共有を図っている。希望があり、状態が安定していれば、外出・外泊の支援を行い、医療的なフォローしながら自宅で過ごす時間を設けられるようにしている。また、最期を家族と迎えられるよう、ターミナル期は個室を準備する等の環境を整備した。
医療・看護	①訪問看護事業所への在宅訪問研修を継続し、さらなる連携強化を図っていく。	①新型コロナウイルス感染症の影響により在宅訪問研修は実施出来なかった。次年度には感染流行の状況を鑑み検討していく予定である。訪問看護事業所等への情報提供については継続して実施出来た。
	②終末期における在宅医療・緩和ケアの知識や技術の向上ため、係内勉強会を実施する。また、そこで得たものを共有し、実践するため、多職種との研修会を企画する。	②業務マニュアルを用いた係内勉強会は実施できたが、多職種との研修会は実施できていないため、次年度に検討していく予定である。終末期と診断された際は、本人・家族が穏やかに最期を過ごせるように個室を準備する等の環境整備を実施した。また、適切な服薬管理による身体的疼痛の緩和や、心理的側面に配慮した支援からQOL(生活の質)を高め、病状の過程に良い影響を与えるケアを提供した。
介護	①介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用し、認定レベル4以上の介護人材を育成する。「知識」「実践的スキル」の両面から教育・指導・実践することで介護職全体の資質向上を図る。	①キャリア段位のテキストを活用し、各職員がチェック内容を確認できるよう、施設内への表の配備を行った。また、毎月実施される介護技術指導者向け研修会に参加し、介護スキルと指導スキルの向上を図った。令和3年3月10日にケアスタッフ会議において、腋窩介護についての伝達研修会を行い、根拠に基づいた介護を再確認することができた。SDS(自己啓発援助制度)においては、介護福祉士の資格取得に向けた勉強会を実施し、2名の資格取得につながった。
	②利用者満足度の向上のため、接遇・サービスマナー研修に参加し、ホスピタリティのある介護の定着を目指す。	②令和2年5月19日「接遇・コミュニケーションスキル」についての施設内研修会に参加した。心を込めた温かいもてなしが提供できるよう、独自の接遇マナーチェックリストを作成した。令和3年3月のケアスタッフ会議にて、係内で相手を思いやるホスピタリティについて確認し合うことができた。
	③心身の状態に変化がみられた際は、支援内容・ケア方法を再検討し、速やかに個別援助計画書に反映することで、ケアの統一を図っていく。	③状態変化がみられた際には、カンファレンスを実施し情報を共有することで統一したケアを行う体制を整備した。施設内サービス担当者会議後に速やかに計画書を作成することは概ね達成できた。

リハビリテーション	<p>①福祉用具の選定力と住環境の設定力を向上させるために、業者と連携を図りながら福祉用具に関する最新情報の収集を行っていくと共に係内勉強会を実施していく。</p> <p>②在宅生活支援において的確な助言と医学的根拠のあるリハビリを実施していくために、SDS・Off-JTへの支援体制の中、職業団体の研修等へ参加し専門技術の向上に励む。</p> <p>③スタッフのキャリアプランを支援していくために、それぞれのキャリアプランを把握していくと共に各自のプランを共有し、それに基づいたOJT体制の整備を進めていく。また、キャリアパスの適切な運用を実施していく。</p>	<p>①業者から収集した最新の福祉機器情報について、係内にて共有していく場を設けた。また、義肢装具業者との連携も図り装具に関する情報収集を実施し、職員の選定力向上に取り組んだ。係内での勉強会は、国際福祉機器展のテキストと動画を用いて実施した。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主にインターネットや電子論文等を用いて専門技術の習得を行った。また、オンライン研修が増加しているため、ZOOM（Web会議ツール）についての操作方法の勉強会を開催した。SDS（自己啓発援助制度）においては、オンラインにて職業団体主導の協会指定管理者研修（上級）やフレイル対策推進リーダー研修等を受講した。また、介護支援専門員試験の答練会（予想・過去問題）を計16回開催した。</p> <p>③スタッフのキャリアプランを支援するために、それぞれの希望するキャリアプランの把握、目標設定を把握する面談を実施した。それに対応したOJT体制を整備し、新入職員を対象とした達成度認表を作成し活用した。</p>
	<p>①キャリアパスを活用し、各自が求められるスキルを理解し、より具体的な目標設定を行い、目標達成に向けて意欲的に取り組む。</p>	<p>①10月より各自、期初目標を設定し、係会議での勉強会の企画・開催や業務改善に意欲的に取り組むことが出来た。また、調理師試験受験予定者対し、栄養係でSDS（自己啓発援助制度）による受験対策勉強会の開催（5回）や模擬・予想問題の提供等の支援を行い、1名の資格取得につながった。</p>
	<p>②所属する職業団体や全老健への事例・研究発表に取り組み、日常業務の見直しや資質向上を目指す。</p>	<p>②日常業務の見直しや資質向上の取り組みとして、動画を用いた勉強会を係全体で受講した。国で定めている食事摂取基準の改正点や高齢者の食事を作るにあたっての注意点を学ぶことができた。事例・研究発表については業務の都合により取り組むことができなかつた。</p>

(4) 環境の整備・健全経営

係・部門	実施計画内容	
事業	<p>①施設内外の修繕・劣化状況を把握するため、定期的な点検を実施し、必要に応じて修繕対応することで、利用者にとって快適な環境、職員にとって働きやすい環境整備に努めていく。</p> <p>②修繕や危険箇所がある際は、各部門から吸い上げ、対応する仕組みを整える。</p> <p>③物品等の収支状況を定期的に周知することで、職員一人一人の経費削減の意識付けに努めていく。</p>	<p>①利用者にとって快適な環境、職員にとって働きやすい環境整備のために、施設内外の定期的な点検を実施し、修繕・劣化が見られた場合には速やかに修繕を行った。また、当初予算で計上されていた、男子トイレの洋式化の実施、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金での感染予防対策における物品等の購入で、安心で働きやすい環境整備を実施した。次年度には、作成したチェックシートを活用することで、修繕箇所の確実な把握・情報共有を実施し、安心できる生活空間を整備していく。</p> <p>②各部門からの報告担当者を決定することで、修繕や危険箇所の報告を一元化で吸い上げ、対応できる仕組みを整えた。しかし、各部門からの速やかな報告には課題が残るため、次年度には報告経路と方法について検討していく。</p> <p>③各委員会での支出状況や各部門での予算計上品の購入状況を、適時、報告周知することで、職員の経費削減の意識付けに努めることができた。しかし、定期的な報告周知をしていく体制整備には至らなかったため、次年度には、定期的に情報共有ができる場を設定し、さらなる意識付けに努めていく。</p>

相談	<p>①計画的な入退所管理により、在宅復帰・在宅療養支援等指標における加算型の安定運用を目指す。</p> <p>②福祉見聞録システムを活用し、多職種とのケース共有が円滑に進行するよう努めていく。</p>	<p>①在宅復帰・在宅療養支援等指標において、在宅復帰率 80.8%、ベッド回転率 11.0%、重度者割合(要介護 4・5 の割合) 51.7% となっている。ケアマネ連絡会議を定例化し入退所状況を共有し管理することで、加算型を安定運用することができた。</p> <p>②福祉見聞録システム上で、モニタリング結果を同一様式に入力することで相互共有を図りブランディングへ繋げることができた。</p>
	<p>①職場の 5S(整理・整頓・清掃・清潔・継続)を継続する。特に、医療機器の定期メンテナンスと医薬品の在庫管理を徹底していく。</p> <p>②老健施設における適切な医療提供のため、制度理解の係内勉強会を開催する。</p> <p>③多職種との情報共有のため、福祉見聞録システムを活用した申し送り体制を構築する。</p>	<p>①職場の 5S(整理・整頓・清掃・清潔・継続)を継続し、特に、以下の 4 点の取り組みに力を入れてきた。 1. 薬品庫倉庫(施設)における薬品管理と整理収納 2. 薬剤を使用した医療機器の清掃 3. 手洗いやケア後の消毒に使用するアルコールスプレーの設置管理 4. 職員の身だしなみや接遇向上に関する啓発。 また、週 1 回の医療機器メンテナンスを習慣化したこと、異常の早期発見から修理・交換を速やかに対応することができた。さらに、医薬品の在庫管理担当者を決定し計画的に運用することで、感染症予防対策用品の管理を徹底し、在庫ロスを防ぎ経費を削減できた。</p> <p>②適切な医療提供のため看護業務マニュアル(看取り・急変時対応・病院受診・ショートステイ入退所対応)を整備した。そのマニュアルを用い係内にて勉強会を実施し、内容の確認を行なった。また、新しく配置された職員の指導にも使用することが出来た。</p> <p>③担当医の診察結果や、本人・家族への病状説明の内容を福祉見聞録システム内のケース記録へ転記することで、多職種が共有できる体制としている。また、申し送りの際にはケース記録を参考しながら実施することで、申し送り漏れを防ぐ体制を構築した。</p>
介護	<p>① PC の増設により記録業務の効率化を図っていく。</p> <p>② 福祉見聞録等にて、各部門の支援計画を参照し、個別援助計画書の整合性を図っていく。</p>	<p>①10月 8 日ノートパソコンが増設となり、福祉見聞録以外の書類(ショートステイ関係や計画書、勘定について等)が行えると共に、持ち運びができることにより食堂での見守りをしながらの記録業務を行えるようになった。継続して 3 台のパソコンを有効に使用し、利用者の直訴介護にあてる時間を確保した。</p> <p>②ショートステイ利用ごとの個別援助計画書、居宅サービス計画書との整合性を図りながら作成することが出来た。</p>
	<p>①老健加算型介護報酬を継続し健全な経営を行っていくために、その要件となる在宅復帰・在宅療養支援等指標におけるリハビリ職員配置点数を確保していく。また、在宅生活支援に向けたリハビリ計画・プログラム・評価を実施していく。</p> <p>②事務業務の効率化と働きやすい職場を整備するために、ICT を活用し、作業手順の見直しと業務の集約・簡素化を実施していく。職員の健康面においては、お互いが留意して気遣っていく職場風土を作っていく。また、それらの取り組みの実施状況について、係内で、その評価と改善を定期的に行っていく体制も整備していく。</p> <p>③介護保険や法令改正等に遅滞なく対応出来るために、介護報酬や法令等の改正情報を厚生労働省の介護報酬 Q&A や全老健の機関誌により把握し、係内にて勉強会を開催し共有化を図っていく。</p>	<p>①表計算ソフト(エクセル)を利用してリハ専門職員の配職時間の集計システムを作成した。それにより、老健加算型介護報酬取得に関わる配職時間と入所退所前後訪問指導時間を迅速に集計することができるとなり、加算要件点数を確保することができる体制を整備できた。</p> <p>②ICT の活用については、事務係と連携し施設内の Wi-Fi(無線ネットワーク)環境の整備を行い、リハビリ実施記録等においては、福祉見聞録の活用を進めた。また、現在のリハビリ係内の業務における作業手順の見直し、業務の集約・簡素化を実施した。健康面については、お互いが留意して気遣っていく職場風土を作るために、健康上に不安がある場合に勤務変更等にて対応できる体制を整備した。しかし、その評価と改善を定期的に行っていく体制整備には至っていないため、次年度に実施していく予定である。</p> <p>③新型コロナウイルス感染対策における介護保険や法令改正等に関する情報を共有できる機会を定期的に設け、令和 3 年度介護報酬改定に向けての勉強会を実施できた。</p>

栄養・給食	①使用食材の検討や仕込み方法の工夫、既存の厨房機器の活用を行い、それを基に業務工程を見直し、厨房業務の効率化を目指す。	②調理員から積極的に調理機器を活用した調理方法の提案があり、調理手順の記録と調理時の写真を残し係会議で共有ができた。それにより、調理業務の時間短縮にもつなげることが出来た。
-------	---	--

令和2年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護 利用実績

①短期入所療養介護利用実績

	実人数								延べ日数
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	
令和2年4月	0	1	3	16	10	10	4	44	484
令和2年5月	0	1	5	17	10	12	5	50	555
令和2年6月	0	1	6	14	10	11	5	47	537
令和2年7月	1	1	4	16	11	12	4	49	582
令和2年8月	2	1	5	15	11	10	5	49	604
令和2年9月	2	1	8	13	13	10	5	52	602
令和2年10月	0	2	10	12	12	10	7	53	628
令和2年11月	0	2	5	14	12	11	5	49	573
令和2年12月	0	2	4	13	13	9	5	46	506
令和3年1月	0	2	3	12	12	8	5	42	413
令和3年2月	0	2	4	12	12	7	4	41	431
令和3年3月	1	3	6	11	13	8	5	47	514
合計	6	19	63	165	139	118	59	569	6,429
前年度	(1)	(12)	(54)	(170)	(160)	(111)	(89)	(597)	(6,842)

②短期入所介護度年齢別状況

	~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	合計	
男性	要介護1	0	1	0	0	1	2	3	1	0	8
	要介護2	0	0	0	0	5	0	2	1	0	8
	要介護3	0	0	0	1	3	2	4	0	0	10
	要介護4	0	1	0	1	2	2	1	0	0	7
	要介護5	0	0	0	1	0	1	2	3	0	7
	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
小計		0	2	1	3	12	7	12	5	0	42(45)
平均		0	2.5	1	4	2.5	3	2.7	3.6	0	2.9(3)
女性	要介護1	0	0	0	1	1	4	2	2	0	10
	要介護2	0	0	0	0	3	2	5	0	1	11
	要介護3	0	1	1	1	0	1	2	1	0	7
	要介護4	0	0	0	0	1	3	5	3	0	12
	要介護5	0	0	0	0	0	1	3	2	0	6
	要支援1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	要支援2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
小計		0	1	1	3	5	11	18	8	1	48(61)
平均		0	3	3	2	2.2	2.5	3.12	3.3	2	2.8(3.1)
合計		0	3	2	6	17	18	30	13	1	90(106)
平均		0	2.6	3	3.2	2.4	2.7	2.9	3.4	2	2.8(3.1)

③入所・短期入所療養介護合算実績

*()内は前年度実績

	ロング	ショート	計	平均
令和2年4月	984	(912)	484	(559)
令和2年5月	972	(887)	555	(621)
令和2年6月	937	(823)	537	(630)
令和2年7月	936	(1,018)	582	(518)
令和2年8月	918	(936)	604	(571)
令和2年9月	870	(906)	602	(564)
令和2年10月	899	(914)	628	(614)
令和2年11月	884	(869)	573	(600)
令和2年12月	1,024	(960)	506	(561)
令和3年1月	1,127	(898)	413	(621)
令和3年2月	951	(942)	431	(497)
令和3年3月	1,001	(1,041)	514	(486)
合計	11,503	(11,106)	6,429	(6,842)
			17,932	(17,909)
			49.1	(49.0)

令和2年度

医療処置一覧

「憩の森」短期入所療養介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	124	97	213	151	102	167	248	136	91	120	65	73
経管栄養者人数	11	2	7	8	7	8	6	10	9	8	3	7
PEG・Mチューブ交換	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Hr.カテーテル挿入者人数	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4	0	2
Hr.カテーテル交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
膀胱洗浄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
臨時検査	3	2	3	0	15	4	7	6	3	3	2	4
点滴 Div	16	6	0	0	4	4	0	4	6	9	0	1
抗生素 iv	6	3	0	3	13	18	3	2	3	8	0	0
インスリン	0	1	4	7	15	27	19	17	3	0	1	1
受診	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

処置人数	1587件
経管栄養者人数	86件
PEG・Mチューブ交換	1件
Hr.カテーテル挿入者人数	9件
Hr.カテーテル交換	1件

膀胱洗浄	0件
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	2件
臨時検査	52件
点滴 Div	50件
抗生素 iv	59件
インスリン	95件
受診	3件

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：「憩の森」短期入所療養介護事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	1	0	0	0	0	0	2

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		1	0	0	0	0	0	1
職員の態度 (接遇)		1	0	0	0	0	0	1
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		2	0	0	0	0	0	2

令和2年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所(予防)リハビリテーション事業所事業報告

1. 基本方針

運営規程及び平成27年1月に、町とにしあいづ福祉会が協働し共同公表した介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を展開する。

2. 入所定員

一日あたり20名。

3. 利用対象者

要支援1から要介護5までの認定を受けた者。

4. 重点目標

(1) 認知症ケアの向上

認知症を有する利用者の増加に対応するため、認知症ケア・認知症リハビリテーションの内容として認知課題と運動課題（デュアルタスク）を取り入れたり、老いて歌おう全国ふれあい短歌大会（宮崎県）に利用者3名の応募を支援し、利用者の方に満足感を感じてもらうことが出来た。多職種によるチームアプローチを通じADLとIADLの維持向上につながった。

(2) 在宅生活・療養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス計画に位置付けられた各関係機関と協働アセスメントを実施し、居宅サービス担当者会議で協議・共有し、生活目標を達成していくための具体的なサービス内容を精査し実施することで、在宅生活に6名、サービス移行に5名の利用者が卒業することが出来た。

(3) 職員の専門性の向上

職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS（自己啓発援助制度）を推進することで、専門性の向上が出来た。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用し、段位に応じて求められる知識や技能などの共通の指標をもとに評価することは出来なかったが、介護技術指導者研修に毎月参加し係内で共有することで介護技術向上につなげた。

(4) 環境の整備・健全経営

脱衣所のフローリングの張替や新型コロナウィルス感染症緊急包摺支援交付金を活用し感染予防対策の環境整備が出来た。ICTの活用としては、施設内のWi-Fi（無線ネットワーク）環境整備によりオンライン研修体制を構築し、福祉見聞録の活用によって事務処理を効率化した。また、令和3年度介護報酬改定に向けて、係内にて勉強会を行うことで、改定への理解を深めることが出来た。

令和2年度西会津町介護老人保健施設「慈の森」通所リハビリテーション 実施報告

(1)認知症ケアの向上

係・部門	実施計画内容	
デイケア	①利用者の尊厳に配慮し、適切なケアが出来ているか自己評価の実施や人権擁護委員の外部評価を受ける。	①人権擁護委員へ外部評価を依頼したが、新型コロナウイルス感染予防徹底のため、訪問を自粛しているとの返答があり、実施することが出来なかった。施設内権利擁護委員会にて7月「職員接遇マナーチェックリスト」9月「虐待のチェックリスト」を実施した。
	②認知課題と運動課題を同時にを行うプログラム（デュアルタスク）を集団体操や合同レクリエーションに取り入れる。また、季節に合わせた装飾や音楽を流すことで認知症の進行や予防に努める。	②認知症進行予防のために、集団体操においては、季節に合わせた歌を唄いながら歌謡やメロディーに合わせ、足踏みや手拍子を行ったりするデュアルタスクプログラムを導入した。事業者内の装飾についても、利用者の俳句、季節感のある飾りつけを行うことで、四季を感じてもらえるように工夫した。認知症予防策として、全国ふれあい唱歌大会への応募を促したところ、3名の利用者が投稿を行った。後日投稿した短歌集を購入して利用者に提供したところ、興味を持った利用者が増え、レクリエーションに俳句を取り入れ、事業所内に掲示することで利用者に満足感を感じてもらうことが出来た。
リハビリテーション	①認知症予防や軽度認知障害（MCI）の改善を図るために、読み・書き・計算・クロスワード等の認知刺激を促すプログラムの提供体制を整備していく。介護予防運動器機能向上訓練・転倒予防体操においては、認知課題と運動課題を同時にを行うプログラム（デュアルタスク）を取り入れる。	①認知症予防や軽度認知障害（MCI）の改善を図るために、認知刺激を促すプログラムとして、パズルや計算問題、クロスワード等の作業の提供体制を整備した。介護予防運動器機能向上訓練や転倒予防体操における、認知課題と運動課題を同時にを行うプログラム（デュアルタスク）導入については、転倒予防体操には導入できた。しかし、介護予防運動器機能向上訓練には導入出来ていないため、次年度に導入していく予定である。
	②認知機能の維持を図るために、古い音楽や写真・映像による回想法を用いたアプローチやパズル等の簡単な作業プログラムを提供できる体制を整備する。	②年代別に合わせた音楽や西会津町の古い写真を加工した画像や動画を用い回想法アプローチを実施した。また、パズルや簡単な作業療法プログラムを提供できる体制を整備し、使用毎にアルコール消毒を行いながら実施した。
	③季節感を感じてもらう環境を整備するために、リハビリ室とベランダにて季節感のある飾り付けや園芸を行い、季節感を感じる音楽を流していく。また、認知機能への刺激を促すためにアロマやデジタル機器を活用したアプローチの試行も行っていく。	③季節感を感じてもらう為に、キュウリやスイカ、ナス等をベランダで育成し、収穫した作物に実際に触れてもらうことや季節に応じた音楽を流して環境整備を行った。また、デジタル機器の活用については、今年度より導入したタブレット端末を活用し、昔の動画や音楽を流し利用者に聴聴いたくアプローチを実施した。アロマについては、気分を落ち着かせる効果があるフリージアの香りで実施したが、香料の調整が難しく安定運用には至らなかった。次年度には方法を改善し実施していく予定である。
	④チームアプローチによる認知症ケアを実現するために、センター方式を活用したアセスメントシートを利用し利用者それぞれの生活歴や性格を踏まえた評価を実施すると共に、ユマニチュードを用いた対応を行っていく。	④エマニチュードについては、利用者それぞれの生活歴や性格に応じた対応を継続して実施することができた。また、センター方式の書式を使用したアセスメントについては、D1シートを用いて、10件の評価を実施した。次年度にはさらに導入を進めていく予定である。
栄養	①認知症による食事摂取困難者に対し、認知症の病態と摂食嚥下の5期に基づいたアセスメントを行うことで適切な食事支援へ繋げる。	①食事摂取困難者に対し、病態と摂食嚥下のどの段階に問題があるか閑窓書籍も活用しながらアセスメントを行った。しかし、問題の解決・改善策の提案までには至らなかった。次年度も、参考事例や書籍での研鑽や他機関からの情報も活用し、アセスメントの精度を上げることによって、問題に対する適切な提案・支援が出来るように取り組んでいく。

(2)在宅復帰・在宅療養への積極的な支援と連携強化

係・部門	実施計画内容	
デイケア	①生活目標が達成できるよう具体的なサービス内容を精査し、作成した個別計画に基づき実施する。	①サービス担当者会議で、利用者自身の達成できる目標を改めて確認し、多職種協働で作成した個別援助計画書を立案し実施した。そのことで通所リハビリを卒業し在宅生活に6名、他のサービスへ5名移行することが出来た。次年度も統合的にサービス内容を精査し、個別計画に基づき実施することで在宅生活

		が出来るように取り組む。
	②利用者の体調や生活環境に変化が見られた場合は、家族・各関係機関と情報共有し、対応方法を協議し支援する。	②臀部に床ずれが出来た方や自宅で転倒し右上腕部に表皮剥離が出来た方の写真を撮り、主治医や担当介護支援専門員に情報提供することで、支援方法の確認をすることが出来た。また、家族が骨粗鬆症の注射が出来ない場合には、主治医の指示にて利用毎に実施し、医療機関と連携し情報共有することが出来た。次年度も体調や状況に変化があれば、各関係機関と連携し対応方法を協議していく。
リハビリテーション	①在宅生活・療養支援に関する各施設や各種との連携をとるために、写真や動画等を用いた情報共有が出来る体制を整備し、利用者、ご家族への効果的な対応をしていく。また、業務の効率化を図るために、福祉見聞録システムを利用した記録管理体制を推進していく。	①タブレット端末を使用しての写真や動画等を用いた情報共有については、住宅環境等の把握について実施できた。また利用者へ動作指導等の際にも活用できた。福祉見聞録を利用した記録管理体制については、令和3年1月からデイケア係と連携しながら実施している。
	②個別リハビリプログラムと在宅におけるリハビリプログラムの効果的な連動を行っていくために、在宅リハビリプログラムを体系的に整備し、画像を用いた分かりやすいデザインに再編する。また、適時、在宅訪問を行うことで住環境を評価し、環境と福祉用具の選定と助言も実施していく。	②個別リハビリプログラムの内容を在宅リハビリプログラムと合わせて体系的に整備し、分かりやすいデザインに再編した。また、在宅訪問時には住環境を評価し、環境と福祉用具の選定と助言を実施した。
	③恵の森「基本方針」に基づき、町のリハビリ事業である訪問看護事業所リハビリ、機能訓練事業、地域リハビリ活動支援等について参画し協力体制をとっていく。	③「基本方針」に基づき、訪問看護事業所リハビリ、機能訓練事業に参画した。また、町との協力体制の中、地域リハビリ活動への支援、自立支援型地域ケア会議への助言等を行った。
栄養	①在宅を想定した食事内容の評価や生活環境の確認等を行い、在宅生活を見据えた食支援を実施していく。	①担当介護支援専門員と利用者宅へ訪問し、生活環境・食事環境を確認し、食事指導を行った。目標としていた体重減少や血糖値の低下などを達成することができた。
	②特別食や咀嚼・嚥下対応食提供者、低栄養のリスクのある方を対象とした栄養指導や他事業所との情報共有の効率化の為、実際の食事の写真や注意点を記入したリーフレットを活用する。	②糖尿病食や誤嚥のリスクが高い利用者・家族へ、施設での評価と合わせて疾患や食事における問題点に関連するリーフレットを渡し、在宅での栄養・食生活の支援を行った。また、新規の利用者・家族の方が施設の食形態がイメージしやすいよう、5種類（煮物・和え物・サラダ等）の独立の食形態例を一覧表にして作成した。

(3) 職員の専門性の向上

係・部門	実施計画内容	
デイケア	①スタッフのキャリアプランを支援していくために、それぞれのキャリアプランを把握することで、それに基づいたOJTの体制を構築し、キャリアパスの適切な運用を実施していく。	①令和2年7月よりキャリアパス運用開始となったが、当初は、自分の職責や職務内容について、迷いや戸惑いが見られたが、個人面接や係会議で職員の職責や職務内容を確認し合い、OJT体制の構築を図りながら、キャリアプランの支援を行った。
	②介護職は、根拠のある介護技術を確実に実施できるように介護キャリア段位制度を運用する。	②介護キャリア段位の取得は出来なかったが、介護キャリア段位テキストを活用し、根拠のある介護技術の定着を推進した。また、介護技術指導者研修会に毎月参加し、係内においても勉強会を実施した。
	③看護職は、感染症や事故等のリスクに柔軟に対応できるように、それらに関する研修会に参加し、振り返りを行い実施する。また、在宅療養上の医療情報を積極的に得る。	③令和2年8月11日町主催の新型コロナウイルス感染症対策「ふんわりチャンポン大作戦」に看護職員1名を派遣し、感染症や事故等に柔軟に対応出来るよう、振り返りや情報収集の大切さを学び、係内で共有した。また、在宅療養上の医療情報は、医療機関や通信機器で随時情報収集し、係会議で情報伝達して、情報共有を行った。
	④集団体操や合同レクリエーションについての業務成果を研究としてまとめ、全国老人保健施設協会の大会にて研究発表を行う。	④全国老人保健施設協会の大会（宮城県大会）新型コロナウイルス感染予防のため中止となったが、「恵の森」職員会議において、リハビリ係と協働で成果発表を行った。
リハビリテーション	①スタッフのキャリアプランを支援していくために、それぞれのプランを把握していくと共に各自のプランを共有し、それに基づいたOJT体制の整備を進めていく。また、キャリアパスの適切な運用を実施していく。	①スタッフのキャリアプランを支援するために、それぞれの希望するキャリアプランの把握、目標設定を把握する面談を実施した。それに対応したOJT体制を整備し、新入職職員を対象とした進捗確認表を作成し活用した。

	<p>②自立支援型地域ケア会議等において的確な助言や医学的根拠のあるリハビリを実施していくために、 SDS・Off-JTへの支援体制の中、職業団体の研修等へ参加し専門技術の向上に励む。</p>	<p>②自立支援型地域ケア会議への参画や助言に向けた研修は、オンライン研修として実施することが増加しているため、ZOOM（Web会議ツール）を使用した情報共有や情報発信の勉強会を開催し研修参加への準備を行った。SDS（自己啓発援助制度）においては、オンラインにて職業団体主催の協会指定管理者研修（上級）やフレイル対策推進リーダー研修等を受講した。また、介護支援専門員試験の答練会（予想・過去問題）を計16回開催した。</p>
	<p>③福祉用具の選定力と住環境の設定力を向上させるために、業者と連携を図りながら福祉用具に関する最新情報の収集を行っていくと共に係内勉強会を実施していく。</p>	<p>③業者から収集した最新の福祉機器情報について、係内にて共有していく場を設けた。また、義肢装具業者との連携も図り装具に関する情報収集を実施し、職員の選定力向上に取り組んだ。係内での勉強会は、国際福祉機器展のテキストと動画を用いて実施した。</p>
	<p>④転倒予防体操、介護予防運動器機能向上訓練の内容と満足度の改善を図っていくために、その調査と分析を実施し研究成果として全国老人保健施設協会主催の大会にて発表していく。</p>	<p>④転倒予防体操、介護予防運動器機能向上訓練の満足度調査や分析について実施し、全国老人保健施設協会主催の大会での研究発表を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症流行のため中止となり、職員会議の中で研究発表を行った。</p>
栄養	<p>①キャリアパスを活用し、各自が求められるスキルを理解し、より具体的な目標設定を行うことで、目標達成に向けて意欲的に取り組む。</p>	<p>①10月より各自、期初目標を設定し、係会議での勉強会の企画・開催や業務改善に意欲的に取り組むことが出来た。また、調理師試験受験予定者対し、栄養保でSDS（自己啓発援助制度）による受験対策勉強会の開催（5回）や模擬・予想問題の提供等の支援を行い、1名の資格取得につながった。</p>
	<p>②所属する職業団体や全健へ事例・研究発表に取り組み、日常業務の見直しや質質向上を目指す。</p>	<p>②日常業務の見直しや質質向上の取り組みとして、動画を用いた勉強会を係全体で受講した。国で定めている食事摂取基準の改正点や高齢者の食事を作るにあたっての注意点を学ぶことができた。事例・研究発表については業務の都合により取り組むことが出来なかった。</p>

(4) 環境の整備・健全経営

係・部門	実施計画内容	
事務	<p>①施設内外の修繕・劣化状況を把握するため、定期的な点検を実施し、必要に応じて修繕対応することで、利用者にとって快適な環境、職員にとって働きやすい環境整備に努めていく。</p>	<p>①利用者にとって快適な環境、職員にとって働きやすい環境整備のために、施設内外の定期的な点検を実施し、修繕・劣化が見られた場合には速やかに修繕を行った。また、当初予算で計上されていた、男子トイレの洋式化の実施、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金での感染予防対策における物品等の購入で、安心で働きやすい環境整備を実施した。次年度には、作成したチェックシートを活用することで、修繕箇所の確実な把握・情報共有を実施し、安心できる生活空間を整備していく。</p>
	<p>②修繕や危険箇所がある際は、各部門から吸い上げ、対応する仕組みを整える。</p>	<p>②各部門からの報告担当者を決定することで、修繕や危険箇所の報告を一元化で吸い上げ、対応できる仕組みを整えた。しかし、各部門からの速やかな報告には課題が残るため、次年度には報告経路と方法について検討していく。</p>
	<p>③物品等の収支状況を定期的に周知することで、職員一人一人の経費削減の意識付けに繋げていく。</p>	<p>③各委員会での支出状況や各部門での予算計上品の購入状況を、適時、報告周知することで、職員の経費削減の意識付けに繋げることが出来た。しかし、定期的な報告周知をしていく体制整備には至らなかったため、次年度には、定期的に情報共有ができる場を設定し、さらなる意識付けに繋げていく。</p>
デイケア	<p>①事務処理の効率化を図るために作業手順の見直しを行う。</p>	<p>①事務作業手順の見直しを行い、職員一人当たりの事務時間を短縮することが出来た。さらに事務効率化を図るため、11月より福祉見聞録を活用して個人記録を電子化した。</p>
	<p>②事業所内の整理・整頓・清潔を心がけ、働きやすい環境を整備する。</p>	<p>②職員同士声掛けを行うことで、書類などの整理や整頓、室内の掃除を行い、働きやすい環境を整えた。年度末には職員に文章で感謝の気持ちを伝えることで、お互い認めあえる事業所となった。</p>
	<p>③制度改正等を把握するため係内で勉強会を実施する。</p>	<p>③令和3年度介護報酬改定に向けた勉強会を実施し、係内にて情報共有を行った。</p>

リハビリテーション	<p>①通所リハビリテーションにおける介護報酬の安定化と健全な経営を行っていくために、増加傾向にある要支援利用者に対して、リハビリアプローチと機能訓練事業等の社会資源との連携強化により新規利用と修了における円滑な利用循環を促していく。</p>	<p>①他職種協働と社会資源との連携強化により、機能訓練事業や介護予防型地域サロン等へ移行や、在宅生活への支援を行うことができた。しかし、新規利用と修了における円滑な利用循環を促していく体制には至っていないため、次年度に継続して整備していく予定である。</p>
	<p>②事務業務の効率化と働きやすい職場を整備するために、ICTを活用し、作業手順の見直しと業務の集約・簡素化を実施していく。職員の健康面においては、お互いが留意して気遣っていく職場風土を作っていく。また、それらの取り組みの実施状況について、係内で、その評価と改善を定期的に行っていく体制も整備していく。</p>	<p>②介護予防訓練に関する書類については、作業手順の見直しを実施した。評価用紙の全電算化は終了することが出来た。福祉見聞録を利用した記録管理体制については、導入を完了した。健康面については、お互いが留意して気遣っていく職場風土を作るために、健康上に不安がある場合に勤務変更等にて対応できる体制を整備した。しかし、その評価と改善を定期的に行っていく体制には至っていないため、次年度に継続して整備していく予定である。</p>
	<p>③介護保険や法令改正等に遅滞なく対応出来るために、介護報酬や法令等の改正情報を厚生労働省の介護報酬Q&Aや全老健の機関誌により把握し、係内にて勉強会を開催し共有化を図っていく。</p>	<p>③新型コロナウイルス感染対策における介護保険や法令改正等に関する情報を共有できる機会を定期的に設け、令和3年度介護報酬改定に向けての勉強会を実施できた。</p>
栄養	<p>①使用食材の検討や仕込み方法の工夫、既存の厨房機器の活用を行い、それを基に業務工程を見直し、厨房業務の効率化を目指す。</p>	<p>①調理員から積極的に調理機器を活用した調理方法の提案があり、調理手順の記録と調理時の写真を残し係会議で共有ができた。それにより、調理業務の時間短縮にもつながることが出来た。</p>

①通所リハビリテーション利用実績

(令和3年3月31日現在)

項目 月	開所日数	実 績 人 員			実人数	1日平均 利用者人数
		男 性	女 性	合 計		
4月	25	216	260	476	102	19
5月	23	205	222	427	102	18.6
6月	26	225	252	477	99	18.3
7月	25	210	236	446	101	17.8
8月	25	203	208	411	99	16.4
9月	24	211	224	435	98	18.1
10月	27	226	255	481	98	17.8
11月	23	200	215	415	101	18
12月	23	206	233	439	103	18.3
1月	23	203	196	405	102	17.6
2月	22	169	233	402	100	18.3
3月	26	213	269	482	102	18.5
合 計	292	2487	2803	5296		
平均						18.1

②介護度別利用状況

(令和3年3月31日現在)

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男	1	6	14	11	10	5	1	48
女	9	14	17	7	5	2	0	54
計	10	20	31	18	15	7	1	102

③通所リハビリテーション年齢内訳

(令和3年3月31日現在)

年 齢	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	合 計
男性	4	4	5	17	13	5	48
女性	6	4	6	15	12	11	54
合計	10	8	11	32	25	16	102
比率(%)	10.7%	7.8%	10.7%	30.1%	25.2%	15.5%	100%

男 性	79.4 歳
女 性	90.4 歳
平 均	84.9 歳

最高
99歳
最低
53歳

④通所リハビリテーション地区別年間通所者実人数

2020.4.1～2021.3.31

性 別 地 区	野 沢	尾 野 本	群 岡	新 郷	奥 川	合 計
男性	30	19	8	11	18	86
女性	35	27	12	8	8	90
合 計	65	46	20	19	26	176

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：「憩の森」通所リハビリテーション事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	1	0	0	0	0	0	1

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度（接遇）		1	0	0	0	0	0	1
サービスの質（内容）		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	0	0	1

令和2年度　社会福祉法人にしあいづ福祉会
西会津町地域ふれあいセンター居住部門事業報告

<事業報告>

西会津町地域ふれあいセンター条例及び管理運営に関する規則に基づき、高齢のため、居宅において生活をすることに不安のある者に対し、介護支援機能や居宅機能及び、交流機能を総合的に提供し、利用者が安心して生活を送れるよう支援し、健康で明るくそして自分らしく過ごせるよう、高齢者の福祉を図るよう努めた。

<重点事項>

(1) 生活援助

入居者との対話を多く持つように心がけをし、毎日朝と夕方の居室訪問の際には、生活の不便さや健康状態の聞き取り、またニーズ等を伺い、自立支援を踏まえた援助等を行った。

また、通所介護・訪問介護等の介護サービス等の利用の際、他の事業所との連携が必要な場合など担当の介護支援専門員に連絡をし、相談やサービスの調整、また健康面での不安回避などに努めた。

入居者の方が快適な生活を営めるよう毎週水曜日には町内のスーパーへの買い物の送迎や、生活用品や食料品の代理購入等を行った。また、足が不自由でスーパーに行くことができない入居者においても、実際に自分で買い物ができるよう毎週月曜日に移動販売の手配をし、買い物援助を行った。

(2) 健康管理

日常の生活の中で手洗いうがいなどの励行や、1日2回の検温の実施、マスク着用等、感染の防止に努めた。

毎日朝と夕方の安否確認の際には、入居者の検温の実施と健康状態の聞き取りを行い、異状の早期発見に努めるとともに、異変があった際には受診の推奨と受診の送迎等を行い、早期の受診へ繋いだ。また、急変時には関係機関と連携を密にし、医師への往診依頼、家族への連絡、救急車の手配等スムーズに行うことができた。

施設内感染防止では、職員全体で感染防止に関する正確な知識を持ち、共通認識のもと協力し、防止に努めた。

令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉会
西会津町地域ふれあいセンター事業報告

月	日	地 域 ふ れ あ い セ イ ナ テ 利 用 状 況 ・ 事 業 報 告
4	1 2 5 7 8 19 26 28 29 30	辞令交付式 事務会議 退居者1名 サービス調整会議 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 退居者1名 退居者1名 退居者1名 退居者2名 退居者1名・事務局会議
5	7 13 28	事務会議 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 事務局会議
6	3 4 10 25	サービス連携会議 事務会議 職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 事務局会議
7	1 2 7 8 30	辞令交付式 事務会議 サービス調整会議 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 事務局会議
8	4 5 6 27	サービス調整会議 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 事務会議・エレベーター一点検 事務局会議
9	2 3 9 24 28	サービス調整会議 サービス連携会議・事務会議 職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 事務局会議 エレベーター一点検
10	1 6 7 16 26 29	事務会議 サービス調整会議 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 支援ハウス感染対策会議 支援ハウス感染対策会議 事務局会議

月	日	地域ふれあいセンター利用状況・事業報告
11	5 11 16 18 22 23 26 27 29 30	事務会議 サービス連携会議・職員会議〔ディサービスセンター・GH合同〕 エレベーター点検 支援ハウス職員オリエンテーション 入居者 3名 入居者 3名 事務局会議 入居者 1名 入居者 1名 入居者 2名
12	2 3 7 9 24	サービス連携会議・エレベーター点検 事務会議 理事会 職員会議〔ディサービスセンター・GH合同〕 事務局会議
1	4 6 7 13 28	仕事始め サービス連携会議 事務会議 職員会議〔ディサービスセンター合同〕 事務局会議
2	3 4 10 25 26	サービス連携会議 事務会議 職員会議〔ディサービスセンター・GH合同〕 事務局会議 エレベーター点検
3	3 4 9 10 26 28 30	サービス連携会議 事務会議 理事会 職員会議〔ディサービスセンター・GH合同〕 事務局会議 退居者 1名 評議委員会

○利用者の買い物援助を毎週月・水曜日、受診援助は必要に応じて行った。
〔受診援助は西診の場合に限り〕

令和2年度 地域ふれあいセンター居住部門利用状況

1・年齢内訳 【月初日現在】

単位：人

	男				小計	女				小計	合計
	76～80	80～85	86～90	91以上		76～80	81～85	86～90	91以上		
4月	0	1	1	0	2	1	2	1	2	6	8
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	2	1	0	3	0	0	3	3	6	9
1月	0	2	1	0	3	0	0	2	3	5	8
2月	0	2	1	0	3	0	0	2	3	5	8
3月	0	2	1	0	3	0	0	2	3	5	8
合計	0	9	5	0	14	1	2	10	14	27	41

月平均利用者数(前年度)：8.0名(9.0名)

2・介護度別利用 【月初日現在】

単位：人

	男			小計	女					小計	計
	自立	事業	介護度1		自立	事業	要支援1	要支援2	介護度1		
4月	1	1	0	2	0	1	2	2	1	6	8
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	2	1	0	3	1	1	1	3	0	6	9
1月	2	1	0	3	1	0	1	2	1	5	8
2月	2	1	0	3	1	0	1	2	1	5	8
3月	2	1	0	3	1	0	1	2	1	5	8
合計	9	5	0	14	4	2	6	11	4	27	41

3・入居の状況 【月初日現在】

単位：人

	1～3ヶ月以内	4～6ヶ月以内	7～12ヶ月以内	1年以上	計
男	0	3	0	0	3
女	5	4	0	0	9
計	5	7	0	0	12

4・退居状況 【月末現在】

単位：人

	男				小計	女				小計	計
	自宅	長期入院	死亡	その他		自宅	長期入院	死亡	その他		
4月	2	0	0	0	2	6	0	0	0	6	8
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2
合計	3	0	0	0	3	7	1	0	0	8	11

イ 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	ふんわりちゃんぽん大作戦	・基礎知識の確認 ・デモンストレーション ・ソーニング検討 ・手技の相互チェック	事務員	田崎 美香	令和2年8月11日	野沢体育館	復命 職員会議で発表

令和2年度苦情受付・解決状況

事業所名：高齢者生活支援ハウス

〈なし〉

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0